

症例報告論文の書き方

平成26年7月

目次

1 現代の日本語

1-1 歴史

1-2 文法

1-3 当用漢字→常用漢字

1-4 仮名づかい

1-5 記号

1-6 数字

1-7 単位

2 専門用語

2-1 矯正学

2-2 他の分野

3 文章の書き方、論文の書き方

3-3 投稿規定

3-4 書き方の要領

4 例文集

5 文章校正

1 現代の日本語

1-1 歴史

1-2 文法

1-3 当用漢字→常用漢字

1-4 仮名づかい

1-5 記号

1-6 数字

1-7 単位

2 専門用語

2-1 矯正学

2-2 他の分野

3 文章の書き方、論文の書き方

3-3 投稿規定

3-4 書き方の要領

4 例文集

5 文章校正

1-1 歴史

1-1-1 日本語の書き言葉の歴史 (田中牧郎 2013)

「日本語の書き言葉の歴史には、三つの大きなできごとがありました。第一の出来事は、古墳時代までに、文字がなかったところへ漢字が伝来し、漢字を用いて日本語の文章を書くことが始まったことです」・・・

「二つ目のできごとは、平安時代に漢字から仮名を作り出し、新しい書き言葉を創出したことです。平仮名と片仮名の二つを作り出し、」・・・ 「そして、三つ目のできごとは、明治時代に起った言文一致運動です。これによって、近代社会の実現にとって不可欠である、誰にでも読み書きできる書き言葉を作り出すことになりました。言文一致運動から百数十年を経た平成の時代に生きる私たちが使っている書き言葉は、やはり百年単位での新しい書き言葉を形成する流れの中にあると言えるでしょう」

「文字・表記が現代の姿になったのは、時代を追った連続的な変化というよりも、第二次大戦後に国が告示した、「現代かなづかい」(1946(昭和21年))、「当用漢字表」(1946(昭和21年))、「当用漢字音訓表」(1948(昭和23年))、「当用漢字字体表」(1949(昭和24年))などといった、一連の文字・表記の改革による側面が強いものです」

「これに対して、戦後においても政策による強力な改革は行われなかった文法や語彙は、『太陽』(明治から大正の月刊誌)の文章でたどることのできる変化の流れの延長に、現代の書き言葉のそれがあると見ることができます」



目次

前書き

1 内閣告示・内閣訓令

(1) 常用漢字表(平成22.11.30)	
(2) 外来語の表記(平成3.6.28)	
(3) 現代仮名遣い(昭和61.7.1,平成22.11.30 一部改正)	
(4) 送り仮名の付け方(昭和48.6.18,昭和56.10.1,平成22.11.30 一部改正)	
(5) ローマ字のつづり方(昭和29.12.9)	
[付] 文化審議会及び国語審議会答申「改定常用漢字表」,「外来語の表記」,「改定現代仮名遣い」,「改定送り仮名の付け方」の前文等	
文化審議会答申「改定常用漢字表」前文等(平成22.6.7)	209
国語審議会答申「外来語の表記」前文(平成3.2.7)	227
国語審議会答申「改定現代仮名遣い」前文(昭和61.3.6)	232
国語審議会答申「改定送り仮名の付け方」前文(昭和47.6.28)	235
[参考] 国語審議会答申「表外漢字字体表」(平成12.12.8)	238

2 公用文に関する諸通知

(1) 公用文における漢字使用等について(平成22.11.30 内閣訓令第1号)	283
(2) 公用文作成の要領(公用文改善の趣旨徹底について)(昭和27.4.4 内閣閣令第16号依命通知)	287
[参考] 内閣に係る公用文における拗音及び促音に用いる「や・ゆ・よ・つ」の表記について(通知) (昭和63.9.1 内閣閣第145号)	295
[参考] 外来語・外国語の取扱い及び姓名のローマ字表記について(依頼) (平成12.12.26 庁文国第44号)	296

3 法令に関する諸通知

(1) 法令における漢字使用等について(平成22.11.30 内閣法制局総第208号)	299
[参考] 法令における拗音及び促音に用いる「や・ゆ・よ・つ」の表記について(通知) (昭和63.7.20 内閣法制局総第125号)	309

4 文部科学省語例集

(1) 文部科学省用字用語例(平成23.3.31)	313
(2) 文部科学省公用文送り仮名用例集(平成23.3.31)	347

5 その他

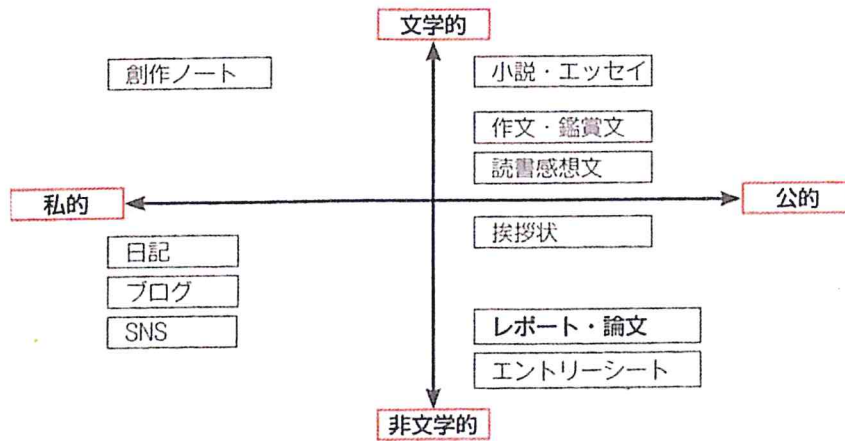
(1) 同音の漢字による書きかえ (昭和31. 7. 5) (国語審議会報告) 401

(2)-ア 「異字同訓」の漢字の用法 (昭和47. 6. 28) (国語審議会参考資料) 406

(2)-イ 「異字同訓」の漢字の用法例 (追加字種・追加音訓関連)
(平成22. 6. 7) (文化審議会答申参考資料) 418

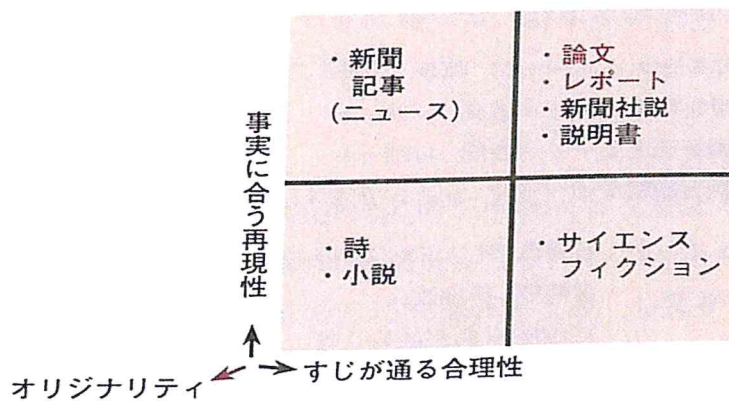
(3) 戸籍法及び戸籍法施行規則 (抄) 421

1-1-2 文章の種類 (桑田ら 2013)

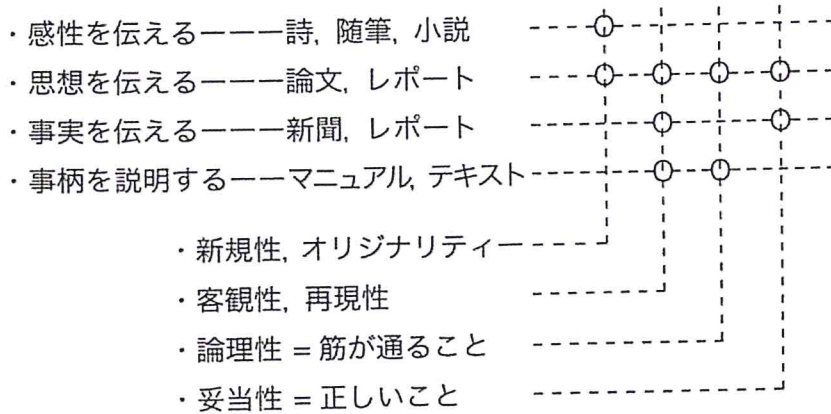


文章の種類と特徴 (1) (石坂 2012)

◆ レポート・論文の内容が備える要件を他と比べて見る.

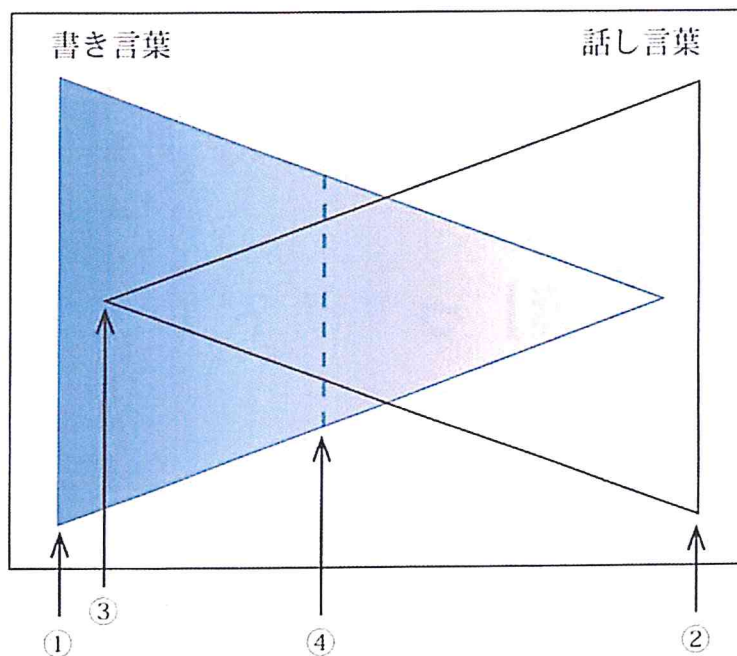


文章の種類と特徴（2）（石坂 2012）



1-1-3 「書き言葉」と「話し言葉」の区別

「書き言葉」と「話し言葉」の関係ですが、次ページの図のように三角形を入れ子に描いたのは「話し言葉」と「書き言葉」が歴然と分かれていないことを示しています。①に該当する「書き言葉」は、理工系の論文などで、②の「話し言葉」は日常的な会話（研究室での会話）などです。③あたりの



「話し言葉」というのは、例えば、卒論の発表です。「です・ます」体で話しますが、ほぼ「書き言葉」に近いものです。④は取扱説明書とか、一般向けの科学入門書などで語るような文章（「です, ます」）で書かれたものです。

1.2 文 体

「文体」というのは、簡単に言えば、文末が「です、ます」か「である」かの違いです。

例えば、

動詞 … 「行く」「行かない」「行った」「行かなかった」
形容詞… 「高い」「高くない」「高かった」「高くなかった」
～です… 「～である」

などを指します。理工系の専門の文章には「名詞+だ」という文末はありません。「である」を使います。新聞などでは「名詞+だ」とか「名詞止め」も使われています。

日本文の文末表現（松谷 2014） 2種ある。

常体表現（～だ。～である。）—論文、レポート、新聞記事

敬体表現（～です。～ます。）—手紙文、報告書、マニュアル

1-1-4 日本語の特徴（小山 2011）

- 主語は省略可。
- 述語が文末（主語との物理的分離）。
- 肯定か否定かが文末になって判明。
- 語順が自由。
- 修飾語は被修飾語の前。
- あいまい表現 / 間接表現の存在。
- 語種の多様性（和語・漢語・外来語）。
- 送り仮名は不定。
- 和語表現と漢語表現の並存。
- 同音異義語・同訓異義語・同義異字語が多数。
- 類義語・対義語のバリエーションが豊富。
- 敬語の存在。
- 多くの外来語（翻訳語とカタカナ語、アクロニム（頭字語））の混在。
- 字種の多さ（漢字・ひらがな・カタカナ・ローマ字 / ラテン文字・特殊な外国文字・数字・記号）。
- 多様な数字表記（漢数字・算用数字・時計数字）の存在。
- 句読点の表記が複数存在（カンマ / ゴマ点、ピリオド / 白丸：4種類の組合せ）。
- 横書きと縦書きの並存。
- 基本は、1文字当り全角分をベタ組み。

1-1-5 日本語の特徴 (福田 2014)

- ***孤立語** (こりつご) 動詞が活用しない言語であり、個々の単語が他に依存することなく孤立しているからです。単語の順序によって語の働きを示そうとする言語です。中国語、チベット語、タイ語があります。
- ***屈折語** (くっせつご) 語頭・語尾などが活用形を持つ言語です。インド・ヨーロッパ語族の言語、つまりラテン語、ギリシャ語、アラビア語をはじめ、欧州の言語の多くが主にこれに分類されます。英語もこの屈折語に分類されます。屈折語と呼ばれる理由は実質的な意味を担う部分と文法的な意味を担う部分の分離が難しく、語全体が屈折 (活用) することによって両者が示されるという意味です。例) he his him; see saw seen
- ***膠着語** (こうちゃくご) 最も複雑な言語、粘着語とも呼ぶ。日本語はこれに属す。朝鮮語、満州語、モンゴル語、トルコ語、フィンランド語、ハンガリー語などが膠着語で、スワヒリ語、ドイツ語、エスペラントなども膠着的性質を持つとされています。膠着語は、ある単語に接頭辞や接尾辞のような形態素を付着 (膠着) させて、その単語の文の中での文法関係を示す特徴を持ちます。例えば文末に「ない」がくっつくと、全文の意味が逆転してしまうなどがその一例です。例) 今日は残業をしよう。今日は残業をしようと思った。今日は残業をしようと思ったが、上司に誘われたのでやめた。

1-2 文法

1-2-1 詳しい国文法 (田近 2014)

1 章 文法の基礎



教科書のまとめ

1 ことばと文法

解説ページ P. 5

- **ことば** …… 自分の考えをまとめたり、それを人に伝えたりする働き。
- **口語と文語** …… 現在使っていることばは**口語**、古い時代のことばは**文語**。

2 ことばの単位

解説ページ P. 6

- **文章** …… 一まとまりのある内容を表したものの全体。
- **段落** …… 文章の中で内容ごとに区切られた一まとまり。
- **文** …… 句点(・)から句点までの一続きのことば。
- **文節** …… 意味がわかる範囲のできるだけ短い区切り。
- **単語** …… ことばとして役割をもつ最小の単位。

→ 一種の小説も一つの構句も、その長さにかかわらず、一つの文章。

→ 文法では、文章と文を区別する。

3 文節の働きと文節相互の関係

解説ページ P. 8

- **文節の係り受け** …… 二つの文節が互いに意味の上で結びついているとき、前の文節はあとの文節に係り、あとの文節は前の文節を受ける。
- **連文節** …… 二つ以上の連続した文節が意味の上で互いに結びつき、一まとまりとなって、一つの文節と同様の働きをするもの。
- **主題** …… 「**何(だれ)が**」と文の主題を示す文節。
- **述語** …… 「**どうする**」「**どんなだ**」「**何だ**」「**ある(いる・ない)**」と主題を説明

例 **ぼくは** **海へ泳いだ。**
 係る文節 → 受ける文節
 海へ泳いだ → 出かけた。

例 **先週の日曜日に** **ぼくは海へ泳いだ。**
 連文節 → 連文節 → 連文節 → 連文節
 先週の日曜日に → ぼくは海へ泳いだ → 出かけた。

例 **ばらの花が** **きれいに咲いた。**
 主題 → 述語
 ばらの花が → きれいに咲いた。

- **修飾語** …… ほかの文節をくわしく説明する文節。
- **接続語** …… 前の文や文節をあとに続け、前後の文や文節をつなぐ働きをする文節。
- **独立語** …… ほかの文節とは直接関係がなく、比較的独立している文節。呼びかけ、感動・応答・異言などを表す。
- **並立の関係** …… 二つ以上の文節が同じ資格で対等に並んでいる関係。並立の関係は必ず連文節になる。
- **補助の関係** …… 下の文節がすぐ上の文節に補助的な意味を添える関係。補助の関係は必ず連文節になる。
- **文節相互の関係** …… **主・述の関係、修飾・被修飾の関係、接続の関係、独立の関係、並立の関係、補助の関係の六種類。**

例 **ばらの花が** **きれいに咲いた。**
 修飾語 → 修飾語
 ばらの花が → きれいに咲いた。

例 **暖かいから、** **花が咲いた。**
 接続語 → 接続語
 暖かいから、 → 花が咲いた。

例 **まあ、きれいな花だ。**
 独立語 → 独立語
 まあ、きれいな花だ。

例 **トンネルや** **鉄橋が多い。**
 並立の関係 → 並立の関係
 トンネルや → 鉄橋が多い。

例 **明かりが** **消えている。**
 連文節 → 補助の関係
 明かりが → 消えている。

4 文の成分と文の組み立て

解説ページ P. 7

- **文の成分** …… 意味のまとまりによつてとらえた、文を組み立てている要素としての単位。
- **文の成分の種類** …… **主題(主部)・述語(述部)・修飾語(修飾部)・接続語(接続部)・独立語(独立部)の五種類。**一文節からなるものを、「**語**」と呼び、連文節からなるものを、「**部**」と呼ぶ。
- **文の組み立て** …… どんな複雑な文でも、**主題(主部)・述語(述部)・修飾語(修飾部)・接続語(接続部)・独立語(独立部)の五種類**の文の成分の組み合わせでできている。

例 **寒い夕日が** **とてもきれいに** **見えた。**
 主題(主部) → 修飾部(修飾語) → 述語(述部) → 独立部(独立語)
 寒い夕日が → とてもきれいに → 見えた。

例 **雨が降るので、** **行かない。**
 修飾部 → 独立部
 雨が降るので、 → 行かない。

例 **その人、** **左側を歩け。**
 独立部 → 独立部
 その人、 → 左側を歩け。

5 文の成分の位置と省略

解説ページ p.34

- 主語(主部)・修飾語(修飾部)は、述語(述部)の前に入る。
- 挿語(挿部)は、文の終わりにくる。
- 主語(主部)と修飾語(修飾部)の互いの位置は一定ではない。
- 接続語(接続部)・独立語(独立部)は、文のはじめにくることが多い。
- 述語(述部)がほかの成分より前にくることがある(倒置の文)。
- いずれかの成分が省略されることがある(成分の省略)。

例 きれいだねこの風景は。
 例 この絵は美しい。しかも、
 (この絵は)力強い。
 主部の省略

6 文の成分の照応

解説ページ p.36

- 主語(主部)と述語(述部)が正しく照応しないと、読みにくくなる。
- 文の成分の位置や読点(、)の打ち方などが正しくないと、意味が曖昧になる。

7 単語の種類

解説ページ p.38

- 自立語……一単語で一文節をつくり、それだけで意味がわかる単語。
- 付属語……自立語のおとについて文節の一要素となる単語。
- 活用……用いられ方によって、単語の終わりの部分が変わること。
- 品詞分類……自立語か付属語か、活用があるかないかなどの文法上の性質によって、単語を品詞に分類する。

例 名詞・動詞・連体詞・接続詞・感
 動詞・助動詞・形容詞・形名動詞・
 助詞・助動詞の上品詞がある。

8 指示語

解説ページ p.44

- 指示語……物事や性質・状態などを直接に指し示すことば。「こそあれ」「は」ともいう。

例 (これ)名詞・(この)連体詞・(い)う(副詞)・(こんな)形容動詞

1 ことばと文法

1 ことばの働き —— 自分の考えや感情を人に伝える

自分の考えをまとめたり、自分の感情を人に伝えたりするとき、私たちはことばを用いる。

伝達の働き以外に、私たちが見たり感じたりしたことを理解し、物事を考えるのにも、ことばは大切な働きをしているのである。

2 ことばの表し方 —— 音声や文字で表す

ことばは、音声や文字によって表される。音声で表されたことばは、その場かきりであることが多いが、文字に表されたことばは、あとまで残り、繰り返し読むことも、遠くにいる人に伝えることもできる。

3 口語と文語 —— 私たちの使っていることばは口語

現在 私たちが日常生活で使っていることばを口語といい、口語で書かれた文を口語文という。それに対して、古い時代のことばを文語、それだけで書かれた文を文語文という。本書では口語の文法を扱う。

4 文法を学ぶ目的 —— ことばの深まりを理解する

文法を学ぶのは、ことばの並べ方や切り方など、ことばの使い方の深まりを知り、ことばを正しく使うためである。

例題が解

次の文章中の()にあてはまることばを、あとのア～クから選んで、記号で答えなさい。

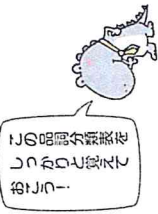
ことばは、音声や文字で表されるが、音声も文字は無関係ではない。例えば、「花」という()は、「カ」という音と「はな」という意味を表しているように、音と意味との関係を表す文字である。このような文字を()という。また()の「カ」や()の「は」などの文字は、音を表すが、特定の意味を表さない。このような文字を()という。「カ」という音は()では()と表すが、kやaのような文字も単独で表している。

- ア 表音文字 イ 指し文字
- ウ 表意文字 エ ひらがな
- オ かたかな カ 漢字
- キ ローマ字 ク 標準語

※解答 文字には、表音文字と表意文字があること、日本では国語を表すのに、漢字・ひらがな・かたかなの3種類の文字を用いること(ローマ字を用いる場合もある)などをよく理解しておく。

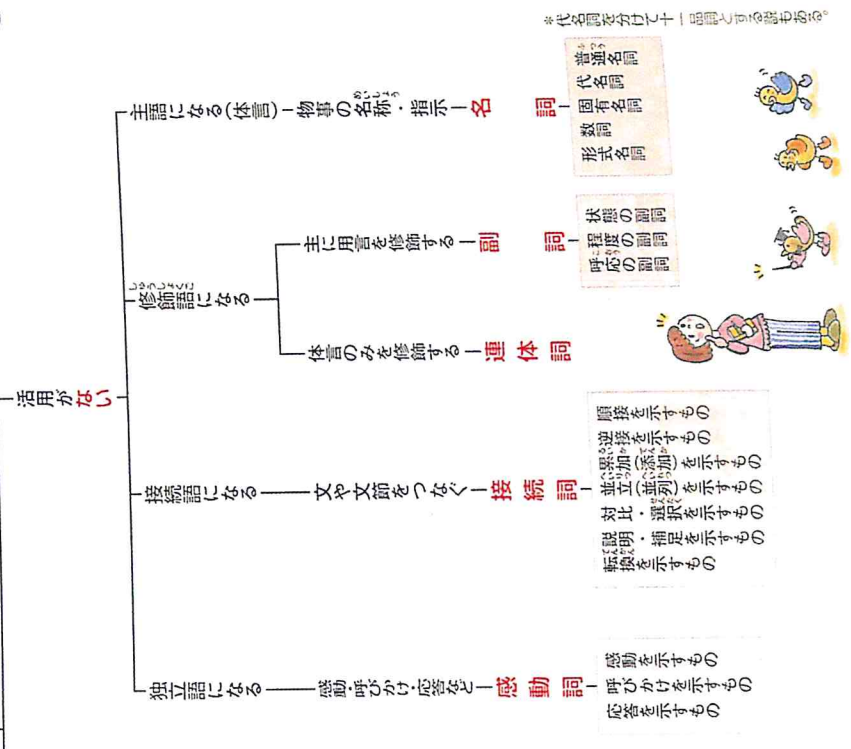
①カ ②ウ ③オ ④エ ⑤ア ⑥キ

品詞分類表



単独で一つの文節をつくることのできる。

自立語

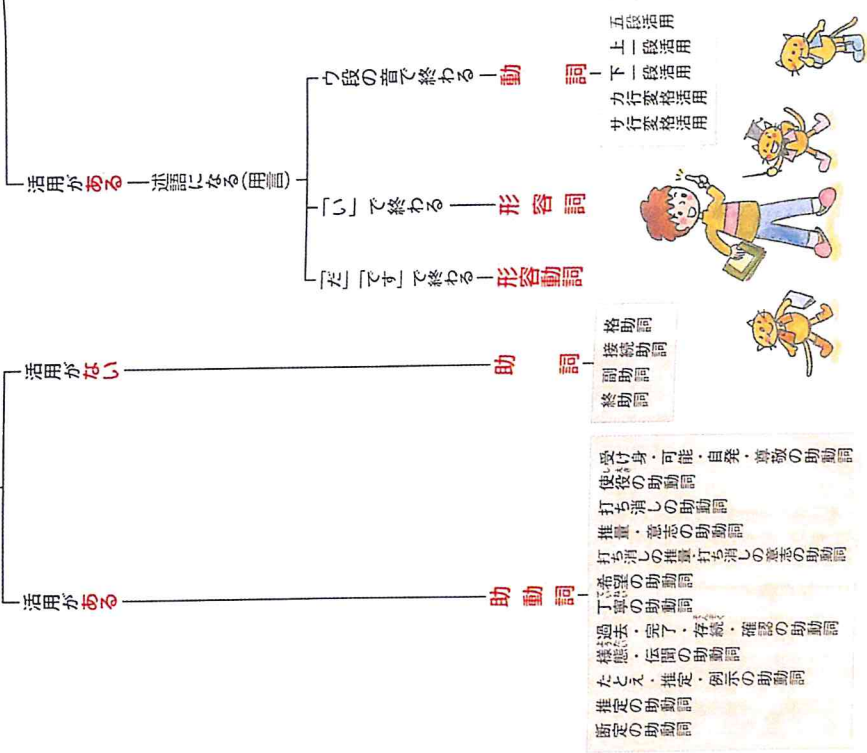


*代名詞を分けて十一品詞とする説もある。

単語

自立語の傍にこのことこの文節をこく。

付属語



4 それぞれの品詞の性質 — 自立語が八種類、付属語が二種類

自立語	品詞名	性質	例	参照
名詞	名詞	事物や物の名称を表す。	サッカー・時計・犬・東京・万葉集・一つ・五羽・いくつ・ここ	P. 61
副詞	副詞	状態や程度を表し、おもに連用修飾語となる。	そつと・ときどき・ふと・とても・決して	P. 73
連体詞	連体詞	様子や性質を表し、連体修飾語となる。	この・わが・あらゆる・大きな	P. 73
接続詞	接続詞	前後の文や語をつなぐ働きをする。	だから・しかし・つまり・さて	P. 85
感動詞	感動詞	応答や呼びかけ、感動などを表す。	はい・もしもし・ああ・こんにちは	P. 90
動詞	動詞	動作・作用・存在を表し、言い切る場合には、ウ段で終わる。	買う・泣く・起きる・着る・受ける・寝る・来る	P. 96
形容詞	形容詞	様子・性質を表し、言い切る場合には、「い」で終わる。	楽しい・赤い・ない・美しい・怪しい	P. 126
形容動詞	形容動詞	様子・性質を表し、言い切る場合には、「だ」「です」で終わる。	広かだ(広かです)・細かだ(細かです)・真つ赤だ(真つ赤です)	P. 126

付属語	品詞名	性質	例	参照
助詞	助詞	自立語のあとについて、語と語の関係を示したり、いろいろな細かい意味を添えたりする。	が・の・を・に・で・は・でも・ので・て・は・も・こそ・だけ・かな・ぞ・よ・ね	P. 207
助動詞	助動詞	自立語のあとについて、いろいろな意味を添える。	れる・られる・せる・させる・ただ・た・い・ようだ・です	P. 153

特に、名詞を体言、動詞・形容詞・形容動詞の三つを用言という。

5 品詞の転成 — 別の品詞になること

ある単語が、もとの品詞の意味を失って、ほかの品詞としての意味をもつようになることを、品詞の転成という。

- 例 よく遊び、よく学ばなさい。(「遊び」は動詞)
- 子どもらしい遊びをしまさい。(「遊び」は名詞)
- 例 友達が転校してとても悲しい。(「悲しい」は形容詞)
- 悲しさに耐えきれずに泣いてばかりだ。(「悲しむ」は名詞)
- 彼女はとても悲しがる。(「悲しがる」は動詞)
- 例 彼は空気があたたかだ。(「あたたかだ」は形容動詞)
- 彼はあたたかみのある人だ。(「あたたかみ」は名詞)



品詞にこころは、そとにわたる。くわしく説明しよう。

例題研究16

次の文章中の一線部の語を、①動詞、②形容詞、③形容動詞に分類しなさい。
その夏はほとんど雨が降らず、暑かつた。しかし、私は、図書館の静かな一室で、終日勉強にげんだ。

考え方 用言はすべて活用するから、言い切りの形に直して、最後の音で判断する。降らず・降る、暑かつ・暑い、静かな・静だはげん・はげち。

ポイント ● 言い切りの形
動詞はウ段の音
形容詞は「い」
形容動詞は「だ」「です」で終わる

例題研究17

次の文章中の一線部の語から、あとの①～④にあたるものをそれぞれ選びなさい。
杜江は驚いて、伏せていた目を上げました。ところが、さらに不思議なことに、あの老人はどろどろ泣いたが、もうあたりには、それらしい影も見当りません。そのかわり、空の月の色は昔よりもなお白くなって、休みない往來の人の通りの上には、もう夏の早いこもりがひらひら舞っていました。

- ① 名詞 ② 動詞 ③ 形容詞 ④ 形容動詞

例題研究17

次の文章中の□にあてはまる記号や語を答えなさい。
ア 選手たちは軽快に動き、調子はよさうだった。
イ 選手たちの動きは軽快で、調子はよさうだった。
右の例文の「線部」について考えてみると、①□の「動き」のほうは「動詞の「動く」の活用形で、連語となっており、その主語は、②□である。「方」③□の「動き」のほうは、もともとの動詞の意味から転じて、「動くこと・動作」といった意味を表す名詞で、用法上でも付属語の「④□」を伴って主語となっている。その連語は「⑤□」である。

考え方 品詞が転成すると、文法上の性質も変わる。動詞は連語になり、名詞は単語になるといって、大きな性質を覚えておくとうい。

- ① ア ② 選手たちは ③ イ ④ は ⑤ 軽快で

例題研究18

次の文章中、動詞から転じた名詞の右側に一線をつけなさい。
① さすがに、見らしい着ち着きいたわりがあった。
② 見は、ぎるのかわりに、地上に真逆にして置いてある自分の朝手をさした。

8 指示語

指示語は、物事や性質・状態などを直接指示することばで、「こそあど」**ことば**ともいう。指示語は、自分に近いものを指している場合にいる**近称**、相手に近いものを指している**中称**、自分からも相手からも遠いものを指している**遠称**、遠近が決まっていないものをいう**不定称**の四つに区別できる。指示語には、名詞(代名詞)・形容動詞・副詞・連体詞があるが、特に、名詞は、指示代名詞と呼ばれる。

1 指示代名詞 — 物事・場所・方向を指示する代名詞

	近称	中称	遠称	不定称
物事を指示するもの	これ	それ	あれ	どれ
場所を指示するもの	ここ	そこ	あそこ	どこ
方向を指示するもの	こちら こつち	そちら そつち	あちら あつち	どちら どつち

2 形容動詞 — 「くだ」となり、性質・状態を指示する

「**こんなだ**」「**そんなだ**」「**あんなだ**」「**どんなだ**」の四つで、性質・状態を指示する。これらの形容動詞には連体形がなく、体言などに連なる場合は語幹そのものを用いる(5)形。語幹部分を連体詞とする説もある。

例 そんな話は、聞きたくなかった。

こんなことになるなんて、思ってもみなかった。

3 副詞 — 性質・状態を指示する

「**この**」「**その**」「**あの**」「**どの**」の四つで、性質・状態を指示する。

例 どういう意味かわかりません。

先生は、ああおっしゃっていますが、どう思いますか。

4 連体詞 — 「の」となり、物事を指示する

「**この**」「**その**」「**あの**」「**どの**」の四つで、すべて「の」の形になっている。物事を指示する。

例 ほら、あの話を覚えてるかしら。

どの辞書を使ってもいいんですか。

次に指示語をまとめておこう。

	こ(近称) 自分に近い	そ(中称) 相手に近い	あ(遠称) 自分と相手 から遠い	ど(不定称) わからない	品詞
物事	これ	それ	あれ	どれ	名詞 (代名詞)
場所	ここ	そこ	あそこ	どこ	
方向	こちら こつち	そちら そつち	あちら あつち	どちら どつち	
物事	この	その	あの	どの	連体詞
性質・ 状態	こう	そう	ああ	どう	副詞
	こんなだ	そんなだ	あんなだ	どんなだ	形容動詞

例題研究 18

次の各文中から指示代名詞を抜き出し、物事・場所・方向のうしろを指し示すかを考え、分類しなさい。

- ① あれは、どこから来たかしら。いつの間にか、その地壇を築かしているわ。
- ② ほくは、どちらの家に行けばいいんですか。わからなければここで待ってます。
- ③ このパンは、その店で買ったの。そつちじゃないよ、こつちの店だよ。

解答 指示代名詞の数は少なく、近称・中称・遠称・不定称がそれぞれ「こ」「そ」「あ」「ど」で始まることに注目すれば、取り出すのは場しだいだろう。ただし、③の文中の「このパン」の「この」は連体詞で、「これ」などのような代名詞ではないことに注意する。

- 物事 ① あれ
場所 ① ① こ、そ ② こ ③ こ
方向 ② ② ち、そ ③ ち、こ

例題研究 19

次の各文中から指示語を抜き出し、品詞を答えなさい。

- ① ああ言えば、こう言う。君はいつもそんなことばかり言うね。
- ② こつちへ連れておいで。あんなに飾がついているじゃないか。
- ③ どう説明したらいいのかしら。私は、この部屋から、歩も外に出ていないって。
- ④ あちらの水は、どつちへまわしますか。こんなにくさくさ水があるよ、そつちもこつち水だけではすね。
- ⑤ とても大きな地震だったよ。その時の恐怖は、どんなだったか。

解答 名詞・連体詞、副詞は出しにくい。形容動詞は活用するので、注意が必要だ。しかも、指示語の形容動詞には連体形がなく、体言などに連なる場合は、語幹そのものを用いる。また「ああ」は、ほかの副詞の「こ」「そ」「どう」と少し形が違ふので注意しよう。

- ① ああ 副詞、こう 副詞、そんな 形容動詞(連体詞)、こつち 名詞、あんなに 形容動詞、③ どう 副詞、この 連体詞、④ あちら 名詞、どつち 名詞、こつち 名詞、あんなに 形容動詞、そつち 名詞、こつち 名詞、⑤ その 連体詞、どんなだ 形容動詞

練習 17

解答 別冊 P. 4

次の各組の——線は、どちらが指示語ですか。指示語のほうを線で、品詞を答えなさい。

- (1) ① そつちだてだよ。覚えておいてね。
② そつち、そんなことがあつた。
() ()
- (2) ① ああ、なんて美しい川だ。
② ああ、いうことをしてはいけないよ。
() ()
- (3) ① これこれ、そのお姫さん。
② へえ、これが、あつちのお話か。
() ()

2章 名詞(体言) — 活用のない自立語



名詞の区別ができれば
はなすことがポイント!

教科書のまとめ

1 名詞の性質

解説ページ p.61

- 名詞とは……物事の名称を表す単語。体言といふ。
- 名詞の性質……自立語で活用がなく、単独で主語になる。

2 名詞の種類

解説ページ p.61

- 普通名詞……一般的な物事の名称を表す。
 - 例 犬 家 心 知識
 - 代名詞を一つの独立した品詞として扱うこともある。
- 代名詞……人や物事の名称を言わず、直接にその人や物事を指し示す。
 - 例 野口英世 東京 宮上 山
- 固有名詞……人名・地名など、ただ一つしかないものの名称を表す。
 - 例 一つ 五羽 第九 いくつ
- 数詞……ものの数・量や、順序などを表す。
 - 例 こと ところ もの はす
- 形式名詞……もとの意味が薄れて、補助的・形式的に用いられるもの。

3 代名詞の種類

解説ページ p.64

- 人称代名詞……人を指し示す代名詞。
 - 例 私 君 こいつ 彼 だれ
- 指示代名詞……物事・場所・方向を指し示す代名詞。
 - 例 こ それ あちら ところ ちこち

4 名詞の働き

解説ページ p.65

- 名詞の働き……主語・述語・修飾語・独立語になる。

3章 副詞・連体詞 — 活用のない自立語



副詞の呼称は重要項目。
しっかりと覚えよう！
連体詞は他の品詞と区別
しやすいので注意。

教科書のまとめ

1 副詞・連体詞の性質

解説ページ p.73

- 副詞・連体詞とは……他の文節を修飾し、意味をくわしく定める単語。
- 副詞・連体詞の性質……自立語で活用がなく、副詞は主として連用修飾語になり、連体詞は単独で連体修飾語になる。

2 副詞の種類と働き

解説ページ p.74

- 次の三つに分類される。
 - 状態の副詞……動作・作用の状態をくわしく表す。
 - 例 いきなり立ち上がった。
 - 例 ザーンと降る。(擬声語)
 - 例 じろりとくらげ。(擬態語)
 - 擬声語(擬音語)・擬態語も状態の副詞に入る。
 - 程度の副詞……物事の性質や状態などの程度を表す。
 - 例 今朝はかなり暖かい。
 - 例 かなり前の話です。
 - 例 もっとゆっくりに読め。
 - 程度の副詞は体言の文節や他の副詞を修飾することもある。
 - 呼応の副詞……下の受ける文節に特別な言い方を要求する。
 - 疑問(反語)・推量・仮定条件・打ち消し、打ち消しの推量、たとえ・願望などの言い方と呼応する。
 - 例 どうしておそろくもしまでどうか

3 連体詞の種類と働き

解説ページ p.78

- おおな連体詞……わが・この・その・あの・どの・大きな・おかしな・たいした・とんだ・ある・あらゆる・いわゆる・いかなる・米なる

4 章 接続詞・感動詞 — 活用のない自立語



接続詞の活用は、
「し」か「り」を「と」に
変換する。

教科書のまとめ

1 接続詞の性質と働き

接続詞 p. 65

- 接続詞とは……前後の文節や文をつなぐ単語。
- 接続詞の性質……自立語で活用がなく、単独で接続語になる。

2 接続詞の種類

接続詞 p. 67

- 順接……前の事柄が原因・理由になり、その結果は結果があとにくる。 → 例 だから そこで
- 逆接……前の事柄と逆になるような事柄があとにくる。 → 例 しかし だが
- 累加(加)……前の事柄に、あとの事柄がつけ加わる。 → 例 なお しかも
- 並立(並列)……前の事柄とあとの事柄が、並んである。 → 例 また および
- 対比・選択……前の事柄とあとの事柄の、どちらかを選ぶ。 → 例 せよとも または
- 説明・補足……前の事柄についての説明や補足。 → 例 つまり なげなら
- 転換……話題を変える。 → 例 ところで さて

3 感動詞の性質と働き

感動詞 p. 69

- 感動詞とは……感動・呼びかけ・応答などを表す単語。 → 例 ああ えつ(感動)
- 感動詞の性質……自立語で活用がなく、単独で独立語になる。 → 例 おい ろしよし(呼びかけ)
- 感動詞の種類……感動・呼びかけ・応答のほか、あいさつ・かけ声を表すものがある。 → 例 いえ ええ(応答)

5章 動詞 — 活用のある自立語



動詞の活用や活用形の用法・動詞の種類についての知識をしっかりと押さえておこう。

教科書のまとめ

1 動詞の性質

解説ページ p.96

- 動詞とは……物事の動作・作用・存在などを表す単語。
- 動詞の性質……①自立語で活用がある。
②単独で述語になる。
③言い切った形が五十音図のワ段の音で終わる。

例 買う(う) 遊ぶ(あ) 読む(よむ)

2 動詞の活用

解説ページ p.97

- 活用形……未然形・連用形・終止形・連体形・仮定形・命令形の六つ。
- 語幹……用いられ方によらず、常に形が変わらない部分。
- 活用語尾……用いられ方によって、形が変わる部分。

語幹と活用語尾が区別できないものもある。
例 着る 寝る 来る する

3 動詞の活用の種類

解説ページ p.99

- 五段活用……五十音図の「ア・イ・ウ・エ・オ」の五つの段に活用する。連用形は、下に連なる語によって「音便」の形になる場合がある。
- 上一段活用……五十音図の「イ」段に活用する。
- 下一段活用……五十音図の「エ」段に活用する。
- 力行変格活用(力変)……「来る」一語だけ。
- サ行変格活用(サ変)……「する」一語だけ。

音便には、「イ音便・撥音便・母音便」がある。

「うろたえる」「成功する」のような接合動詞もサ行変格活用でる。

4 各活用形のおもな用法

解説ページ p.108

- 未然形……「ない」「う・よう」「れる・られる」などに連なる。
- 連用形……「ます」「た」などに連なる。中止法として用いられる場合がある。
- 終止形……言い切った形。動詞の基本形である。付属語に連なる場合もある。
- 連体形……体言やいろいろな付属語に連なる。
- 仮定形……助詞「ば」に連なる。
- 命令形……命令の形で言い切る。

いったん文を中止してまた続ける方法を中止法という。
例 雨が降り、風が吹く。

5 自動詞・他動詞・可能動詞・補助動詞

解説ページ p.110

- 自動詞……主語自身についての動作や作用を表す動詞。
- 他動詞……主語以外に及ぶ動作や作用を表す動詞。
- 可能動詞……「～することができる」という意味をもつ動詞。
- 補助動詞……ほかの動詞について補助的な役割をする動詞。

例 (自動詞) 集まる 人が笑 (他動詞) 集める 人を笑

例 飛べる 読める

例 女たちに会ってくる。一度やってみる。

6 動詞の働き

解説ページ p.114

- 述語になる……単独で述語になることができる。
- 主語になる……「のが」「のは」「のも」を伴って主語になる。
- 接飾語になる……単独で連体接飾語になる。
- 接続語になる……接続助詞を伴って接続語になる。

例 試験の日は早く起きる

例 早く起きるのは健康によい

例 早く起きる習慣をつけなさい

例 疲れて、もう歩けない



6章 形容詞・形容動詞 — 活用のある自立語



教科書のまとめ

1 形容詞・形容動詞の性質

解説ページ p.126

- 形容詞・形容動詞とは……物事の性質・状態を表す単語。
- 形容詞・形容動詞の性質……自立語で活用があり、単独で述語になる。
- 言い切りの形……形容詞は「い」、形容動詞は「だ」「です」で終わる。

形容詞と形容動詞の区別ができるように。言い切りの形に注目しよう。

例
美しい(形容詞)
きれいだ(形容動詞)
きれいです(形容動詞)

2 形容詞の活用

解説ページ p.127

- 活用形……未然形・連用形・終止形・連体形・仮定形の五つで、命令形はない。
- 活用の種類……活用のしかたは種類しかない。連用形は、「ごいます」などに連なるとき、**ク音便**の形になる。

例 おもしろくごいます。

3 形容詞の各活用形のおもな用法

解説ページ p.130

- 未然形……「う」に連なる。
- 連用形……川やいろいろな付属語に連なる。**中止法**として用いられる場合がある(「く」の形で)。
- 終止形……言い切る形。**形容詞の基本形**である。付属語に連なる場合もある。
- 連体形……体言やいろいろな付属語に連なる。
- 仮定形……助詞「ば」に連なる。
- 語幹……単独で述語になる。「そうだ(様態)」に連なる。

例 室内は明るく、外は寒い。

例 おお、寒。外は寒そうだ。

4 形容動詞の活用

解説ページ p.133

- 活用形……「だ」で終わる形容動詞は、未然形・連用形・終止形・連体形・仮定形の五つで、命令形はない。「です」で終わる形容動詞は、未然形・連用形・終止形・連体形の四つで、**仮定形・命令形がない**。
- 活用の種類……活用のしかたは「だ」で終わるものと、「です」で終わるものの**二種類**ある。連体形が通う、特別な活用をするものがある。

例 「こんなだ」などが体言に連なるときは語幹を用いる。
例 こんな本を読んではいけない。

5 形容動詞の各活用形のおもな用法

解説ページ p.137

- 未然形……「う」に連なる。
- 連用形……「だ」で終わる形容動詞は、川やいろいろな付属語に連なる。**中止法**として用いられる場合がある(「で」の形で)。
- 終止形……言い切る形。**形容動詞の基本形**である。付属語に連なる場合もある。
- 連体形……「だ」で終わる形容動詞は、体言やいろいろな付属語に連なる。「です」で終わる形容動詞は、「ので」「のに」だけに連なる。
- 仮定形……「だ」で終わる形容動詞は、助詞「ば」に連なるが、「ば」が省略されることもある。「です」で終わる形容動詞には、仮定形がない。
- 語幹……単独で述語になる。「そうだ(様態)」などに連なる。

例 彼は元気で、頭いい。

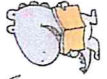
例 元気なら、うんと走れ。
例 まあ、きれい。
元気そうだ。

6 形容詞・形容動詞の働き

解説ページ p.141

- 単独で……**述語・修飾語**になることができる。
- 付属語条件つて……**述語・修飾語**のほか、**主語・接続語**にもなる。

7 章 助動詞 — 活用のある付属語



教科書のまとめ

1 助動詞の性質

解説ページ p.153

- 助動詞とは …… 川言・体言などに意味を添える単語。
- 助動詞の性質 …… 付属語で、活用がある。

まず、助動詞のちのちを覚えて、次に「尊敬・活用・接続」の三要素を覚えよう！

2 助動詞の分類

解説ページ p.154

次の三つの方法がある。

- 意味による分類 …… 添える意味によって分類する。
受け身・可能・自発・尊敬・使役・丁寧・希望・打ち消し・断定・過去・完了・推量・意志・たとえ 例示・推定・伝聞・模態など、いろいろな意味を分けよう。
- 活用による分類 …… 活用のしかたによって分類する。
動詞型活用・形容詞型活用・形容動詞型活用・特殊型活用・無変化型(體形変化のないもの)がある。
- 接続による分類 …… 接続のしかたによって分類する。
活用語の未然形に接続するもの・活用語の連用形に接続するもの・活用語の終止形に接続するもの・活用語の連体形に接続するもの、いろいろな語調に接続するものがある。

二つ以上の意味をもつ助動詞もある。

おおまかには左の表のようになるが、例外もあるので、それぞれの助動詞の解説で確認すること。

語	意味	活用	接続	例
3 れる られる	受け身 可能 自発	動詞型	未然形(五段・サ変)	女人に笑われる。(受け身)
	尊敬		未然形(上一段・下一段・カ変)・せる(「させる」)	子どものことが案じられる。(可能) 先生が話される。(尊敬)
4 せる させる	使役	動詞型	未然形(五段・サ変)	荷物を運ばせる。
			未然形(上一段・下一段・カ変)	黒板を見させる。
5 ない ぬ(ん)	打ち消し	形容詞型	未然形(動詞・「れる」「られる」「せる」「させる」「たがる」)	本を読まない。
		特殊型		少しも勉強せぬ(ん)。
6 う よう	推量 意志	無変化型	未然形(五段・形容詞・形容動詞・助動詞)	距離は五キロあろう。(推量)
			未然形(五段以外の動詞・助動詞)	私も行ってみよう。(意志)
7 まい たがる	打ち消しの推量 打ち消しの意志	無変化型	終止形(五段)	雨は降るまい。(打ち消しの推量)
	希望		未然形(五段以外の動詞)	失敗を繰り返すまい。(打ち消しの意志)
8 たい たがる	希望	形容詞型	連用形(動詞・「れる」「られる」「せる」「させる」)	私は本を読みたい。
		動詞型		妹は本を読みたがる。

9	ます	丁寧	特殊型	連用形(動詞・助動詞)	本を読みます。
10	ただ	過去 存続 確認 想起	特殊型	連用形(用言・助動詞)	昨夜、九時に寝た。(過去) 勉強が今、すんだ。(完了) 白く染つた髪。(存続) さうだ、今日ははくの準備がした。(想起)
11	そうだ そうです	構態	形容動詞型 (「そうです」 は特殊型)	連用形(動詞・助動詞)・ 形容詞・形容動詞の語幹	雨が降りそうだ。(構態)
		伝聞		終止形(用言・助動詞)	雨が降るそうだ。(伝聞)
12	ようだ ようです	たとえ 推定 例示	形容動詞型 (「ようです」 は特殊型)	連体形(用言・助動詞)・ 助詞「の」	まるで雪のよう白い。(たとえ) 彼にもわからないようだ。(推定) 彼のように正直な人は少ない。(例示)
13	らしい	推定	形容詞型	終止形(動詞・形容詞・助 動詞)・形容動詞の語幹・ 体言・一部の助詞	彼はまもなく出かけるらしい。
14	だ	断定	形容動詞型	体言・一部の助詞	これは科学の本だ。
15	です	丁寧な断定	特殊型	体言・一部の助詞	これは科学の本です。

2 助動詞の分類

助動詞の分類においては、意味による分類、活用による分類、接続による分類の三つの方法がある。

1 意味による分類 — 教科書などの分類によることが多い

	意味	助動詞
受け身	人からされる	れる・られる
可能	〜できる	れる・られる
自発	自然に起こる	れる・られる
尊敬	敬う	れる・られる
使役	人にさせる	せる・させる
丁寧	聞き手に対して丁寧と言う	ます
希望	希望する	たい・たがる
打ち消し	そういうことがない	ない・ぬ(ん)
断定	断定する	だ・です
過去(完了)	過去(動作)作用の完結状態の継続	ただ
推量	物事を推しはかっている	う・よう・まい
意志	話し手の意志、人を誘う	う・よう・まい
たとえ	たとえと言う	ちろた・ちろたず
例示	例を挙げて言う	ちろた・ちろたず
推定	何らかの根拠に基づいて推しはかる	ちろた・ちろたず・らしい

伝聞	人から聞いた様子	そらだ・そぞぞす
構態	そういう様子にある	そらだ・そぞぞす

2 活用による分類

	活用	助動詞
動詞型	動詞と同じような活用をする。 いずれも「〜る」の形。	れる・られる・せる・ だせる・たがる
形容詞型	形容詞と同じような活用をする。 いずれも「〜い」の形。	ない・たい・らしい
形容動詞型	形容動詞と同じような活用をする。 いずれも「〜だ」の形。	そらだ・ちろた・だ
特殊型	特殊な活用をする。	ぞぞぞす・ちろたず・ます・ ぞぞだ(ぬ)・ぬ(ん)
無変化型	語形変化のないもの。	う・よう・まい

3 接続による分類

	接続	助動詞
活用語の未然形に接続する		れる・られる・せる・だせる・ない ぬ(ん)・う・よう・まい
活用語の連用形に接続する		たい・だたる・ます・だ(だ) そらだ(構態)・そぞぞす(構態)
活用語の終止形に接続する		そらだ(伝聞)・ちろた(伝聞)・まい・らしい
活用語の連体形に接続する		ちろた・ちろたず
しるしを語頭に接続する		らしい・だ・ぞぞ・ちろた・ちろたず

ポイント 再言と助動詞の接続
助動詞をつけるとき、用言の活用形に注意する

例えば「乗る」に「ない」をつける場合、「乗る」は「乗ら(未然形)となり、「乗らない」のように続く。

また、助動詞自身も活用するから、助動詞のあとに助動詞がつく場合、前の助動詞は活用形を変える。例えば、「ない」に「た」をつける場合、「ない」は「なかつ(連用形)となり、「なかつた」のように続く。

① 乗らない ② 乗ります ③ 乗らなかつた ④ 乗りました ⑤ 乗らなかつた ⑥ 乗らなかつた ⑦ 乗らなかつた ⑧ 乗らなかつた ⑨ 乗らなかつた ⑩ 乗らなかつた ⑪ 乗らなかつた ⑫ 乗らなかつた ⑬ 乗らなかつた ⑭ 乗らなかつた ⑮ 乗らなかつた ⑯ 乗らなかつた ⑰ 乗らなかつた ⑱ 乗らなかつた ⑲ 乗らなかつた ⑳ 乗らなかつた

練習1 解答別冊P.22

次の各文の括弧()内の助動詞をつけて、文の意味を答えなさい。

- ① 同様の試験がある。
〔た：過去・完了を表す〕
- ② 一緒に旅行に行く。
〔う：意志を表す〕
- ③ 明日はきつと晴れる。
〔です：丁寧な断定を表す。う：推量を表す〕

練習2

次の各文中から助動詞を抜き出し、意味を答えなさい。

- ① 夏休には、富士山に登りたい。
- ② 草原では、もう秋の気配が感じられる。
- ③ 今年の休日は長びくらしい。
- ④ 春になったら、京都へ旅行しよう。
- ⑤ また、会議は遅まらない。
- ⑥ 私は中学三年生だ。
- ⑦ 車が乗られる。
- ⑧ 一人で買い物に行かせる。

解答 助動詞の表す意味は基本的に、その文全体からとらえるしかない。問題は、その意味をどのように言い表すかである。すなわち、「受け身」が「自発」という文法用語を、どうしても覚えておかなければならないことになる。また、二つ以上の意味をもつ助動詞もあるから注意する。

ポイント 助動詞の意味
二つ以上の意味をもつ助動詞もある

例えば、②・⑦の助動詞「られる」は同じ助動詞であるが、②は「自発」の意味を表し、⑦は「尊敬」の意味を表している。

- ① たい・希望 ② られる・自発
③ らしい・推定 ④ たら・完了 ⑤ 意志
⑥ ない・打ち消し ⑦ だ・断定
⑧ れる・尊敬 ⑨ せる・使役

8 章 助 詞

—— 活用のない付属語



助詞の性質は働きを連続して、
どんな助詞があるのかをしっかりと
覚えよう！

1 助詞の性質

基礎ページ P. 207

- 助詞とは…… 語の関係を示したり、細かい意味を添えたりする単語。
- 助詞の性質…… 付属語で、活用がない。
- 助詞の種類…… 格助詞・接続助詞・副助詞・終助詞の四種類に分類される。

教科書のまとめ

2 助詞の種類と働き

基礎ページ P. 208

- 格助詞…… おもに体言について文節関係を示す。
 - 主語であることを示す。 → 例 校長先生が 話をされる。
 - 連体修飾語であることを示す。 → 例 校長先生の お話がある。
 - 連用修飾語であることを示す。 → 例 校長先生の お話を聞く。
 - 並立の関係であることを示す。 → 例 バスや 電車に乗る。
 - 体言に準ずる文節であることを示す。 → 例 勉強するのが 嫌いだ。
- 接続助詞…… 用言や助動詞などについて意味をあとに続ける。
 - 後続語になる。 → 仮定の順接・仮定の逆接・確定の順接・確定の逆接の四種類がある。
 - 連用修飾語になる。
 - 並立の関係になる。
- 副助詞…… いろいろな語についてさまざまな意味を添える。
- 終助詞…… 文末などについていろいろな意味を添える。

	語	意味	語	意味
③ 格助詞	が	その文節が主語であることを示す	へ	方向 帰着点
	の	その文節が連体修飾語であることを示す その文節が主語であることを示す その文節が並立の関係であることを示す それのついた語を体言と同じ格にする	と	共同の相手 結果 対象 比較の基準 引用 並立
	を	対象 場所 時間 起点(出発点) 方向	から	起点 原因・理由
	に	場所 時間 目的 帰着点 相手 状態 結果 動作の 出所(受け身) 全日體(使役) 原因・理由 比較の基準 並立	より	比較の基準 限定
④ 接続助詞	ば	仮定の順接 確定の順接 並立	から	確定の順接(原因・理由)
	と	仮定の順接 確定の順接 仮定の逆接	し	並立
	ても	仮定の逆接 確定の逆接	てこそ	確定の順接(原因・理由) 単純な接続 並立 助詞や助動詞について補助用言を あとに続ける
	けれど けれども	確定の逆接 単純な接続 並立・対比	ながら	確定の逆接 同時
	が	確定の逆接 単純な接続 並立・対比	ながら	並立 例示
	のに	確定の逆接	ものの	確定の逆接
	ので	確定の順接(原因・理由)		

⑤ 副助詞		⑥ 終助詞	
は	特に取り出す 強調 繰り返し 型目	は	程度 限定
も	同類の一つ 強調 並立	ほど	程度
こそ	強調	くらい (くらゐ)	程度 限定
さえ	他を類推 限定 追加	など	例示
ども	他を類推 だいたいの事柄	まじり (まじ)	限定
しか	限定	ばかり	例示 並立
まで	終点(程度) 程度 限定 他を類推	やら	不確か 並立
ばかり	程度 限定 空っぽな事柄	か	不確か 並立
か	疑問・質問 反語 感動・謙遜	よ	感動 念を押す 呼びかけ
な	禁止	の	疑問 軽い断定
な(な)	感動 謙遜 念を押す	わ	感動・謙遜 軽く念を押す
や	感動 念を押す 呼びかけ	わ(わ)	感動・謙遜 念を押す
ぞ	念を押す	さ	軽い断定(軽く言い放す) 強調(念を押す)
と	強調		

動詞・形容詞・形容動詞の活用表

動詞の活用表

活用の種類	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	注 意 点
五 段 活 用	書 く	か 書	し か	し き	く	く	け	け	● 連用形が助詞「て」「でも」「たり」や助動詞「た」に連なるとき、活用語尾が変化する。これを「音便」という。音便形には、イ音便(い)、ヒ音便(ひ)、フ音便(ふ)の三種がある。なお、サ行五段活用の動詞には、音便形は現れない。
	読 む	よ 読	し ま	し み	む	む	め	め	
	切 る	き 切	し ら	し り	る	る	れ	れ	
	消 す	け 消	し さ	し し	す	す	せ	せ	
上 一 段 活 用	起きる	お 起	し き	し き	きる	きる	きれ	きるよ	● 「伸る」「居る」「着る」「寝る」「煮る」「見る」などは、語幹と活用語尾の区別がない。
	見 る	○	み	み	みる	みる	みれ	みよ	
下 一 段 活 用	受ける	う 受	け	け	ける	ける	けれ	けるよ	● 「得る」「申る」「救る」「寝る」などは、語幹と活用語尾の区別がない。 ● 可能動詞はすべて下二段活用。
	出 る	○	で	で	でる	でる	でれ	でよ	
カ行変格活用	来 る	○	こ	き	くる	くる	くれ	こい	● 「来る」一語だけしかない。

サ行変格活用	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	注 意 点
する	○	さ	せし	し	する	する	すれ	しろ	● 「する」一語だけ。ほかには、「了する」の形の寝合動詞がある。
あとに続くものを語			ウイ・ヨウ・ウス	ア・ス・タ	言 じ る	トキ	ハ	課 命 じ け る	

形容詞の活用表

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	注 意 点
よ い	よ	か ろ	く かっ	い	い	けれ	○	● 活用のかたは二種類しかない。 ● 「く」が「こさいます」「ほします」に連なると「こ」に変化する。「ほ」は「ほす」という語幹の一部まで変化することもある。
美 しい	美 し	か ろ	く かっ	い	い	けれ	○	
あとに続くものを語		ウ	ナク・ナリ・ナル・ナイ	言 じ る	トキ・コト	ハ		

形容動詞の活用表

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	注 意 点
きれい	きれ	た ろ	だ っ	だ	な	なら	○	● 活用のかたは三種類。 ● 「てす」で終わる形容動詞には仮定形がなく、連体形の「てす」は、助動詞「ので」「ので」に連なる場合にしか用いられない。 ● 「こんなだ」「そんなだ」「あんなだ」「こんなだ」には連体形がなく、体言などに連なる場合は語幹そのものを用いる。 ● 「同じだ」も、体言などに連なる場合は語幹そのものを用いるが、助動詞「ので」「ので」に連なるときだけ、「な」という連体形が現れる。
きれいで	きれ	で し	で し	です (です)	○	○	○	
こんなだ	こな	た ろ	だ っ	だ	○	なら	○	
同じだ	同じ	た ろ	だ っ	だ	な	なら	○	
あとに続くものを語		ウ	ナク・ナイ	言 じ る	トキ・ノ・ニ	ハ		

語の識別

語	品詞	用例	識別法
が	①格助詞 ②接続助詞 ③接続詞	きれいな花 が 咲く。 雨は降った が 、少しだった。 空は快晴だ。 が 、波は高い。	「何(だれ)が」のように主語を表す。 二つの文をつなぐ働きをする。 自立語で、文の最初にくることが多い。
れる	①助動詞(受け身など) ②動詞の一部	弟は父に し かれる。 川が橋かに 流 れる。	五段活用・井行変格活用動詞の未然形につく。 直前の部分とあわせて一つの動詞になる。
ない	①形容詞 ②助動詞(打ち消し) ③形容詞の一部	帽子に名前が書いて ない 。 兄は全く本を 読 まない。 人生は、はか ない ものだ。	「ない」の直前で、文脚が切れる。 「ぬ」で言いかえることができる。 直前の部分とあわせて一つの形容詞になる。
に	①格助詞 ②接続助詞の一部 ③助動詞の一部 ④形容動詞の活用語尾 ⑤副詞の一部	生徒が運動場 に 集合する。 知らない のに 、知ったふりをする。 彼のように 正 直な人は い ない。 犬が元氣 に かけまわる。 すぐ に 出発しよう。	名詞につく。 「のに」で逆接の働き。「の」と離せない。 「ように」「そうに」で助動詞になっている。 「だ」「な」と活用することができる。 「だ」「な」と活用することができない。
な	①終助詞 ②助動詞(断定) ③助動詞の一部 ④形容動詞の活用語尾 ⑤連体詞の一部	このことは、友達に 話 す な 。 春 な のに、まだまだ寒い。 そのような 話 は聞か な かった。 借 か な図書館で、勉強する。 校庭に、大き な りの木がある。	文末にくる。 「の」「のに」「ので」に続いている。 「よ う な」「そ う な」で助動詞になっている。 「だ」「に」と活用することができる。 「だ」「に」と活用することができない。

だ	①形容動詞の活用語尾 ②助動詞(断定) ③助動詞(過去・完了) ④助動詞の一部	ここは山合 な ので、交通が不便 だ 。 あれは桜の木 だ 。 一日中プールで泳 い た。 彼は遅れる そ う だ 。	「な」を「な」にかえると体言につながる。 名詞につき、「な」にかえることができない。 動詞の音便形「い」「ん」につく。 「そう だ 」「よう だ 」で助動詞になっている。
で	①格助詞 ②接続助詞 ③助動詞(断定) ④形容動詞の活用語尾 ⑤助動詞の一部	公園 で 、音楽会が開かれる。 飛行船が飛ん て いく。 ここは山の中 で ある。 この問題の解決は、困難 で ある。 雨が降り そ う で ある。	場所・手段・材料・理由などを表す。 動詞の音便形「い」「ん」につく。 名詞につき、「な」にかえると不自然になる。 「で」を「な」にかえると体言につながる。 「そう で 」「よう で 」で助動詞になっている。
でも	①副助詞 ②接続助詞 ③接続助詞+副助詞 ④形容動詞の活用語尾+副助詞 ⑤格助詞+副助詞 ⑥助動詞(断定)+副助詞	ちよつとお茶 で も飲もうか。 何度読ん で も、理解できない。 車内はあまり混ん で もいない。 それほど暖か で もない。 テレビ で も報道された。 悪い人 で もなかろう。	類推の意味や、だいたいの事柄を表す。 動詞の音便形「い」「ん」につく。 「も」を取り除いても、文意は変わらない。 あとは、「で」の区別をする。
まだ	①副助詞 ②接続助詞	今日も ま だあの人に会った。 医者であり、 ま だ小説家である。	「再び」で言いかえることができる。 「そして」で言いかえることができる。
ので	①格助詞+格助詞 ②格助詞+助動詞(断定) ③接続助詞	君 の で見てみよう。 この本を 読 む の である。 あまりに寒 い ので、コートを着た。	「(の)もの+で」の意味で、連用修飾語の働き。 「のである」を「のだ」と言いかえられる。 原因・理由を表す。
らしい	①助動詞(推定) ②形容詞の一部(接尾語)	今日はサバットは休 み ら し い。 彼はいかにも男 性 ら し い人物だ。	「らしい」の直前に「である」を挿入する。 「く に さ わ らしい」と言いかえられる。
ある	①動詞 ②連体詞	今週は、運動会が あ る。 あ る日の出来事。	「存在する」と言いかえることができる。 「存在する」と言いかえることができない。

1 現代の日本語

1-3 当用漢字→常用漢字

当用漢字（昭和 21 年 11 月 16 日）1850 字→常用漢字（昭和 56 年 10 月 1 日）1945 字→
常用漢字（平成 22 年 11 月 30 日）2136 字

常用漢字表（昭和 56 年 10 月 1 日）1945 字

（八木 2001）

付表 1 常用漢字表

1 画	一 乙	2 画	九 七 十 人 丁 刀 二 入 八 又 了 力	3 画	下 干 丸 久 及 弓 巳 口 工 才 三
4 画	山 土 予 勺 女 小 上 丈 刃 寸 夕 千 川 大 土 亡 凡 万 与	5 画	日 反 比 匹 不 夫 父 仏 分 文 片 方 乏 木 毛 奴 厄 友 予 六	6 画	包 北 本 末 米 民 矛 目 由 効 用 立 令 礼 扱 安 衣 芋 印 因 宇 羽 汚 仮 回 灰 会 各 汗 缶 企
7 画	灯 当 同 武 肉 任 年 肌 伐 帆 妃 巨 伏 米 忙 朴 每 名 妾 有 羊 吏 阿 列 劣 老	7 画	垂 位 團 医 巷	8 画	式 芝 守 朱 州 舟 充 旬 巡 如 匠 色 尽 迅 成 西 舌 先 全 壯 早 争 存 多 宅 団 池 地 竹 仲 虫 兆 伝 吐
9 画	危 机 気 吉 休 吸 朽 共 叫 仰 曲 刑 血 件 交 光 向 后 好 江 考 行 合 再 在 旨 死 糸 至 字 寺 次 耳 自	10 画	尪 召 申 世 正 生 斥 石 仙 占 他 打 代 台 庁 田 奴 冬 凸 尼 白 半 犯 皮 必 氷 付 布 払 丙 平 辺 弁 母	11 画	甘 丘 旧 去 巨 玉 旬 兄 穴 玄 古 功 巧 広 甲 旁 込 左 冊 札 皿 仕 史 司 四 市 矢 示 失 写 主 囚 汁 出
12 画	月 犬 元 幻 戸 五 互 午 公 孔 今 支 止 氏 尺 手 収 升 少 冗 心 仁 水 井 切 双 太 舟 中 弔 天 斗 屯 内	13 画	山 土 予 勺 女 小 上 丈 刃 寸 夕 千 川 大 土 亡 凡 万 与	14 画	引 田 王 化 火 介 刈 牛 凶 斤 区 欠

宿淑爾術庶唱商涉章紹訟剩常俯深紳進推醉崇据清盛惜賁接設雪旋船措粗組棉曹巢
溪結堂健險現康控賁黑婚混紺彩探濟祭齋細棗崎慘產視執捨救糾蛇釈寂授終習週洪
逸陰液菓貨械漚殺郭掛喝渴乾拗患貫眼基奇規偽菊脚救球虛許魚強教鄉菌偶掘啓揭
捕浦俸傲峰砲剖紡理脈眼娘耗紋容浴流留竟旅料倫淚烈恣運朗浪 11画 惡尉異移域
倒凍唐島桃討透党膈匿特慫納能彼馬俳配倍極班畔傲疲秘被姬倣病淚傲浮粉紛陸勉
陣粹衰畝逝曼席扇檢租棗倉搜押桑造息選孫帶蔡託值恥致蒼逐秩朕通庭運哲展徒逾
蚤殘師紙脂時疾射借酌弱殊珠酒修從准殉純昔徐除宵將消症祥称笑辱昏娠振浸真針
恐恭胸脅訓郡惠儉兼劍軒原圃庫娛悟候校耕航貢降高剛骨根峻差匪宰裁利財索殺棧
泮要律柳厘郎 10画 案員院益悅宴崧翁恩夏家荷華蚊雪格核株陷既記起飢鬼婦宮拳
訂点度怒逃洞峙独南派背肺烟免卑飛美秒品負赴封風柄奕便保胞某冒盆迷面約勇幽
宣專泉淺洗染前祖奏相莊草送促則俗耐待怠胎退卑炭胆段茶昼柱裏挑勒珍追亭貞帚

哄姿思指施持室符首拾秋臭柔重祝俊春盾叙昭乘城淨食侵倡津神甚帥是政星牲省荷
急級糾峽挾狹軍係型契計建研限孤孤故枯後侯厚恒洪皇紅荒郊香捲恨查砂碎削昨
例妒和粹 9画 哀威胃為烟映榮疫屨卸音科架悔海界皆垣革括活冠卷看紀軌客逆厓
苗府怖俯侮武服沸物併並步泰宝抱放法泡虜防攸奔姝枚抹味啤命明免茂盲門夜油林
忠抽注長直坪定底抵邸泥的迭典店東到毒突屈孔念波捍杯拍泊迫扳版彼披肥非泌表
舍者邪岩取受周宗叔述所尚招承昇松沼垂炊枢制姓征牲背青昔析拙阻卒卓拓担知宙
供協況金苦具空屈徑莖券厲弦呼固効幸拘肯刻国昆斐刷參俛刺始姉枝祉肢事侍治夷
雨沐英易延洽炎往押欧毆佳餽果河画芽怪拐勃拉学岳官岸岩奇折季宜泣居拒搬京享
判坂否批尾扶兵別馭芳邦坊妨忘防没妙役余抑来乱卵利里良冷勵展勞 8画 依委育
吹杉声赤折走即東足村妥对体沢沢但勇冲町沈低皇廷弟竅投豆尿妊忍把壳伯麦拔伴
坑孝抗攻更克告谷困佐災材作何志私似兒社車寿秀住初助序床抄肖条状伸臣身辛囤

附表1 常用漢字表

18画

視鏡整積薦操濁壇築樁頭篤燈懸濃溥縛察運奮壁縫彭謔啓榮論輸融權詭類陣隸鍊錄

17画

時轉環環穰穰矯謹諶嚴講購懇探諳爵醜縮賃礎嶺嶽鯨鮮蠶霜溫鍛聰臍類慶翼覽察

16画

緣銜憶穩壞懷獲憾還館機橋凝蕙懇激憲貫興衡錫鑿錯詰備射賦縱壤娘錠新

15画

踏導熟輩賠箱範盤罷標寶敝膚賦舞噴填憤幣弊編袖褻泰撲摩魅默憂藥養履慮寐輪靈

贊贊賜贊趣熟潤達誦銜賞總嶠審誕總請書線選選槽識諾誑飲鈔駐湖澄調墜綉敵敵撤

恩遺影貌謁閱綠嶺億稜課餓確渴汰監緩器輝儀戲弱緊煦慶剛擊潔權稿撤

邁鋪銅德說認寧髮潤開碑鼻譚腐複閱慕登僕旱脈慢漫銘鳴綿模網誘綠揮倣領錄厝歷

誌志離磁漆速種甯統孰緒彰障精製書靜說錢銑漸層總運像增槽駄蹶奪端矯徵漬滴

14画

駭電塗働督農漠針撤煩頌微福腹靈蕙豐飽暮夢盟滅譽預浴腰裸雷酷裏虜鈴零廉路棧話

雜隱馴演寡歌箇慨闊慣管閱旗疑漁境銀聚語誤傳網鏘麥穀酷賦魂際察雜算

附表1 常用漢字表

蒸飾蝕痠慎新睡數勞聖誠跡拱節戰踐禪塑僧想賊統損滯澆喚暖痲雅置蓄腸跳實艇鈇

群傾攜繼傑嫌猷絹遺源誇致蓉滯欽債催議裁罪控詞試詩資詞慈恭愆酬準署傷奕照評

暗意違團煙狼遠鉛垣戍嫁暇搗靴雅解塊概該較隔樂滑竭勸冀斡感漢頑棄義詰業禁愚

芬塍馮補募報傍帽椿貿滴無倫猶裕遊錫揚馬葉陽給渣痢疏量呈翠廊惑灣腕

塚堤提程渡塔搭棟湯粒登峇等筒統童道鈍屍媒買博飯晚音蛩悲扉費備筆評當普幅復

森診尋遂隨婿晴稅絕善然陳訴創翼葬葵測厲尊望惜音貸隊達棚短彈運着貯朝賑超補

絞項詐敢聚策醉傘散紫詞齒滋軸濕煮就衆集循順景勝掌晶焯焦稍粧詔証象場量植殖

敢植款聞閑喜幾揮期拱貴欺喫給阻御極曉勸琴筋週隅敬景輕結團堅檢減湖雁梳港硬

理陸略粒陰涼佩陵紫

12画

握當政運雲當詠越援與溫淌過賀綵開階街覺割寒喚堪換

腦接排敢培陪胎販票描描貧瓶歸符部副閉偏崩助翌堀辟密務狂間野訊唯悠郵庸欲翌

憲側族率發逮第脫探淡斷窺著帳張彰眺鈞頂鳥陳佇偵魚添軫都悼盜陶動堂得豚軟粘

類	10画	韻	願
鏡	線	替	鷄
識	颯	瀨	藻
燥	譜	簿	霧
麗	20画	鐘	讓
響	懸	護	鐘
籍	勝	櫛	21画
艦	願	廢	躍
22画	驚	嬰	23画
鑑			

〔注〕本付表は、常用漢字表（昭和56年10月1日 内閣告示第1号）の「本表」に掲げられている常用漢字1945字を画数順に示したものである。

編者注：以下は、昭和56年内閣告示第1号「常用漢字表」からの変更点を明らかにするために、文化審議会答申「改定常用漢字表」に「参考」として付されたものである。利用者の便宜を考慮して収録することにしたものであるが、各中の一部を成すものではない。

昭和56年内閣告示「常用漢字表」からの変更点

1 字種について

＜字種の追加・削除＞

○ 196字を追加し、5字を削除

追加字種（196字）

接 怨 崖 畿 隙 駒 攀 芯 膳 誰 填 鍋 肘 味 拉 脇
 宛 媛 蓋 白 桁 頃 餌 腎 狙 旦 妬 勻 阜 枕 辣
 嵐 旺 柿 巾 鍵 沙 叱 裾 曾 繳 藤 捻 蔽 冥 璃
 畏 岡 顎 僅 舷 挫 嫉 凄 爽 耐 瞳 罵 餅 麵 慄
 葵 臆 葛 錦 股 采 腫 醒 瘦 貼 枋 剝 壁 冶 侶
 椅 俺 釜 惧 虎 塞 呪 脊 踪 嘲 頓 簪 蔑 弥 瞭
 巢 苛 鍊 串 錮 埼 袖 威 捉 抄 貪 汜 哺 閣 瑠
 茨 牙 韓 窟 勾 柵 差 煎 遜 椎 井 汎 蜂 喻 呂
 咽 瓦 玩 熊 梗 刹 蹴 羨 汰 爪 那 阪 貌 湧 賂
 淫 楷 伎 詣 喉 拶 懂 腺 唾 鶴 奈 斑 頰 妖 弄
 唄 潰 龜 憬 乞 斬 拭 詮 堆 諦 梨 眉 睦 瘍 籠
 鬱 諧 毀 稽 傲 忒 尻 箋 戴 溺 謎 膝 勃 沃 麓

削除字種（5字）

勺 錘 銑 脹 夕

表外漢字字体表

- 第21期国語審議会「表外漢字字体表試案」(平成10年6月報告)をうけ、平成12年12月8日に第22期国語審議会から文部大臣に答申されたものである。部首の許容など、平成22年告示の「常用漢字表」と関係する。
- ここに掲げたのは、「表外漢字字体表」の「前文」などの抜粋、及び「字体表」である。(三省堂編集部注)

【はじめに】(抜粋)

本答申として示す「表外漢字字体表」は、一般の社会生活において、表外漢字を使用する場合作成の「字体選択のよりどころ」となることを目指して、次のような基本方針に基づき作成したものである。

現実の印刷文字の使用状況について分析・整理し、表外漢字の字体に関する基本的な考え方を提示するとともに、併せて印刷標準字体を示す。印刷標準字体とは、印刷文字において標準とすべき字体であることを明示するために用いた名称である。

なお、この字体表は、手書き文字を対象とするものではない。

I 前文(抜粋)

1 表外漢字の字体に関する基本的な認識

(1) 従来の漢字施策と表外漢字の字体問題
ワープロ等の急速な普及によって、表外漢字が簡単に打ち出せるようになり、常用漢字表制定時の予想をはるかに超えて、表外漢字の使用が日常化した。そこに、昭和58(1983)年のJIS規格の改正による字体の変更、すなわち、鷗(一鷗)、禱(一禱)、浣(一浣)のような略字体が一部採用され、括弧内の字体がワープロ等から打ち出せないという状況が重なった。この結果、一般の書籍類で用いられている字体とワープロ等で用いられている字体との間に字体上の不整合が生じた。現時点では、ワープロ等から括弧内の字体が打ち出せない状況は基本的に変わっていない。

上述のような状況の下で、表外漢字の字体が打ち出せるようになつたが、この問題は、①一般の書籍類や教科書などで用いられている「鷗」や「浣」がワープロ等から打ち出せないこと、②仮に「鷗」と「浣」の両字体を打ち出すことができたとし、でも、どちらの字体を標準と考えるべきかの「字体のよりどころ」がないこと、の2点にまとめられる。現時点で、国語審議会が表外漢字字体表を作成したのは、この問題が既に一般の文字生活に大きな影響を与えているだけでなく、今後予想される情報機器の一般の普及によって、表外漢字における標準字体確立の必要性がますます

4 表外漢字だけに適用されるデザイン差について
(漢字配用の次画への配慮から、字体の差と見えなくともよいと判断したもの)

- A 画数の変わらないもの
- (1) 接触の位置・有無に関する例
 虻 虻 茫 茫 炬 炬 渠 渠 俱 俱
 - (2) 傾斜、方向に関する例
 芦 芦 篇 篇 蘭 蘭 蹄 蹄 筵 筵
 喰 喰 煎 煎 廟 廟 疼 疼
 - (3) 点か、棒(画)かに関する例
 茨 茨 灼 灼 葦 葦 筑 筑

- (4) 続けるか、切るかに関する例
 薇 薇 頰 頰 譚 譚
- (5) 交わるか、交わらないかに関する例
 訛 訛 箒 箒 珊 珊 板 板
- (6) その他
 嘲 嘲 變 變 挺 挺 柵 柵

- B 画数の変わるもの
- (1) 接触の位置に関する例
 牙 牙 穿 穿 穿 穿 隣 隣 漉 漉 漉 漉
 - (2) 続けるか、切るかに関する例
 嬰 嬰 瘦 瘦 嘩 嘩 畢 畢
 兔 兔 神 神 笈 笈
- C 特定の字種に適用されるもの(個別デザイン差)
- 井 井 荆 荆 稽 稽 腔 腔 叱 叱
 鞞 鞞 鞞 鞞 脆 脆 吞 吞 臍 臍

リン	淋	レキ	鞣	ロ	魯	ロウ	弄	ロウ	蠟	ワ	窪	ワ	彎
リン	焔	レン	焔	ロ	慮	ロウ	牢	ロウ	(蠟)	ワイ	歪	ワイ	(弯)
リン	焔*	レン	焔*	ロ	(沪)*	ロウ	狼	ロウ	籠*	ワイ	猥	ワイ	
ル	焔	レン	焔	ロ	慮	ロウ	榔	ロウ	聲*	ワク	隈	ワク	
レイ	蜃	レン	簾	ロ	櫓	ロウ	瘦	ロウ	肋	ワナ	或	ワナ	
レイ	蛤	レン	簾	ロ	慮	ロウ	藹	ロウ	勒	ワン	畏	ワン	
レキ	檠	レン	鱗	ロ	(芦)*	ロウ	臘	ロウ	漉	ワン	梳	ワン	
レキ	檠	ロ	駭	ロ	鷺	ロウ	隴*	ロウ	麓	ワン	碗	ワン	

III 参考(抜粋)

- 1 これ(三省堂編修所注、右ページ)は、表外漢字字体表において、字体の違いではなく、デザインの違いと考える字形差を示したものである。
- 2 ここで取り上げたデザイン差は、表外漢字字体表に掲げられた1022字の中に存在するものうち、必要と思われる範囲に限って示したもので、字体表に掲げられていない表外漢字にまで及ぶものではない。
- 3 ここで挙げているデザイン差は、現実に異なる字形がそれぞれ使用されていて、かつ、その実態に配慮すると、字形の異なりを字体の違いと見えなくともよいと判断したものである。
- 4 (略)
- 5 表外漢字だけに適用されるデザイン差項目のうち、「特定の字種に適用されるもの(個別デザイン差)」とは、ここに示した文字にのみ適用するもので、他の文字に及ぼすことはできない。
- 6 (略)
- 7 表外漢字だけに適用されるデザイン差の中には、「牙(4画)/牙・牙(5画)」や「見(7画)/見(8画)」のように明らかに画数の異なる場合であっても、デザイン差と位置付けているものがある。
- 8 ここでデザイン差項目として挙げている「はねるか、とめるかに関する例」や「点か、棒(画)かに関する例」であっても、「干」と「干」における縦画のハネの有無、「戌」と「戌」における点か棒(画)かなどは、それによって字種を分けているのであり、そのような場合は、デザイン差には該当しない。

4 その他関連事項

(1) 学校教育との関係

表外漢字字体表は、「2 表外漢字字体表の性格」で述べたとおり、一般の社会生活において表外漢字を使用する場合の字体選択のよりどころとして作成されたものであり、現在の初等中等教育で行われている漢字学習に直接かかわるものではない。すなわち、初等中等教育においては、常用漢字表の枠内で学習するという現行の取扱いを維持することが適当である。

また、学校教育用の教科書に使用される表外漢字は、常用漢字表の制定以前から、人名用漢字は別として基本的にいわゆる康熙字典が用いられている。したがって、表外漢字字体表によって現行教科書の漢字字体が変更されることはない。

(2) 情報機器との関係(略)

(3) 各種の基準等(略)

II 字体表

(字体表の見方)(抜粋)

1 この表は、常用漢字とともに使われることが比較的多いと考えられる表外漢字(1022字)について、その印刷標準字体を示すものである。1022字のうち22字については、併せて簡易慣用字体を示した。

2 字種は、字音によって五十音順に並べたことを原則とした。同音の場合は、おおむね字訓の少ないものを先にし、字音のないものは字訓によった。また、字音は片仮名、字訓は平仮名で示した。この表で用いた音訓は配列のための便宜として用いたもので、これによって音訓を規定するものではない。

3 この字体表においては、明朝体のうちの一組を例に用いて印刷標準字体及び簡易慣用字体を示した。

4 字体表の例示字形は、デザイン差とすする複数の字形のうち、表外漢字字形の使用実態を踏まえて、その一つを掲げたもので、特に推奨する字形ということではない。

5 3部首(しんにゅう/しめすへん/しよくへん)については、印刷文字として「レ/ノ/魚」の字形を用いている場合を示してあるが、現に印刷文字として「レ/ノ/魚」の字形を用いるものではない。これを印刷標準字体の字形に変更することとを求めらるものについても、同様に「3部首」とした。また、この字体表に掲げられていない表外漢字についても、現に印刷文字として「レ/ノ/魚」の字形を用いているものについては、3部首許容を適用しよ。

6 「くさかんむり」については、明治以来の明朝体字形に倣い、「3画くさかんむり(〃)」を印刷標準字体と考える。ただし、このことは、明朝体以外の印刷書体の字形(例えば、正楷書体における「4画くさかんむり(〃)」)を制限するものではない。

7 漢和辞典などで字源解釈との関係から、

① 明朝体においても、「4画くさかんむり」を用いること

② 漢和辞典における正字体として、「印刷標準字体とされなかった康熙字典の正字体」を掲げること

については、これらを妨げるものではない。

8 「𠄎」と「𠄎」のように既に別字意識(使い分け)の生じていると判断できる異体字については別字扱いとした。

()内は、簡易慣用字体。

・ *はデザイン差、○は個別デザイン差、△は3部首許容に該当するもの。

Table with 4 columns: Kanji, Romanization, Romanization, Kanji. It lists various characters and their classifications, such as '頤', '𠄎', '𠄎', '𠄎', etc., with corresponding romanizations and classification symbols.

くぎり符号の使い方

- 文部省刊行物の表記の基幹を示すために編纂された、文部省編「国語の書き表わし方」(昭和二五年二月刊)の付録より転載。
- 文部省国語調査室で作成した「くぎり符号の使ひ方(案)」(昭和二年三月を、簡単に、分かりやすくまとめたものである。(三草書編修所注)

くぎり符号は、文章の構造や語句の関係を明らかにするために用いる。

くぎり符号には、次の五種がある。

- | | | |
|----------|-------|-----|
| 1 . まる | 4 () | かっこ |
| 2 、 てん | 5 「 」 | かき |
| 3 ・ なかてん | | |

- 「」は、一つの文を完全に言い切ったところに必ず用いる。「」および()の中でも、文の終止には「」を用いる。「……すること・もの・者・とき場所」などで終る項目の列記にも「」を用いる。ただし、次のような場合には「」を用いない。
 - イ 題目や標語など、簡単な語句を掲げる場合。
 - ロ 事物の名称だけを列記する場合。
- 【例】 左の事項を書いた申請書を提出してください。

- 一 申請者の氏名・住所
- 二 建築の目的
- 三 建築する場所

ハ 言い切つたものを「」を用いずに「と」で受ける場合。

【例】 すべての国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有すると保障してあるが、現実には必ずしもこの通りでない。

2 「」は、文の中で、ことばの切れ続きを明らかにしないと、誤解される恐れのあるところに用いる。

【例】 その別荘は、そのころのフランスの有名な芸術家たちとよく交際し、また自分自身もすぐれた女の文藝者であった。シヨルジュ・サントの所有で、アンというところにあつた。

物理では、光のある属性が写真にとられ、その動きが見られるようになった。

科学的な「眼球運動の実験調査報告書」

いんげんと、とうもろこしの種子。

そのころの人がどのようであつたかは、はつきりわからぬ。

対等の関係で並ぶ同じ種類の語句の間に用いる。

【例】 漢字の制限、かなづかいの改定、口語文の普及が、ようやくその緒についた。

ただし、題目や標語、簡単な語句を並べる場合には付けない。

【例】 昭和二年四月には、常用漢字字体表の実施に関する

- 件が、内閣訓令第一号で発表された。国語の文法や音韻に関する知識を得させる。
- 「」は、名詞の並列の場合に用いる。

【例】 対話・講演・演劇・映画・放送などにわたる諸問題については、……

ローマ字のつづり方には、いわゆる訓合式・日本式・標準式の三種がある。

日付や時刻を略して表わす場合に用いる。

【例】 昭和二五・七・一 午後二・三五

称号を略して表わす場合に用いる。

【例】 N・H・K Y・M・C・A

ただし、名詞以外の語句を列挙するとき、数詞を並列する場合「」を用いない。

【例】 イ 社会的・歴史的考察。
ロ 鳥が三四羽飛んで行く。
全員は四、五十大です。
- () は、語句または文の次に、それについて特に注記を加えるときに用いる。

【例】 外国の地名、人名(中国、朝鮮を除く)は、かたかなで書く。

教育漢字(八八二字)の選定については、……

5 「」は、会話または語句を引用するとき、あるいは特に注

意を喚起する語句をさしはさむ場合に用いる。

【例】 イ 「どうぞこちらへ、わたくしが御案内いたします。」と主人がききに立つて歩き出した。

ロ 「国民の権利および義務」に規定された内容について……

ハ 「現代かなづかい」には、次のような「まえかき」がついている。

6 「」は、「」の中にさらに語句を引用する場合に用いる。

【例】 「Aさんの本の中に、「人間は環境の中に生きている」ということが書いてあります。」と先生は静かに語り始めた。

原則として、「?」「!」等の符号は用いない。

くり返し符号の使い方

- 文部省編「国語の書き表わし方」(昭和二五年二月刊)の付録より転載。
- 文部省国語調査室で作成した「くりかへし符号の使ひ方」(昭和二年三月を、簡単に、分かりやすくまとめたものである。(三草書編修所注)

くり返し符号は、「々」以外は、できるだけ使わないようにす

横書きの場合の数の書き表し方

• 文部省編「文部省 公文書の書式と文例」(平成元年12月)より転載。(三省堂編修所注)

- 1 左横書きの文章では、算用数字(アラビア数字)を用いることを原則とする。
- 2 数のけたの区切りについては、三けたごとにコンマ(,)を用いる。
- 3 小数、分数、帯分数を示すには、原則として下の例による。
例 小数 0.375
分数 $\frac{1}{2}$ 又は 又は $\frac{1}{2}$
帯分数 1 $\frac{1}{2}$ 又は 1 $\frac{1}{2}$
- 4 日付は、「昭和31年4月1日」のように書く。必要があれば、「昭和31.4.1」などと略して書いてもよい。

5 次の場合には、漢字を用いることとする。

ア 数の感じの少なくなった場合

例 一般 一部(一部分の意) 一時保留

イ 「ひとつ」「ふたつ」「みっつ」などと読む場合

例 一つずつ 二回読み 三月ごと 五日目

6 次のような場合には、漢字を用いることができる。

ア 万以上の数を書き表すときの単位として、最後にのみ用いる場合

例 100億 1,000万

イ 概数を示す場合

例 数十日 四、五人 五、六十万

るのが望ましい。

「々」は、漢字二字のくり返しの場合用いる。

例 人々 国々 年々 日々

ただし、次のような場合には「々」を用いない。

例 民主主義 大学学術局 学生生活課
当用漢字字体表

「ゝ」は一語のなかで、同音をくり返すとき。

例 あゝ たゞみ とゞのゑる しゝ

次のような場合は「ゝ」を用いない。

例 パナナ ココア かわいい くまざさ

手がかり そののち いままで

あわてて そうはいうもの

……のこと ……とともに

「ゞ」は一語の中でくり返された下の音が濁るとき。

例 たゞし かゞみ すゞり さゞ液

次のような場合には「ゞ」を用いない。

例 読んだけれど すべてです

「〸」は、二字のかなをくり返すとき。

例 いろ〸 わざ〸 しみ〸と

ただし、三字以上にわたる場合、および二字以上の漢語や、

横書きの場合には用いない。

「ゞ」は、用いないを原則とする。

「カ」は、表紙簿記などには用いる。

横書きの場合の書き方

• 文部省編「国語の書き表し方」(昭和十五年二月刊)の付録より転載。なお、公文書は、特別な場合を除き、左横書きにすることになっている。
• 次ページも参照せよ。(三省堂編修所注)

- 1 横書きの場合は、左横書きとする。
 - 2 くり返し符号は「々」以外用いない。
 - 3 くきり符号の使い方は、縦書きの場合と同じである。ただし、横書きの場合は「ゝ」を用いず、「ゝ」を用いる。
 - 4 数字を書く場合は、算用数字を用いる。
- 例 第38回講義、午後1時開学、4時散会。
男子15人、女子8人、合計23人です。
ただし、慣用的な語、または数量的な意味の薄い語は、漢数字を用いる。

例 現在二十世紀の世の中では

一般 一種独特の 「七つのぞり」

外来語の表記

- 平成3年6月28日内閣告示第2号。
- 昭和29年3月15日に国語審議会報告書として「外来語の表記」が発表された。しかし、これは内閣告示に至らなかった。
- 国語審議会では、上記の報告をはじめ多くの資料を参考にし、各方面から意見を参照して、平成3年2月7日に文部大臣へ答申した。本告示の内容は、この答申に基づいている。(三省堂編修所注)

前書き

- 1 この『外来語の表記』は、法令、公文書、新聞、雑誌、放送など、一般の社会生活において、現代の用語を書き表すための『外来語の表記』のよりどころを示すものである。
- 2 この『外来語の表記』は、科学、技術、芸術、その他の各種専門分野や個人人の表記にまで及ぼさうとするものではない。
- 3 この『外来語の表記』は、固有名詞など(例えば、人名、会社名、商品名等)でこれによりかたいものには及ぼさない。
- 4 この『外来語の表記』は、過去に行われた様々な表記(「付」参照)を否定しようとするものではない。
- 5 この『外来語の表記』は、「本文」と「付録」から成る。「本文」には「外来語の表記」に用いる仮名と符号の表を掲げ、これに留意事項その1(原則的な事項)と留意事項その2(細則的な事項)を添えた。「付録」には、用例集として、日常よく用いられる外来語を主に、留意事項その2に例示した語や、その他の地名・人名の例などを五十音順に掲げた。

本文

「外来語の表記」に用いる仮名と符号の表

- 1 第1表に示す仮名は、外来語や外国の地名・人名を書き表すのに一般的に用いる仮名とする。
- 2 第2表に示す仮名は、外来語や外国の地名・人名を原音や原つづりになるべく近く書き表さうとする場合に用いる仮名とする。
- 3 第1表・第2表に示す仮名では書き表せないような、特別な音の書き表し方については、ここでは取決めを行わず、自由とする。
- 4 第1表・第2表によって語を書き表す場合には、おおむね留意事項を適用する。

ローマ字のつづり方

- 昭和29年12月31日内閣告示第1号による。
- まえがきの前記は「三省堂編修所注」(三省堂編修所注)

まえがき

- 1 常に国語を書き表す場合は、第1表に掲げたつづり方によるものとする。
- 2 国際的関係その他産業界の慣習をにわかに成りかたがたい事情にある場合に限り、第2表に掲げたつづり方によってもさしつかえない。
- 3 前二項のいずれの場合においても、おおむねまえがきを適用する。

第1表()は重出を示す。

イ	エ	ウ	ク	コ	カ
ki	ku	ku	kyu	kyo	kyo
sa	su	so	syu	syo	sho
te	te	te	tyu	tyo	cho
ne	ne	ne	nyu	nyo	nyo
hi	hi	hi	hyu	hyo	hyo
mi	mi	mi	myu	myo	myo
yu	yu	yu	yuu	yuu	yuu
ra	ra	ra	ryu	ryo	ryo
wa	wa	wa	wyu	wyu	wyu
ga	ga	ga	gyu	gyo	gyo
za	za	za	zyu	zyo	zyo
da	da	da	dzu	dzu	dzu
ba	ba	ba	byu	byo	byo
pe	pe	pe	pyu	pyo	pyo

シ	ス	セ
shi	shi	shi
chi	chi	chi
ji	ji	ji
di	di	di
kiwa	kiwa	kiwa
gwa	gwa	gwa

第2表

まえがき

- 1 前表に定めたもののほか、おおむね次の各項による。
① はねる音「ン」はすべてnと書く。
例) tenki sannin shobun sanmyaku denpi
- 2 はねる音を表わすnと次にくる母音字またはyとを明り順する必要がある場合には、nの次に、を大括弧。
例) tun'i gen'in kin'yebi sin'ei
つまり、長音のnは、長音のyと混同を避けるため、大括弧で表わす。
例) ginko kite zassi syuppato
- 3 長音は母音字の上に、を付けて表わす。なお、大文字の場合には、母音字を並べてもよい。
例) obasan kiki akii Osaka
- 4 特殊音の書き表し方は自由とする。
例) funari burama peitsan outwan
- 5 文の書き表し方、および外国の地名・人名は、固有名詞以外の名詞の語尾は大文字で書いてもよい。
例) kyōwa kōyōshūden Huzusan hō-zōin Nippon Ginkō
Suzuki Kaze ga haku.

第1表		第2表	
ア	イ	ク	ウ
カ	キ	ク	ウ
サ	シ	ス	シ
タ	チ	ツ	ツ
ナ	ニ	ヌ	ヌ
ハ	ヒ	フ	フ
マ	ミ	ム	ム
ヤ	リ	ユ	ユ
ラ		ル	ル
ワ	キ	グ	グ
ガ	ジ	ズ	ズ
ザ			
ダ			
バ	ビ	ブ	ブ
パ			
キ		ク	ク
カ		ケ	ケ
シ		シ	シ
チ		チ	チ
ニ		ニ	ニ
ヒ		ヒ	ヒ
ミ		ミ	ミ
リ		リ	リ
キ		ギ	ギ
ジ		ジュ	ジュ
ビ		ビ	ビ
ブ		ブ	ブ
キ		キ	キ
ク		ク	ク
シ		シ	シ
チ		チ	チ
ニ		ニ	ニ
ヒ		ヒ	ヒ
ミ		ミ	ミ
リ		リ	リ
キ		ギ	ギ
ジ		ジュ	ジュ
ビ		ビ	ビ
ブ		ブ	ブ

留意事項その1(原則的な事項)

- 1 この『外来語の表記』では、外来語や外国の地名・人名を片仮名で書き表す場合のことに扱う。
- 2 「ハンカチ」と「ハンケチ」、「グロブ」と「グラブ」のように、語形にゆれのあるものについて、その語形をどちらかに決めようとはしていない。
- 3 語形やその書き表し方については、慣用が定まっているものはそれによる。分野によって異なる慣用が定まっている場合には、それぞれの慣用によって差し支えない。
- 4 国語化の程度の高い語は、おおむね第1表に示す仮名で書き表すことができ、一方、国語化の程度がそれほど高くない語、ある程度外国風語に近く書き表す必要のある語——特に地名・人名の場合——は、第2表に示す仮名を用いて書き表すことができる。

- 5 第2表に示す仮名を用いる必要がない場合は、第1表に示す仮名の範囲で書き表すことができる。
例 イェーイエ ウォーウオ トウツ、ト ヴァーバ
- 6 特別な音の書き表し方については、取決めを行わず、自由とすることとしたが、その中には、例えば、「スイ」「ズイ」「グイ」「グエ」「グオ」「キエ」「ヒエ」「フヨ」「ヴヨ」等の仮名が含まれる。

留意事項その2(細則的な事項)

以下の各項に示す語例は、それぞれの仮名の用法の一例として示すものであって、その語をいつもそう書かなければならないことを意味するものではない。語例のうち、地名・人名には、それぞれの(地)、(人)の文字を添えた。

1 第1表に示す「シエ」以下の仮名に関するもの

- 1 「シエ」「ジエ」は、外来音シエ、ジエに対応する仮名である。
〔例〕 シェーカー シェード ジェットエンジン ダイジェスト
シエフィールド(地) アルジェリア(地)
シエクスピア(人) ミケランジェロ(人)
注 「セ」「ゼ」と書く慣用のある場合は、それによる。
〔例〕 ミルクセーキ セラチン
- 2 「チエ」は、外来音チエに対応する仮名である。
〔例〕 チェーン チェス チェック マンチエスター(地) チェーホフ(人)
- 3 「ツァ」「ツエ」「ツォ」は、外来音ツァ、ツエ、ツォに対応する仮名である。
〔例〕 コンツェルン シヤンツェ カンツォーネ
フィレンツェ(地) モーツァルト(人) ツェッペリン(人)
- 4 「テイ」「デイ」は、外来音テイ、デイに対応する仮名である。
〔例〕 ティーパーティー ボランティアー デイゼルエンジン ビルディング
アトランティックシティー(地) ノルマンディー(地)
ドニゼット(人) ディズニー(人)
注1 「ジ」「ジ」と書く慣用のある場合は、それによる。
〔例〕 エチケット スチーム アラスチック スタジアム スタジオ
ラジオ チロル(地) エジソン(人)
注2 「チ」「デ」を書く慣用のある場合は、それによる。
〔例〕 ステップキ キャンデー デザイン
- 5 「ファ」「ファイ」「フェ」「フォ」は、外来音ファ、フィ、フェ、フォに対応する仮名である。
〔例〕 ファイル フィート フェンシング フォークダンス

- 〔例〕 クアルテット クインテット クエスチョンマーク
クオータリー
カルテット レモンスカッシュ キルティンダ
イコール

注2 「クア」は、「クワ」と書く慣用もある。
注3 「グア」は、外来音「グア」に対応する仮名である。

- 4 「グア」は、外来音「グア」に対応する仮名である。
〔例〕 グアテマラ(地) パラグアイ(地)

注1 一般的には、「グア」又は「ガ」と書くことができる。
〔例〕 グアテマラ(地) パラグアイ(地)
ガテマラ(地)

注2 「グア」は、「グウ」と書く慣用もある。
注3 「ツイ」は、外来音「ツイ」に対応する仮名である。

- 5 「ツイ」は、外来音「ツイ」に対応する仮名である。
〔例〕 ソルジュニエツイン(人) テイツィアーノ(人)

注 一般的には、「チ」と書くことができる。
〔例〕 ライプチヒ(地) テイチアーノ(人)

- 6 「トウ」「ドウ」は、外来音「トウ」「ドウ」に対応する仮名である。
〔例〕 トウルーズ(地) ハチャウトウリヤン(人) ヒンドゥー教

注 一般的には、「ツ」「ズ」又は「ト」「ド」と書くことができる。
〔例〕 ツアー(tour) ツービース ツールーズ(地) ヒンズー教
ハチャウトウリヤン(人) ドビュッシー(人)

注 一般的には、「チ」と書くことができる。
〔例〕 ツアー(tour) ツービース ツールーズ(地) ヒンズー教
ハチャウトウリヤン(人) ドビュッシー(人)

- 7 「ヴァ」「ヴァイ」「ヴ」「ヴェ」「ヴォ」は、外来音「ヴァ」「ヴイ」「ヴェ」「ヴォ」に対応する仮名である。
〔例〕 ヴァイオリン ヴァイナス ヴェール
ヴァクトリア(地) ヴェルサイユ(地) ヴォルガ(地)
ヴィヴァルディ(人) ヴラマンク(人) ヴォルテール(人)

注 一般的には、「バ」「ビ」「ブ」「ボ」と書くことができる。
〔例〕 バイオリン ビーナス ベール
ビクトリア(地) ベルサイユ(地) ボルガ(地)
ビバルディ(人) プラマンク(人) ホルテール(人)

注 一般的には、「チユ」と書くことができる。
〔例〕 チューバ(楽器) チュニア(地)

- 8 「チュ」は、外来音「チュ」に対応する仮名である。
〔例〕 チューバ(楽器) チュニア(地)

注 一般的には、「チユ」と書くことができる。
〔例〕 コスチューム スチュワード スチューバ チューブ
チュニア(地)

- 9 「フユ」は、外来音「フユ」に対応する仮名である。
〔例〕 フェュジョン フェュン島(地) フェンマーク(地) ドレフュス(人)

- バツアアロー(地) フィリピン(地) フェアバンクス(地)
カリフォルニア(地)
フアープル(人) マンスフィールド(人) エッフエル(人)
フォスター(人)

注1 「ハ」「ヒ」「ヘ」「ホ」と書く慣用のある場合は、それによる。
〔例〕 セロハン モルヒネ フラットホーム ホルマリン メガホン

注2 「フアン」「フィルム」「フエルト」等は、「フアン」「フィルム」「フエルト」と書く慣用もある。
〔例〕 デュエット フロデュースー デュッセルドルフ(地) デューイ(人)

注 「ジュ」と書く慣用のある場合は、それによる。
〔例〕 ジュース(dewce) ジュラルミン

- 6 「デュ」は、外来音「デュ」に対応する仮名である。
〔例〕 デュエット フロデュースー デュッセルドルフ(地) デューイ(人)

注 「ジュ」と書く慣用のある場合は、それによる。
〔例〕 ジュース(dewce) ジュラルミン

II 第2表に示す仮名に関するもの

第2表に示す仮名は、原音や原つづりになるべく近く書き表そうとする場合に用いる仮名で、これらの仮名を用いる必要がない場合は、一般的に、第1表に示す仮名の範囲で書き表すことができる。

- 1 「イェ」は、外来音「イェ」に対応する仮名である。
〔例〕 イェルサレム(地) イエーツ(人)

注 一般的には、「イエ」又は「エ」と書くことができる。
〔例〕 エルサレム(地) イエーツ(人)

- 2 「ウイ」「ウエ」「ウオ」は、外来音「ウイ」「ウエ」「ウオ」に対応する仮名である。
〔例〕 ウイスキー ウエディングケーキ ストツプウオッチ

注 一般的には、「ウイ」「ウエ」「ウオ」と書くことができる。
〔例〕 ウイルソン(人) ウエブスター(人) ウォルポール(人)

注1 一般的には、「ウイ」「ウエ」「ウオ」と書くことができる。
〔例〕 ウイスキー ウイット ウエディングケーキ ウエハース
ストツプウオッチ

注2 「ウ」を省いて書く慣用のある場合は、それによる。
〔例〕 サンドイッチ スイッチ スイートビー

注3 地名・人名の場合は、「ウイ」「ウエ」「ウオ」と書く慣用が強い。
3 「クア」「クイ」「クエ」「クオ」は、外来音「クア」「クイ」「クエ」「クオ」と書くことができる。
〔例〕 クアルテット クインテット クエスチョンマーク クオータリー

注1 一般的には、「クア」「クイ」「クエ」「クオ」又は「カ」「キ」「ク」「コ」と書くことができる。
〔例〕 クアルテット クインテット クエスチョンマーク クオータリー

注 一般的には、「ヒュ」と書くことができる。

〔例〕 ヒューズ

10 「ヴェ」は、外来音ヴェに対応する仮名である。

〔例〕 インタヴェュー レヴェー ヴェイヤール(人・画家)

注 一般的には、「ビュ」と書くことができる。

〔例〕 インタビュウ レビュウ ビュイヤール(人)

III 撥音、促音、長音その他に関するもの

1 撥音は、「ン」を用いて書く。

〔例〕 コンマ シャンソン トランク メンバー ランニング ランプ
ロンドン(地) レンアラント(人)

注 1 撥音を入れない慣用のある場合は、それによる。

〔例〕 イニング(←インニング) サマータイム(←サンマータイム)

注 2 「シンボジウム」を「シムボジウム」と書くような慣用もある。

2 促音は、小書きの「ッ」を用いて書く。

〔例〕 カップ シヤッター リュックサック ロッテルダム(地) バッハ(人)
注 促音を入れない慣用のある場合は、それによる。

〔例〕 アクセサリー(←アクセサリー)

フリビン(地) (←フイリッピン)

3 長音は、原則として長音符号「ー」を用いて書く。

〔例〕 エネルギー オーバーコート グループ ゲーム ショー テーブル
パーティ

ウエールズ(地) ボーランド(地) ローマ(地)

ゲーテ(人) ニュートン(人)

注 1 長音符号の代わりに母音字を添えて書く慣用もある。

〔例〕 バレエ(舞踊) ミイラ

注 2 「エー」「オー」と書かず、「エイ」「オウ」と書くような慣用のある場合は、それによる。

〔例〕 エイト ベイント レイアウト スペイン(地) ケインズ(人)
サラダボウル ボウリング(球技)

注 3 英語の語末の -er, -or, -ar などに当たるものは、原則としてア列の長音とし長音符号「ー」を用いて書き表す。ただし、慣用に際して「ー」を省くことができる。

〔例〕 エレベーター ギター コンピューター マフラー
エレベーター コンピューター スリッパ

4 イ列・エ列の音の次のアの音に当たるものは、原則として「ア」と書く。

〔例〕 ドラビア ビアノ フェアプレー アジア(地) イタリア(地)

ミネアポリス(地)

注 1 「ヤ」と書く慣用の場合は、それによる。

〔例〕 タイヤ ダイヤモンド ダイヤル ベニヤ板

注 2 「ギリシヤ」「ベルシヤ」について「ギリシア」「ペルシア」と書く慣用もある。

5 語末(特に元素名等)の -(i)um に当たるものは、原則として「-(イ)ウム」と書く。

〔例〕 アルミニウム カルシウム ナトリウム ラジウム
サナトリウム シンボジウム フラネタリウム

注 「アルミニウム」を「アルミニウム」と書くような慣用もある。

6 英語のつづりの x に当たるものを「クサ」「クシ」「クス」「クソ」と書くか、「キサ」「キシ」「キス」「キソ」と書くかは、慣用に従う。

〔例〕 タクシー ボクシング ワックス オックスフォード(地)

エキストラ タキシード ミキサー テキサス(地)

7 拗音に用いる「ヤ」「ユ」「ヨ」は小書きにする。また、「ヴァ」「ヴィ」「ヴェ」「ヴォ」や「トウ」のように組み合せて用いている場合の「ア」「イ」「ウ」「エ」「オ」も、小書きにする。

8 複合した語であることを示すための、つなぎの符号の用い方については、それぞれの分野の慣用に従うものとし、ここでは取決めを行わない。

〔例〕 ケース バイ ケース ケース・バイ・ケース ケース-バイ-ケース
マルコ・ポーロ マルコ=ポーロ

付 録

用例集

凡 例 1 ここには、日常よく用いられる外来語を主に、本文の留意事項その2(細則的な事項)の各項に例示した語や、その他の地名・人名の例などを五十音順に掲げた。地名・人名には、それぞれ(地)、(人)の文字を添えた。

2 外来語や外国の地名・人名は、語形やその書き表し方の慣用が一つに定まらず、ゆれのあるものが多い。この用例集においても、ここに示した語形やその書き表し方は、一例であつて、これ以外の書き方を否定するものではない。なお、本文の留意事項その2に両方の書き方が例示してある語のうち主なものについては、バイオリン/ヴァイオリンのような形で併せ掲げた。

ユータ	スコール	ダンス
コンマ	スコップ	【チ】
【サ】	スタター	チー
サーカス	スタジアム	チーホフ(人)
サービス	スタジオ	チエーン
サハトリウム	スタジアム(人)	チエス
サハラ(地)	スタナム	チエック
サファイア	スタエウワーデス	チケット
サマタイム	ステージ	チップ
サラダボウル	ステッキ	チフス
サラブレッド	ステレオ	チヤイコフスキ(人)
サンドイッチ	ステンドグラス	チューバ/チューバ
サンパウロ(地)	ステンレス	チューブ
【ソ】	ストーブ	チューリップ
シエボルト(人)	ストックホルム(地)	チユニジア/チユニジア
シエカ	ストックウオッチ/ストツ	(地)
シエクスピア(人)	ブウォッチ	チヨコレート
シエード	スアーン	チロル(地)
ジエットエンジン	スベイン(地)	【ツ】
シエフィールド(地)	スベス	ツアー tour
ジエンナー(人)	スボーツ	ツアーニス
シドニー(地)	スボン	ツアーニス/トウールニス
ジラルタル(地)	スリッパ	(地)
ジヤカルタ(地)	【セ】	ツェツペリン(人)
シャツ	セーター	ツンドラ
シャッター	セーラー(〜服)	【テ】
シャベル	セメント	ティー
シャンソン	ゼラチン	ティールエンジン
シヤンツェ	ゼリー	ティズニー(人)
シユークリーム	セルバンテス(人)	ティチアーノ/ティツイ
シユース juice, deuce	セロハン	ティチアーノ(人)
シユールト(人)	セント	ティドロ(人)
ジユラルミン	セントローレンス(地)	ティープ
シヨ	【ソ】	チープル
シヨバン(人)	ソウル(地)	チカルト(人)
シラ(人)	ソセージ	チキヤス(地)
シラニ	ソフア	チキスト
シソニ	ソルジュニニツイン(人)	チキイン
【ス】	【タ】	チキスト
スイートビー	ダーウィソ(人)	チキス
スイツツ	ターナー(人)	チキス
スイング	タイヂエスト	チキス
スウエーデン(地)	タイヤ	チキス
スウェーデン	タイヤモン	チキス
スア	タイヤル	チキス
スカート	タオル	チキス
スキー	タキシード	チキス
スケート	タキシード	チキス
スケール	タヒチ(地)	チキス

ウラニウム	キムチ	クイーン
【エ】	キヤベツ	クイズ
エイト	キヤンデー	クインテット
エキス	キヤンフ	クエーター
エキストラ	キユリー(人)	クエーター/クエーター
エジソン(人)	ギリシヤ/ギリシヤ(地)	クラビア
エジプト(地)	サハラ(地)	クラブ
エチケット	キリマンジャロ(地)	クラシク
エツアル(人)	キルティンダ	クラシク(地)
【ク】	グアテマラ/グアテマラ	クラシク
エネルギー	(地)	クラシク
エプロン	クイーン	クラシク
エルサレム/イエルサレム	クイズ	クラシク
(地)	クインテット	クラシク
エレベーター/エレベーター	クエーター	クラシク
【オ】	クエーター	クラシク
オーエン(人)	クエーター	クラシク
オーストラリア(地)	クエーター	クラシク
オートバイ	クエーター	クラシク
オートバスター	クエーター	クラシク
オックスフォード(地)	クエーター	クラシク
オアシス	クエーター	クラシク
オホーツク(地)	クエーター	クラシク
オリンピック	クエーター	クラシク
オルガン	クエーター	クラシク
オレンジ	クエーター	クラシク
【カ】	クエーター	クラシク
ガゼ	クエーター	クラシク
カーテン	クエーター	クラシク
カード	クエーター	クラシク
カーブ	クエーター	クラシク
カクテル	クエーター	クラシク
カス	クエーター	クラシク
ガソリン	クエーター	クラシク
カタログ	クエーター	クラシク
カッター	クエーター	クラシク
カッパ	クエーター	クラシク
カバ	クエーター	クラシク
カムチャツカ(地)	クエーター	クラシク
カヌー	クエーター	クラシク
カリフォルニア(地)	クエーター	クラシク
カルシウム	クエーター	クラシク
カルテット	クエーター	クラシク
カレンダ	クエーター	クラシク
カロー	クエーター	クラシク
カンジー(人)	クエーター	クラシク
カンク	クエーター	クラシク
カンク	クエーター	クラシク
【キ】	クエーター	クラシク
キター	クエーター	クラシク
アナウンサー	アナウンサー	アナウンサー
アバート(地)	アバート(地)	アバート(地)
アフリカ(地)	アフリカ(地)	アフリカ(地)
アメリカ(地)	アメリカ(地)	アメリカ(地)
アラビア(地)	アラビア(地)	アラビア(地)
アルジェリア(地)	アルジェリア(地)	アルジェリア(地)
アルバム	アルバム	アルバム
アルファベット	アルファベット	アルファベット
アルミニウム	アルミニウム	アルミニウム
アンケート	アンケート	アンケート
【イ】	イェー	イェー
イエーツ(人)	イエーツ(人)	イエーツ(人)
イエスベルセン(人)	イエスベルセン(人)	イエスベルセン(人)
イエナ(地)	イエナ(地)	イエナ(地)
イエリ(地)	イエリ(地)	イエリ(地)
イギリス(地)	イギリス(地)	イギリス(地)
イコル	イコル	イコル
イスタンブール(地)	イスタンブール(地)	イスタンブール(地)
イタリヤ(地)	イタリヤ(地)	イタリヤ(地)
イニング	イニング	イニング
インタビュー/インタヴ	インタビュー/インタヴ	インタビュー/インタヴ
ユ	ユ	ユ
インド(地)	インド(地)	インド(地)
インドネシア(地)	インドネシア(地)	インドネシア(地)
インフレシヨ	インフレシヨ	インフレシヨ
【ウ】	ウ	ウ
ウイークデー	ウイークデー	ウイークデー
ウイーン(地)	ウイーン(地)	ウイーン(地)
ウイスキー/ウイスキー	ウイスキー/ウイスキー	ウイスキー/ウイスキー
ウイット	ウイット	ウイット
ウイソル(人)	ウイソル(人)	ウイソル(人)
ウエスト(地)	ウエスト(地)	ウエスト(地)
ウエスト waist	ウエスト waist	ウエスト waist
ウエディングケーキ/ウエ	ウエディングケーキ/ウエ	ウエディングケーキ/ウエ
デイングケーキ	デイングケーキ	デイングケーキ
ウエハース	ウエハース	ウエハース
ウエプスター(人)	ウエプスター(人)	ウエプスター(人)
ウオルボル(人)	ウオルボル(人)	ウオルボル(人)

チンボ	バツハ(人)	ブエノシアイレレス(地)
ドア	バツアアロー(地)	フエルト
ドーナツ	バドミンントン	フエンシング
ドストエフスキ(人)	ハニラ	フオークダンス
ドニゼツティ(人)	ハノイ(地)	フオード(人)
ドビュッシー(人)	ハラグアイ/ハラグァイ(地)	フオーム
トマト	ハラフィン	フオスター(人)
ドライブ	バリ(地)	フデイング
ドラッグ	ハルブ	フエンジョン
ドラマ	バレエ〔舞踊〕	フエン島(地)
トランク	バレエ	フラムムス(人)
トルストイ(人)	バンドル	ブラス
ドレス	〔ヒ〕	ブラスチック
ドレフユス(人)	ヒアノ	フラットホーム
トロフィー	ビーナス/ヴァイナス	フラタタリウム
トンネル	ビール	アラマンク/アラマンク(人)
ナイアガラ(地)	ビクトリア/ヴァイクトリア(地)	フランクリン(人)
ナイフ	ビスケット	ブレイキ
ナイル(地)	ビスマルク(人)	フロイト(人)
ナトリウム	ビゼ(人)	フログラム
ナポリ(地)	ビタミン	フロヂューサー
〔二〕	ビニール	〔ハ〕
ニーチェ(人)	ビバルディ/ヴァイヴァルディ(人)	ヘアピン
ニユース	イ(人)	ベイント
ニユートン(人)	ビュイヤール/ヴェイヤール	ベーカーリー
ニユヨーク(地)	ル(人)	ヘーゲル(人)
〔六〕	ビュイヤール/ヴェイヤール	ペーゴン
ネーブル	ヒュズ	ペーヂ
ネオンサイン	ビルディング	ペール/ヴェール
ネウタイ	ヒンズー教/ヒンドウー教	ベストセラニ
〔七〕	ピンセット	ベダル
ノーベル(人)	フアープル(人)	ベニヤ〔〜板〕
ノルウェー(地)	フアイル	ベランダ
ノルマンディー(地)	フアツシヨ	ペリー(人)
〔八〕	フアラチー(人)	ペリウム
ハーディー	フアン	ヘリコプター
バイオリン/ヴァイオリン	フイート	ベルサイユ/ヴェルサイユ(地)
ハイキング	フイクシヨ	ベルシヤ/ベルシア(地)
ハイドロン(人)	フイラデルフィア(地)	ヘルシキ(地)
ハイヤー	フイリヒン(地)	ヘルメット
バケツ	フイルム	ペンギン(地)
バス	フイレンツェ(地)	ペンギン
バスカル(人)	フイランラド(地)	ペンギン
バスター	フール	〔ホ〕
ハチヤトリヤン/ハチャトウリヤン(人)	フエアバンクス(地)	ホットマン(人)
	フエアブレー	ホウリング〔球技〕

ホース	ボルト	ボルトガル(地)
ホーランド(地)	ボルマリン	ボルチーノル/ヴォルチーノル(人)
ホーリング boring	ボルツァルト(人)	
ボケツト	モースクワ(地)	
ボクシング	モザル	
ボクサー	モリエール(人)	
ボクスター	モルヒネ	
ボタン	モンテニユ(人)	
ボテ	モンオリオール(地)	
ボテ	〔ヤ〕	
ボノル(地)	ヤスパース(人)	
ボラチーア	〔ユ〕	
ボルチーノル/ヴォルチーノル(人)	ユラシア(地)	
ボルトガル(地)	ユニホーム	
ボルマリン	ユンクラウウ(地)	
マージヤン	ヨロツパ(地)	
マイクロホン	ライバル	
マカオ(地)	ライプチヒ(地)	
マドリッド(地)	ラジウム	
マニラ(地)	ラジオ	
マフラー	ラファエロ(人)	
マラソン	ランニング	
マンシヨ	ランブ	
マンズフィールド(人)	〔リ〕	
マンチエスター(地)		
マンモス		
〔三〕		
ミイラ		
ミキサ		
ミケランジェロ(人)		
ミシシッピ(地)		
ミシシ		
ミッドウェー(地)		
ミネアポリス(地)		
ミュンヘン(地)		

付 前書きの4で過去に行われた表記のことについて述べたが、例えは、明治以来の文芸作品等においては、下記の様な版名表記も行われている。
 邦: スキフトの「ガリヴァー旅行記」
 邦: ユルテ
 邦: エルレエヌ
 邦: ヴァイオリン 邦: 革オロン
 邦: ケンブリッヂ
 邦: ヴルガ
 邦: ワグネル
 邦: ヴルポール
 邦: ヴルツワース

リオデジヤネイロ(地)	ミルウオキー(地)
リズム	ミルクセーキ
リノリウム	〔メ〕
リボン	メーカ
リュックサック	メーカ
リレー	メーデー
リンカーン(人)	メガホン
〔ル〕	メッセーヂ
ルーベンス(人)	メロヂー
ルーマニア(地)	メロン
ルクス lux	メンデル(人)
ルソー(人)	メンデルスゾーン(人)
〔レ〕	メンパー
レイアウト	モーター
レール	モーツァルト(人)
レギュラー	モスクワ(地)
レコード	モザル
レスリング	モリエール(人)
レニングラード(地)	モルヒネ
レビュー/レビュー	モンテニユ(人)
レフェリー	モンオリオール(地)
レペル	〔ヤ〕
レモンスカッシュ	ヤスパース(人)
レンズ	〔ユ〕
レンブラント(人)	ユラシア(地)
〔ロ〕	ユニホーム
ローマ(地)	ユンクラウウ(地)
ロケット	ヨロツパ(地)
ロシア(地)	ヨット
ロダン(人)	〔ラ〕
ロッテルダム(地)	ライバル
ロマン	ライプチヒ(地)
ロマンチック	ラジウム
ロンドン(地)	ラジオ
〔ワ〕	ラファエロ(人)
ワイマール(地)	ランニング
ワイヤ	ランブ
ワシントン(地)	
ワックス	
ワット(人)	

現代仮名遣い

前書き

- 1 この仮名遣いは、語を現代語の音韻に従って書き表すことを原則とし、一方、表記の慣習を尊重して一定の特例を設けるものである。
- 2 この仮名遣いは、法令、公用文書、新聞、雑誌、放送など、一般の社会生活において、現代の国語を書き表すための仮名遣いのよりどころを示すものである。
- 3 この仮名遣いは、科学、技術、芸術その他の各種専門分野や個人々の表記にまで及ぼさうとするものではない。
- 4 この仮名遣いは、主として現代文のうち口語体のものに適用する。原文の仮名遣いによる必要のあるもの、固有名詞などでこれによりがたいものは除く。
- 5 この仮名遣いは、擬声・擬態的描写や嘆声、特殊な方言音、外来語・外来音などの書き表し方を対象とするものではない。
- 6 この仮名遣いは、「ホオ・ホホ（頬）」「テキカク・テツカク（的確）」のような発音にゆれのある語について、その発音をどちらかに決めようとするものではない。
- 7 この仮名遣いは、点字、ローマ字などを用いて国語を書き表す場合のきまりとは必ずしも対応するものではない。
- 8 歴史的仮名遣いは、明治以降、「現代かなづかい」（昭和21年内閣告示第33号）の行われる以前には、社会一般の基準として行われていたものであり、今日においても、歴史的仮名遣いで書かれた文献などを読む機会が多い。歴史的仮名遣いが、我が国の歴史や文化に深いかかわりをもつものとして、尊重されるべきことは言うまでもない。また、この仮名遣いにも歴史的仮名遣いを受け継いでいるところがあり、この仮名遣いの理解を深める上で、歴史的仮名遣いを知ることは有用である。付表において、この仮名遣いと歴史的仮名遣いとの対照を示すのはそのためである。

本文

凡例

- 1 原則に基づきまきを第1に示し、表記の慣習による特例を第2に示した。
- 2 例は、おおむね平仮名書きとし、通称、括弧内に漢字を示した。常用漢字表に掲げられていない漢字及び音訓には、それぞれ*印及び△印をつけた。

第1 語を書き表すのに、現代語の音韻に従って、次の仮名を用いる。
ただし、下線を施した仮名は、第2に示す場合にだけ用いるものである。

1 直音

あ	い	う	え	お					
か	き	く	け	こ	が	ぎ	ぐ	げ	ご
さ	し	ず	せ	そ	ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
た	ち	つ	て	と	だ	ぢ	づ	で	ど
な	に	ぬ	ね	の					
は	ひ	ふ	へ	ほ	ば	び	ぶ	べ	ぼ
					ば	び	ぶ	べ	ぼ
ま	み	む	め	も					
や	ゆ	り	れ	ろ					
わ									

例 あざひ (朝日) きく (菊) さくら (桜) ついやす (費) たわ (枝)
ふで (筆) もみじ (紅葉) ゆずる (鬮) れきし (歴史) わかほ (若葉)
えきか (液化) せいがか (声楽家) さんぼ (散歩)

2 縮音

き	ぎ	ぎ	ぎ	ぎ	ぎ	ぎ	ぎ	ぎ	ぎ
し	じ	じ	じ	じ	じ	じ	じ	じ	じ
ち	ぢ	ぢ	ぢ	ぢ	ぢ	ぢ	ぢ	ぢ	ぢ
に	に	に	に	に	に	に	に	に	に
ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ
み	み	み	み	み	み	み	み	み	み
り	り	り	り	り	り	り	り	り	り

例 しゃかい (社会) しゆくじ (私塾) かいじよ (解除) りやくが (略圖)
〔注意〕 拗音に用いる「や、ゆ、よ」は、なるべく小書きにする。

3 撥音

例 まなんで (字) みなさん しんねん (新年) しゆんぶん (春分)

4 促音

例 はしつて (走) かつき (活気) がっこう (学校) せつけん (石楨)
〔注意〕 促音に用いる「つ」は、なるべく小書きにする。

5 長音

(1) ア列の長音

ア列の仮名に「あ」を添える。

例 おかあさん おばあさん

(2) イ列の長音

イ列の仮名に「い」を添える。

例 にいさん おじいさん

(3) ウ列の長音

ウ列の仮名に「う」を添える。

例 おさむうございます (寒) くうき (空気) ふうふ (夫婦)
うれしゆう存じます きゆうり ほくじゆう (黒汁) ちゆうもん (注文)

(4) エ列の長音

エ列の仮名に「え」を添える。

例 ねえさん ええ (応答の語)

(5) オ列の長音

オ列の仮名に「う」を添える。

例 おとうさん どうだい (灯台)
わこうど (若人) おうむ
かおう (買) あそぼう (遊) おはよう (早)
おうぎ (扇) ほうる (放) とう (塔)
まいでしよう はつびよう (発表)
きよう (今日) ちようちよう (雑々)

第2 特定の語については、表記の慣習を尊重して、次のように書く。

1 助詞の「を」は、「を」と書く。

例 本を読む 岩をも通す 失礼をばいしました
やむをえない いわんや…をや よせばよいものを
てにをは

2 助詞の「は」は、「は」と書く。

例 今日日は日曜です 山では雪が降りました
あるいは または もしくは
いずれは さては ついては ではさようなら とはいえ
借しむらくは 恐らくは 願わくは
これはこれは こんにちば こんばんは
悪天候ものか

[注意] 次のようなものは、この例にあたらないものとする。
いまわの際 すわ一大事
雨も降るわ風も吹くわ 来るお来るわ きれいだわ

3 助詞の「へ」は、「へ」と書く。

例 故郷へ帰る …さんへ 母への便り 駅へは数分

4 助詞の「いう(言)」は、「いう」と書く。

例 ものをいう(言) いうまでもない 昔々あつたという
どういふふうに 人というもの こういうわけ

5 次のような語は、「ぢ」「づ」を用いて書く。

(1) 同音の連呼によって生じた「ぢ」「づ」
例 ぢぢみ(齧) ぢぢむ ぢぢれる ぢぢこまる
つづみ(鼓) つづら つづく(続) つづめる(約) つづる(綴)
[注意] 「いちじく」「いちじるしい」は、この例にあたらない。

(2) 二語の連合によって生じた「ぢ」「づ」

例 母なぢ(鼻血) そえぢ(添乳) もらいぢち そこぢから(底力) ひぢりめん
いれぢえ(人知恵) ちゃのぢぢやわん
まぢか(間近) こぢんまり

ちぢか(近々) ぢりぢり
みかづき(三日月) たけづつ(竹筒) たづな(手綱) ともづな にいつま(新妻)
けつめ ひづめ ひげづら
おこづかい(小遣) あいせづかし わしづかみ こころづくし(心算)
てづくり(手作) こづつみ(小遣) ことづて ほこづめ(箱詰) はたらきづめ
みぢづれ(間違)

かたづく こづく(小突) とくづく もとづく うらづける ゆきづまる
ねほりづよい
つねづね(常々) つくづく つれづれ

なお、次のような語については、現代語の意識では一般に二語に分解しにくいもの等として、それぞれ「じ」「ず」を用いて書くことを本則とし、「せかいぢゆう」「いなづま」のように「ぢ」「づ」を用いて書くこともできるものとする。

例 せかいぢゆう(世界中)
いなづま(稲妻) かたず(回睡) きずな(絆) さかづき(杯) ときわす
ほおずき みみずく
うなずく おとずれる(語) かしずく つまずく ぬかずく ひざまずく
あせみずく くんずほぐれつ さしずめ でずつぱり なかんずく
うでずく くらずくめ ひとりずつ
ゆうずう(融通)

[注意] 次のような語中の「じ」「ず」は、漢字の音読みでもともと濁っているものであって、上記(1)、(2)のいずれにもあたらず、「じ」「ず」を用いて書く。

例 じめん(地面) ぬのじ(布地)
すが(回廊) りやくず(略号)

6 次のような語は、オ列の仮名に「お」を添えて書く。

例 おおかみ おおせ(仰) おおやけ(公) ごおり(氷・餅) ごおろぎ
ほお(頬・井) ほおずき ほのお(波) とお(十)
いきどおる(憤) おおら(覆) こおる(凍) しおおせる とおる(通)
とどこおる(鄙) もよおす(催)
いとおいしい おおい(多) おおきい(大) とおい(遠)
おおむね おおよそ

これらは、歴史的仮名遣いでオ列の仮名に「ほ」又は「を」が添くものであって、オ列の仮名として発音されるか、オ・オ、コ・オのようには発音されるかにかかわらず、オ列の仮名に「お」を添えて書くものである。

付記

次のような語は、エ列の長音として発音されるか、エイ、ケイなどのように発音されるかにかかわらず、エ列の仮名に「い」を添えて書く

例 かれい、せい(晋)

かせいで(様) まねいて(招) 春めいて

へい(塙) ぬい(銘) れい(例)

えいが(映画) とけい(時計) ていねい(丁寧)

送り仮名の付け方

前書き

- 一 この「送り仮名の付け方」は、法令・公用文書・新聞・雑誌・放送など、一般の社会生活において、「常用漢字表」の音訓によって現代の国語を書き表す場合の送り仮名の付け方のよりどころを示すものである。
- 二 この「送り仮名の付け方」は、科学・技術・芸術その他の各種専門分野や個人々の表記にまで及ぼさずとするものではない。
- 三 この「送り仮名の付け方」は、漢字を記号的に用いたり、表に記入したりする場合や、固有名詞を書き表す場合を対象としていない。

「本文」の見方及び使い方

- 一 この「送り仮名の付け方」の本文の構成は、次のとおりである。

敬語の語

- 1 活用のある語

通則1 (活用語尾を送る語に関するもの)

通則2 (派生・対応の関係を考慮して、活用語尾の前の部分から送る語に関するもの)

2 活用のない語

通則3 (名詞であって、送り仮名を付けない語に関するもの)

通則4 (活用のある語から転じた名詞であって、もとの語の送り仮名の付け方によって送る語に関するもの)

通則5 (副詞・連体詞・接統詞に関するもの)

複合の語

通則6 (単独の語の送り仮名の付け方による語に関するもの)

通則7 (慣用に従って送り仮名を付けない語に関するもの)

付表の語

1 (送り仮名を付ける語に関するもの)

2 (送り仮名を付けない語に関するもの)

二 通則とは、単独の語及び複合の語の別、活用のある語及び活用のない語の別等に応じて考えた送り仮名の付け方に関する基本的な法則をいい、必要に応じて、例外的な事項又は諸容的な事項を加えてある。

したがって、各通則には、本則のほか、必要に応じて例外及び諸容を設けた。ただし、通則7は、通則6の例外に当たらないものであるが、該当する語が多数に上るので、別の通則として立てたものである。

三 この「送り仮名の付け方」で用いた用語の意味は、次のとおりである。

単独の語・・・漢字の音又は訓を単独に用いて、漢字一字で書き表す語をいう。
 複合の語・・・漢字の訓と訓、音と訓などを複合させ、漢字二字以上を用いて書き表す語をいう。
 付表の語・・・「常用漢字表」の付表に掲げてある語のうち、送り仮名の付け方が問題となる語をいう。

活用のある語・・・動詞・形容詞・形容動詞をいう。

活用のない語・・・名詞・副詞・連体詞・接統詞をいう。

本則・・・送り仮名の付け方の基本的な法則と考えられるものをいう。

例外・・・本則には含まれないが、慣用として行われていると認められるものであって、本則によらず、これによるものをいう。

諸容・・・本則による形とともに、慣用として行われていると認められるものであって、本則以外に、これによってよいものをいう。

四 単独の語及び複合の語を通して、字音を含む語は、その字音の部分には送り仮名を要しないのであるから、必要のない限り触れていない。

五 各通則において、送り仮名の付け方が諸容によることのできる語については、本則又は諸容のいずれに従ってもよいが、個々の語に適用するに当たって、諸容に従ってよいかどうか判断し難い場合には、本則によるものとする。

編者注：平成22年11月30日付内閣告示第2号をもって「常用漢字表」が制定されたことに伴い、同日内閣告示第3号により「送り仮名の付け方」の一部が改正された。
 告示文及び前書きは、縦書きであるが、ここでは便宜上横書きにした。

本 文

単独の語

1 活用のある語

通則 1

本則 活用のある語(通則 2 を適用する語を除く。)は、活用語尾を送る。

- 【例】 慣る 承る 書く 実る 徹す
- 生きる 臨れる 考える 助ける
- 荒い 潔い 賢い 濃い
- 主だ

例外 (1) 語幹が「し」で終わる形容詞は、「し」から送る。

- 【例】 著しい 憎しい 悔しい 恋しい 珍しい

(2) 活用語尾の前に「か」、「やか」、「らか」を含む形容動詞は、その首節から送る。

- 【例】 暖かだ 細かだ 静かだ
- 穏やかだ 健やかだ 和やかだ
- 明らかだ 平らかだ 滑らかだ 柔らかだ

(3) 次の語は、次に示すように送る。

- 明らむ 味わう 衰れむ 戀しむ 歌わる 仰かす (おどかす) 仰かす (おびやかす)
- 四わる 食らう 異なる 遣らう 相まる 群がる 和らぐ 揺する
- 明るい 危ない 危うい 大きい 少ない 小さい 冷たい 平たい
- 新ただ 同じだ 盛んだ 平らだ 悪らだ 修めだ
- 衰れだ 幸いだ 幸せだ 巧みだ

許容 次の語は、() の中に示すように、活用語尾の前の首節から送ることができる。(含まれていない語は、() の中に示す。)

【例】 著す (著わす) 現れる (現われる) 行う (行なう) 断る (断わる)

通則 2

(注意) 語幹と活用語尾との区別がつかない動詞は、例えば、「首る」、「較る」、「來る」などのように送る。

本則 活用語尾以外の部分に他の語を含む語は、含まれている語の送り仮名の付け方によって送る。(含まれている語を () の中に示す。)

【例】

- (1) 動詞の活用形式はそれに準ずるものを含むもの。
- 動かす [動く] 照らす [照る]
- 遊らう [遊ぶ] 計らう [計る] 向かう [向く]

- 浮かぶ [浮く]
- 生まれる [生む] 押さえる [押す] 抽らえる [抽る]
- 勇ましい [勇む] 細かしい [細く] 喜ばしい [喜ぶ]
- 暗れやかだ [暗れる]
- 及ぼす [及ぶ] 積もる [積む] 聞こえる [聞く]
- 積もしい [積む]
- 起こる [起きる] 落とす [落ちる]
- 森らす [着れる] 冷やす [冷える]
- 当たる [当てる] 終わる [終える] 変わる [変える] 集まる [集める] 定まる [定める]
- 混ざる・混じる [混ぜる]
- 恐ろしい [恐れる]

(2) 形容詞・形容動詞の語幹を含むもの。

- 重んずる [重む] 若やく [若い]
- 怪しむ [怪しい] 悲しむ [悲しい] 苦しがる [苦しい]
- 籠かめる [籠かだ]
- 重たい [重い] 憎らしい [憎い] 古めかしい [古い]
- 細かい [細かだ] 柔らかい [柔らかだ]
- 滑らかだ [滑い] 高らかだ [高い] 寂しげだ [寂しい]

(3) 名詞を含むもの。

- 汗ばむ [汗] 先んずる [先] 壱めく [体]
 - 男らしい [男] 後ろめたい [後ろ]
- 許容 読み間違えるおそれのない場合は、活用語尾以外の部分について、次の () の中に示すように、送り仮名を省くことができる。

【例】 浮かぶ (浮ぶ) 生まれる (生れる) 押さえる (押える) 抽らえる (抽える)

- 暗れやかだ (暗やかだ)
- 積もる (積る) 聞こえる (聞える)
- 起こる (起る) 落とす (落す) 集らす (当る) 当たる (当る) 終わる (終る)
- 変わる (変る)

(注意) 次の語は、それぞれ () の中に示す語を含むものとは考えず、通則 1 によるものとする。

- 明るい [明ける] 荒い [荒れる] 悔しい [悔いる] 恋しい [恋う]

2 活用のない語

通則 3

本則 名詞 (通則 4 を適用する語を除く。)は、送り仮名を付けない。

寒空 深淵け
 愚空者
 行き帰り 伸び縮み 乗り降り 板け駆け 作り笑い 暮らし向き 売り上げ
 取り扱い 乗り換え 引き換え 歩み寄り 申し込み 移り変わり
 長生堂 早起き 苦し物れ 大写真
 粘り強さ 有り難み 待ち遠しさ
 乳飲童子 無理強い 立ち高揚る強い 呼び出し電話
 次々 帯々
 近々 深々
 休み休み 行く行く

許容 読み間違えるおそれのない場合は、次の()の中に示すように、送り仮名を省くことができる。

- (例) 昔ま昔ま 抜く(古抜く) 申し込む(申込む) 打ち合わせる(打ち合せる・打合せ)
 向かい合わせる(向い合せる) 聞き苦しい(聞き苦しい) 待ち遠しい(待遠しい)
 田植え(田植) 封切り(封切) 落書き(落書) 雨上がり(雨上り) 日当たり(日当り) 夜明け(夜明) 入り江(入江) 飛び火(飛火) 合せ合せ鏡(合せ鏡) 預かり金(預り金) 板い板い駆け(板駆け) 暮らし向き(暮し向き) 売り上げ(売上げ・売上) 取り扱いい(取扱いい・取扱) 乗り換え(乗換え・乗換) 引き換え(引換え・引換) 申し込ひひ(申込み・申込) 移り変わり(移り変り) 有り難み(有難み) 待ち遠しさ(待遠しさ) 立ち居振る舞いい(立ち居振舞いい・立ち居振舞) 呼び出し電話(呼出し電話・呼出電話)

(注意) 「こけら落とし(こけら落し)」, 「さび止め」, 「冷いざらし」, 「打ちあひも」のように前又は後ろの部分仮名で書く場合は、他の部分については、単独の語の送り仮名の付け方による。

通則7

複合の語のうち、次のような名詞は、慣用に依って、送り仮名を付けない。
 (例)

- (1) 特定の前後の語で、慣用が固定していると認められるもの。
 ア 地位・身分・役職等の名
 課取 頭取 取締役 事務取扱
 イ 工芸品の名に用いられた「織」, 「染」, 「塗」等。
 《博多》織 《春曉》染 《鎌倉》彫 《備前》焼
 ウ その他。

昔留 気付 切手 清印 小包 振替 切符 踏切
 請負 売値 買値 仲買 歩合 両替 割引 組合 手当
 倉庫料 作付面積
 売上《高》 貸付《金》 借入《金》 繰越《金》 小売《商》 積立《金》 取扱《所》 取
 扱《注意》 取次《店》 取引《所》 乗換《駅》 乗組《員》 引受《人》 引受《時刻》 引
 換《券》 代金《引換》 振出《人》 待合《室》 見積《書》 申込《書》
 (2) 一般に、慣用が固定していると認められるもの。
 奥書 木立 子守 献立 座敷 試合 字引 場合 羽織 蓑巻 番組 番付 日付
 水引 物置 物語 役割 居敷 夕立 羽合
 台詞 台詞 榎木 置物 織物 貸家 敷石 敷地 敷物 立場 建物 並木 巻紙
 受付 受取
 浮世絵 絵巻物 仕立屋

(注意)

(1) 『博多』織, 『売上《高》』などのようにして掲げたものは、『 』の中を他の漢字で置き換えた場合にも、この通則を適用する。

(2) 通則7を適用する語は、例として挙げたものだけで尽くしてはいない。したがって、慣用が固定していると思われる限り、類推して同類の語にも及ぼすものである。通則7を適用してよいかどうか判断し難い場合には、通則6を適用する。

付表の語

「常用漢字表」の「付表」に掲げてある語のうち、送り仮名の付け方が問題となる次の語は、次のようにする。

- 1 次の語は、次に示すように返る。
 浮つく お巡りさん 差し支える 立ち退く 手伝う 服寄り
 なお、
 次の語は、()の中に示すように、送り仮名を省くことができる。
 差し支える(差支える) 立ち退く(立退く)
 2 次の語は、送り仮名を付けない。
 息吹 残敷 時雨 築山 名残 雪崩 吹雪 迷子 行方

(1) 同音の漢字による書きかえ

編者注：第2回同音審議会総会（昭和31年7月5日）で、文部大臣宛てに報告したものである。その後、各方面で参考として用いられ、これらの書きかえが定着しているものが多いので、ここに参考として掲げた。「語」なお、当用漢字表にない漢字として次の付いている漢字のうち、「語」「愛」の2字は、昭和36年10月1日付け内閣告示第1号「常用漢字表」に、また、「聞」「腹」「祝」「賢」「明」の8字は、平成22年11月30日付け内閣告示第2号「常用漢字表」に追加されたが、この報告には手を加えていない。

「同音の漢字による書きかえ」について（報告）

同音審議会は、当用漢字の適用を円滑にするため、当用漢字表にない漢字を含んで構成されている漢語を処理する方法の一つとして、表中同音の別の漢字に書きかえすることを審議し、その結果、別紙「同音の漢字による書きかえ」を決定した。

当用漢字を使用する際、これが広く参考として用いられることを希望する。

同音の漢字による書きかえ

- 1 当用漢字の使用を円滑にするため、当用漢字表以外の漢字を含んで構成されている漢語を処理する方法の一つとして、表中同音の別の漢字に書きかえることが考えられる。ここには、その書きかえが必要であることと認め、広く社会に用いられることを希望するものを示した。
- 2 同音で、単に字体の異なるだけのものも掲げている。
- 3 字音の中には、いわゆる習用音によったものもある。

（例）散 水 → 散 氷
 矢印の左は当用漢字表にない漢字で書かれる漢語、右は書きかえである。

1字のものは、左の字は右の字に書きかえてさしつかえないことを示す。

(法) 法令用語改正例	国語審議会建議
(物) 学術用語集(物理 学 編)	文部省編
(工) " (土木工学編)	"
(鉱) " (採鉱や金学編)	"
(化) " (化学 編)	"
(船) " (船舶工学編)	"
(建) " (建築学 編)	"
(医) 医学用語集(第1次選定)	日本医学学会用語整理委員会編および現在文部省学術用語分科審議会医学用語専門部会で採用のもの。

× …………… 当用漢字表にない漢字

(2)一ア 「異字同訓」の漢字の用法

籍者注：国語審議会漢字部会が作成したものの、第40回国語審議会総会（昭和47.6.28）で、「当用漢字改定審議表」の審議に際し、参考資料として配布されたが、総会として審議・議決したものではない。したがって、答申には含まれていないが、各方面で利用されているので参考のため掲げた。なお、「常用漢字表」の通用字体に合わせて型を打て改めた。

国語審議会漢字部会

「異字同訓」の漢字の用法

- 1 この表は、同音で意味の近い語が、漢字で書かれる場合、その慣用上の使い分けの大体を、用例で示したものである。
- 2 その意味を表すのに、二つ以上の漢字のどちらを使うかが一定せず、どちらを用いてもよい場合がある。又、一方の漢字が広く一般的に用いられるのに対して、他方の漢字はある限られた範囲にしか使われないものもある。
- 3 その意味を表すのに、適切な漢字のない場合、又は漢字で書くことが適切でない場合がある。このときは、当然仮名で書くことになる。

あう 合う —— 計算が合う。目が合う。服が体に合う。好みに合う。潮に合わない仕事。駅で落ち合う。
 会う —— 客と会う時刻。人に会いに行く。
 遭う —— 災難に遭う。にわか雨に遭う。
 あがる・あげる 上がる・上げる —— 地位が上ががる。物価が上ががる。腕前が上ががる。お探いの品物上げる。
 掲がる・掲げる —— 火花が掲がる。歓声が掲がる。たこを掲げる。船荷を掲げる。てんぷらを掲げる。
 挙げる —— 例を挙げる。全力を挙げる。国を挙げて。犯人を挙げる。
 あく・あける 明く・明ける —— 背の明いた服。夜が明ける。
 空く・空ける —— 席が空く。空き箱。家を空ける。時間を空ける。
 開く・開ける —— 幕が開く。開いた口がふさがらない。店を開ける。窓を開ける。
 あし 足 —— 足の鼓。手足。足しげく通う。客足。
 脚 —— 机の脚（足）。えり脚（足）。船脚（足）。

価 —— 価が高くて買えない。商品に価を付ける。
 値 —— そのもの持つ値。未知数xの値を求める。称値に値する。
 あたたかい・あたたかだ・あたたかまる —— あたたまる・あたためる
 暖かい・暖かだ・暖かまる —— 暖かい心。暖かな毛布。暖まった空気。室内を暖める。
 温かい・温かだ・温かまる —— 温かい料理。温かな家庭。心温まる話。スープを温める。
 あたる・あてる
 当たる・当てる —— ポールが体に当たる。任に当たる。予報が当たる。出発に当たって。胸に手を当てる。日光に当てる。当て外れ。
 充てる —— 建築費に充（当）てる。保安要員に充（当）てる。
 あつい
 暑い —— 今年の夏は暑い。暑い部屋。暑がり屋。
 熱い —— 熱い湯。
 厚い —— 厚い壁で隔てる。支持者の層が厚い。手厚いもてなし。
 あと
 跡 —— 足の跡。苦心の跡が見える。容疑者の跡を追う。跡目を継ぐ。
 後 —— 後の祭り。後を頼んで行く。後から行く。後になり先になり。
 あぶら
 油 —— 油を流したような海面。ごまの油で揚げた。水と油。火に油を注ぐ。
 脂 —— 脂がのる茸ごろ。牛肉の脂。脂ぎった顔。
 あやまる
 誤る —— 通川を誤る。誤りを見付ける。
 謝る —— 謝って済ます。手落ちを謝る。
 あらい
 荒い —— 波が荒い。気が荒い。金遣いが荒い。
 粗い —— 網の目が粗い。きめが粗い。仕事が粗い。
 あらわす・あらわされる 表す・表れる —— 言葉に表す。喜びを顔に表す。喜びの表れ。
 現す・現れる —— 姿を現す。太陽が現れる。怪獣が現れる。
 著す —— 啓物を著す。
 ある
 有る —— 財源が行る。子が有る。有り合わせ。有り金。有様。
 在る —— 日本はアジアの東に在る。在り方。
 あわせる 合わせる —— 手を合わせて拜む。時計を合わせる。調子を合わせる。力を合わせる。
 併せる —— 二つの会社を併せる。両者を併せて考える。併せて健康を折る。
 いたむ・いためる

痛む・痛める — 足が痛む。腰を痛める。
 傷む・傷める — 家が傷む。傷んだ果物。建物を傷める。
 悼む — 死を悼む。故人を悼む。
 いる

入る — 念の入った話。気に入る。仲間入り。恐れ入る。
 要る — 金が要る。保証人が要る。親の承諾が要る。何も要らない。
 うける
 受ける — 注文を受ける。命令を受ける。保護を受ける。相談を受ける。
 請ける — 助けを請う。下請け。
 うつ

打つ — くぎを打つ。碁を打つ。電報を打つ。心を打つ話。打ち消す。
 討つ — 賊を討つ。義士の討ち入り。相手を討ち取る。
 撃つ — 鉄砲を撃つ。いのししを猟銃で撃つ。
 うつつ

写す・写る — 書類を写す。写真を写す。風景を文庫に写す。写真の中央に写っている人。
 映す・映る — 幻灯を映す。スクリーンに映す。壁に影が映る。鏡に姿が映る。岩物がよく映る。
 うむ・うまれる

生む・生まれる — 新記録を生む。傑作を生む。下町生まれ。京都に生まれる。
 産む・産まれる — 卵を産み付ける。産みの苦しみ。産み月。予定日が来てもなかなか産まれない。
 うれい・うれえ

憂い・憂え — 後部の憂い(え)。災害を招く憂い(え)がある。
 怒い — 春の怒い。怒いに怒む。
 える

得る — 勝利を得る。許可を得る。得物を振り回す。
 獲る — 獲物をねらう。
 おかす

犯す — 過ちを犯す。法を犯す。
 犯す — 権利を侵(犯)す。国境を侵(犯)す。
 冒す — 危険を冒す。激しい雨を冒して行く。
 おくる

送る — 荷物を送る。卒業生を送る。順に席を送る。送り状。
 贈る — お祝い品を贈る。感謝状を贈る。故人に位を贈る。
 おくれる
 遅れる — 完成が遅れる。列車が遅れる。会合に遅れる。

後れる — 気後れする。人に後れを取る。後れ毛。
 おこす・おこる — 起こす・起こる — 体を起こす。訴訟を起こす。朝早く起こす。事件が起こる。持病が起こる。物事の起こり。
 興す・興る — 産業を興す。国が興る。
 おさえる

抑さえる — 紙の端を押さえる。証拠を押さえる。要点を押さえる。差し押さえる。
 抑える — 物価の上昇を抑える。要求を抑える。怒りを抑える。
 おさまる・おさめる

取まる・取める — 博物館に取まる。争いが取まる。効果を取める。成功を取める。目録に取める。
 納まる・納める — 品物が納まった。国庫に納まる。税を納める。注文の品を納める。
 治まる・治める — 国内がよく治まる。痛みが治まる。領地を治める。
 修まる・修める — 身持ちが修まらない。学を修める。

おす
 押す — ペルを押す。故車を押す。押し付けがましい。
 推す — 会長に推す。推して知るべしだ。
 おどる

踊る — リズムに乗って踊る。踊らされて動く。盆踊り。踊り子。
 躍る — 馬が躍り上がる。小躍りして喜ぶ。胸が躍る。
 おもて

表 — 裏と表。表で遊ぶ。表向き。
 面 — 面も振らずまっすぐに。矢面に立つ。
 おりる・おろす

降りる・降りる — 電車で降りる。高所から飛び降りる。月面に降り立つ。霜が降りる。次の駅で降りる。主役から降りた。
 下りる・下ろす — 轡が下りる。錠が下りる。許可が下りる。枝を下ろす。貯金を下ろす。
 脚す — 小売りに脚す。卸値。たな卸し。

かえす・かえる
 返す・返る — もとの持ち主に返す。借金を返す。恩返し。貸した金が返る。正気に返る。返り吹き。
 帰す・帰る — 親もとへ帰す。故郷へ帰る。師らぬ人となる。帰り道。

かえりみる
 顧みる — 過去を顧みる。顧みて他を言う。
 省みる — 自らを省みる。省みて恥じるところが無い。
 かえる・かわる

変える・変わる —— 形を変える。観点を要する。位置が変わる。心変わりする。声変わり。変わり廻る。

換える・換わる —— 物を金に換える。名義を置き換える。車を乗り換える。金に換わる。

替える・替わる —— 振り替える。替え歌。二の替わり。入れ替わる。社長が替わる。

代える・代わる —— 書面をもってあいさつに代える。父に代わって言う。身代わりになる。

かおる

薫る —— 風薫る。

香り —— 茶の香り。

かかる・かける

掛かる・掛ける —— 迷惑が掛かる。腰を掛ける。保険を掛ける。壁掛け。掛け売り。

懸かる・懸ける —— 月が中天に懸かる。優勝が懸かる。賞金を懸ける。命を懸けて。

架かる・架ける —— 橋が架かる。橋を架ける。電線を架ける。

係る —— 本件に係る訴訟。係り結び。係員。

かけ

陰 —— 山の陰。陰の声。陰口を利く。

影 —— 障子に影が映る。影を隠す。影も形もない。影が薄い。

かた

形 —— 自由形。跡形もなく。

型 —— 型にはまる。1970年型。血液型。鋳型。

かたい

堅い —— 堅い材木。堅炭。手強い商売。

固い —— 団結が固い。固練り。頭が固い。固く信じる。

硬い —— 硬い石。硬い表現。

かわ

皮 —— 皮をはく。とらの皮。木の皮。面の皮。化けの皮。

革 —— 革のくつつ。なめし革。

かわく

乾く —— 空気が乾く。干し物が乾く。乾いた土。

渴く —— のどが渴く。渴きを覚える。

さく

聞く —— 物音を聞いた。話し声を聞く。うわさを聞く。聞き流しにする。

騒く —— 言葉を騒く。国民の声を騒く。

さく

効く —— 薬が効く。宣伝が効く。効き目がある。

利く —— 左手が利く。目が利く。機転が利く。

きわまる・きわめる

窮まる・窮める —— 進退窮まる。窮まりなき宇宙。真理を窮(究)める。

極まる・極める —— 不都合極まる言動。山頂を極める。米菴を極める。具極める。極めて優秀な成績。

究める —— 学を究(窮)める。

くら

倉 —— 倉庫料。倉庫証券。

蔵 —— 蔵盛散。蔵払い。

こえる・こす

越える・越す —— 山を越える。峠を越す。年を越す。引越す。

超える・超す —— 現代を超(越)える。人間の能力を超(越)える。百万円を超(越)える額。

こおる・こおり

凍る —— 湖水が凍る。土が凍る。

氷 —— 氷が強った。氷をかく。氷砂糖。

さがす

捜す —— うちの中を捜す。犯人を捜す。

探す —— 空き家を探(捜)す。あらを探(捜)す。

さく

裂く —— 布を裂く。巾を裂く。引き裂く。

割く —— 時間を割く。紙面を割く。人手を割く。

さげる

下げる —— 値段を下げる。軒を下げる。

掲げる —— 手に掲げる。手掲げかばん。

さす

差す —— 腰に刀を差す。かさを差す。差し差されつ。行司の差し遣え。抜き差しならぬ。差し支え。差し出す。

指す —— 目的地を指して進む。名指しをす。指し示す。

刺す —— 人を刺す。布を刺す。本塁で刺される。とげが刺さる。

さます・さめる

覚ます・覚める —— 太平の眠りを覚ます。迷いを覚ます。目が覚める。寝覚めが悪い。

冷ます・冷める —— 湯が冷めし。湯が冷める。料理が冷める。熱が冷める。

しずまる・しずめる

静まる・静める —— 心が静まる。あらしが静まる。鳴りを静める。気を静める。

鎮まる・鎮める —— 内乱が鎮まる。反乱を鎮める。痛みを鎮める。

沈める —— 船を沈める。

しぼる

絞る — 手ぬぐいを絞る。絞り染め。
 搾る — 乳を搾る。搾り取る。
 しまる・しめる
 締まる — 締めを締める。ひもが締まる。引き締まった顔。帯を締める。ねじを締める。心を引き締める。申し込みの締め切り。
 絞まる・絞める — 首が絞まる。首を絞める。羽交い絞め。
 閉まる・閉める — 戸が閉まる。ふたを閉める。店を閉める。
 すすめる
 進める — 前へ進める。時計を進める。交渉を進める。
 勧めめる — 入会を勧めめる。転地を勧めめる。
 薦める — 候補者として薦める。
 する
 刷る — 名刺を刷る。刷り物。
 擦る — 転んでひざを擦りむく。擦り傷。洋服が擦り切れる。
 そう
 治う — 川沿いの家。線路に沿って歩く。
 添う — 影の形に添うように。連れ添う。付き添い。
 そなえる・そなわる
 備える — 台風に備える。調味品を備える。老後の備え。必要品はすべて備わっている。人使が備わる。
 供える — お神酒を供える。お供え物。
 たえる
 堪える — 任に堪える。鑑賞に堪えない。道徳に堪えない。
 耐える — 重圧に耐(堪)える。風雪に耐(堪)える。困苦欠乏に耐(堪)える。
 たずねる
 尋ねる — 道を尋ねる。由米を尋ねる。尋ね人。
 訪ねる — 知人を訪ねる。史跡を訪ねる。明日お訪ねします。
 たたかう
 戦う — 敵と戦う。
 闘う — 病氣と闘う。
 たつ
 断つ — 退路を断つ。快刀乱麻を断つ。奈斯ち。
 絶つ — 命を絶つ。縁を絶つ。消息を絶つ。後を絶たない。
 裁つ — 生地を裁つ。紙を裁つ。裁ちばさみ。
 たつ・たてる
 立つ・立てる — 旗竿に立つ。席を立てる。使者に立つ。危機に立つ。危機に立つ。見通しが立つ。うわさが

立つ。立ち合う。柱を立てる。計画を立てる。手柄を立てる。旗を立てる。旗を立てる。立て直す。
 建つ・建てる — 家が建つ。ビルを建てる。網橋を建てる。建て前。

たつとい・とうとい

尊い — 尊い神。尊い犠牲を払う。
 貴い — 貴い資料。貴い体験。

たま

玉 — 玉にきず。目の玉。玉をみがく。
 球 — 電気の球。球を投げる。
 弾 — ビストルの弾。

つかう

使う — 機械を使って仕事を。重油を使う。
 遣う — 氣遣う。心遣い。小遣い銭。仮名遣い。

つく・つける

付く・付ける — 墨が顔に付く。味方に付く。利息が付く。名を付ける。氣を付ける。条件を付ける。付け加える。

着く・着ける

着く・着ける — 席に着く。手紙が着く。東京に着く。船を岸に着ける。仕事に手を着ける。衣服を身に着ける。

就く・就ける

就く・就ける — 床に就く。着に就く。役に就ける。
 つく — 事件が相次ぐ。富士山に次ぐ山。取り次ぐ。次の間。

継ぐ

継ぐ — 符を継ぐ。跡を継ぐ。引き継ぐ。継ぎ目。継ぎを当てる。
 接ぐ — 木を接ぐ。骨を接ぐ。接ぎ木。

つくる

作る — 米を作る。屋敷を作る。小説を作る。まぐろを刺身に作る。生け作り。
 造る — 船を造る。庭園を造る。酒を造る。

つづしむ

憤む — 身を憤む。酒を憤む。言葉を憤む。
 譴む — 譴んで問う。譴んで愆咎を表す。

つとめる

努める — 完成に努める。解決に努める。努めて早起きする。
 勤める — 会社に勤める。永年勤め上げた人。本堂でお勤めをする。勤め人。
 務める — 議長を務める。主役を務める。主婦の務めを果たす。

とく・とける

解く・解ける — 結び目を解く。包囲を解く。問題を解く。会長の任を解かれる。ひもが解ける。雪解け。疑いが解ける。
 溶く・溶ける — 絵の具を溶く。砂糖が水に溶ける。地域社会に溶け込む。

ととのう・ととのえる

整う・整える —— 整った文章。隊列を整える。身辺を整える。調子を整える。

調う・調える —— 嫁入り道具が調う。暗れ着を調える。味を調える。

とぶ

飛ぶ —— 鳥が空を飛ぶ。アフリカに飛ぶ。うわさが飛ぶ。海に飛び込む。家を飛び出す。飛び石。

跳ぶ —— みぞを跳ぶ。三段跳び。跳びはねる。

とまる・とめる

止まる・止める —— 交通が止まる。水道が止まる。笑いが止まらない。息を止める。通行止め。

留まる・留める —— 小鳥が木の枝に留（止）まる。ボタンを留める。留め置く。留置。

泊まる・泊める —— 船が港に泊まる。宿直室に泊まる。友達を家に泊める。

とる

取る —— 手に取る。着物の汚れを取る。資格を取る。メモを取る。連絡を取る。年を取る。

探る —— 血を探る。高校の卒業生を探る。会議で決を探る。

執る —— 筆を執る。事務を執る。式を執り行う。

捕る —— ねずみを捕る。生け捕る。捕り物。

撮る —— 写真を撮る。映画を撮る。

ない

無い —— 金が無い。無い者ねだり。

亡い —— 亡き父をしのぶ。

なおす・なおる

直す・直る —— 誤りを直す。機械を直す。服紋を直す。故障を直す。ゆがみが直る。

治す・治る —— 風邪を治（直）す。けがが治（直）る。治（直）らない病氣。

なか

中 —— 箱の中。両者の中に入る。

仲 —— 仲がいい。仲を取り持つ。仲働き。

ながい

長い —— 長い髪の毛。長い道。杖が長い。杖が長く伸びる。

永い —— ついに永い眠りに就く。永の別れ。末永く戻る。

ならう

習う —— 先生にピアノを習う。兄習う。

做う —— 前例に做う。

のせる・のる

乗せる・乗る —— 母を飛行機に乗せて帰す。電波に乗せる。電波に乗せる。計略に乗せる。電車に乗って行く。馬に乗る。風に乗って飛ぶ。時流に乗る。相談に乗る。

載せる・載る —— 自動車に貨物を載せる。たなに本を載せる。雑誌に広告を載せる。机に載つ

ている水。新聞に載った事件。

のばす・のびる

伸ばす・伸びる —— 手足を伸ばす。勢力を伸ばす。草が伸びる。身長が伸びる。学力が伸びる。

伸ぶ

延ばす・延びる —— 出典を延ばす。開金を延ばす。地下鉄が郊外まで延びる。寿命が延びる。

支払いが延び延びになる。

のぼる

上る —— 水銀柱が上る。損書が一億円に上る。川を上る。坂を上る。上り列車。

登る —— 山に登る。木に登る。滝登りする。

昇る —— 日が昇（上）る。天に昇（上）る。

はえ・はえる

映え・映える —— 夕映え。紅葉が夕日に映える。

栄え —— 栄えある勝利。見事な出来栄え。見栄えがする。

はかる

図る —— 合理化を図る。解決を図る。便宜を図る。

計る —— 時間を計る。計り知れない恩恵。まんまと計られる。

測る —— 水深を測る。標高を測る。距離を測る。面積を測る。測定器で測る。

はる —— 目方をはる。秤で量る。容積をはる。

謀る —— 暗殺を謀る。悪事を謀る。

諮る —— 審議会に諮る。

はじまる・はじめ・はじめて・はじめ

初め・初めて —— 初めこう思った。初めての経験。

始まる・始め・始める —— 会が始まる。始めと終わり。御用始め。仕事を始める。

はな

花 —— 花も実もない。花の都。花形。

華 —— 華やか。華々しい。

はなす・はなれる

離す・離れる —— 間を離す。駅から遠く離れた町。離れた島。職を離れる。離れ離れになる。

放す・放れる —— 鳥を放す。見放す。放し飼ひ。矢が弓弦を放れる。放れ馬。

はやい

早い —— 時期が早い。気が早い。早く起きる。早変わり。早口。矢継ぎ早。

速い —— 流れが速い。投手の球が速い。テンボスが速い。車の速さ。

ひ

火 —— 火が燃える。火に掛ける。火を見るより明らか。

灯 —— 灯がともる。速くに町の灯が見える。

ひく

引く — 綱を引く。線を引く。例を引く。車を引く。
 弾く — ピアノを弾く。ショパンの曲を弾く。
 ふえる・ふやす
 増える・殖やす — 財産が増える。財産を殖やす。
 殖える・増やす — 人数が増える。水かさが増える。人数を増やす。
 ふく
 吹く — 風が吹く。笛を吹く。
 噴く — 火を噴き出す。火山が煙を噴く。
 ふける
 更ける — 夜が更ける。秋が更ける。
 老ける — 老けて見える。老け込む。
 ふた
 二 — 二重。二目と見られない。二つ折り。
 双 — 双子。双葉。
 ふね
 舟 — 舟をこぐ。小舟。ささ舟。
 船 — 船の甲板。船で帰国する。船旅。親船。
 ふらう
 振るう — 士気が振るわない。刀を振るう。
 震う — 声を震わせる。身震い。武者震い。
 奮う — 勇気を奮って立ち向かう。奮って参加する。奮い立つ。
 まざる・まじる・まぜる
 交ざる・交じる・交せる — 麻が交ざっている。漢字仮名交じり文。交ぜ織り。
 混ざる・混じる・混ぜる — 酒に水が混ざる。西洋人の血が混じる。異物が混じる。雑音が混
 じる。セメントに砂を混ぜる。絵の具を混ぜる。
 まち
 町 — 町と村。町ぐるみの歓迎。町役場。下町。
 街 — 街を吹く風。学生の街。街の明かり。
 まるい
 丸い — 背中が丸くなる。丸く治める。丸ごと。丸太。日の丸。
 円い — 円(丸)い窓。円(丸)く輪になる。
 まわり
 回り — 身の回り。胴回り。
 周り — 池の周り。周りの人。
 みる
 見る — 遠くの景色を見る。エンジンの調子を見る。面倒を見る。

診る — 患者を診る。脈を診る。
 もと
 下 — 法の下に平等。一際の下に倒した。
 元 — 火の元。出版元。元が掛かる。
 本 — 本を直す。本と末。
 店 — 資料を基にする。基づく。
 や
 屋 — 屑屋。酒屋。屋敷。
 家 — 二階家。家主。家賃。
 やぶる・やぶれる
 破る・破れる — 約束を破る。障子が破れる。平和が破れる。
 敗れる — 競技に敗れる。勝負に敗れる。人生に敗れる。
 やわらかい・やわらかだ
 柔らかい・柔らかだ — 柔らかい毛布。身のこなしが柔らかだ。物柔らかな態度。
 軟らかい・軟らかだ — 髪が軟(柔)らかい。軟(柔)らかい話。軟(柔)らかな土。
 よい
 良い — 品質が良い。成績が良い。手際が良い。
 善い — 善い行い。世の中のために善いことをする。
 よむ
 読む — 本を読む。字を読む。人の心を読む。秒読み。
 詠む — 和歌を詠む。一言詠む。
 わかれる
 分かれる — 道が二つに分かれる。意見が分かれる。勝負の分かれ目。
 別れる — 幼い時に両親と別れる。友と駅頭で別れる。家族と別れて住む。
 わざ
 業 — 至難の業。離れ業。軽業。業師。
 技 — 柔道の技。技をみがく。
 わずらう・わずらわず
 煩う・煩わす — 思い煩う。人手を煩わす。心を煩わす。
 患う — 胸を患う。三年ほど患う。

(2) 一 「異字同訓」の漢字の用法例 (追加字種・追加音訓関連)

編者注：文化審議会答申「改定常用漢字表」(平成22年6月7日)に「参考」として付されたものである。「常用漢字表」に新たに追加された字種・字訓に関連して、新たに生じる異字同訓の関係を整理する目的で文化審議会全国語分科会が作成したものであるが、管甲の一部を成すものではない。

- あたる・あてる
 - 当たる・当てる —— ボールが体に当たる。任に当たる。予報が当たる。出発に当たって、胸に手を当てる。日光に当てる。当て外れ。
 - 充てる —— 建築費に充(当)てる。保安要員に充(当)てる。
 - 宛てる —— 恩師に宛てて手紙を書く。本社に宛てられた書類。
- あと
 - 跡 —— 車輪の跡。苦心の跡が見える。父の跡を継ぐ。
 - 痕 —— 傷痕が痛む。壁に残る弾丸の痕。手術の痕(跡)。
- あやしい
 - 怪しい —— 拳動が怪しい。空模様が怪しい。怪しい人影を見る。
 - 妖しい —— 妖しい魅力。妖しく輝く瞳。
- いく
 - 行く —— 電車で行く。早く行く。仕事帰りに図書館に行つた。
 - 逝く —— 彼が逝って3年たつ。多くの人に惜しまれながら逝つた。
- うた
 - 歌 —— 歌を歌う。美しい歌声が響く。
 - 唄 —— 小唄の御所。長唄を習う。馬子唄が引聞こえる。
- おそれる
 - 恐れる —— 死を恐れる。報復を恐れて逃亡する。失敗を恐れるな。
 - 畏れる —— 師を畏れ敬う。神を畏(恐)れる。畏(恐)れ多いお言葉。
- かかる・かける
 - 掛かる・掛ける —— 迷惑が掛かる。腰を掛ける。保険を掛ける。取付け。掛け売り。
 - 懸かる・懸ける —— 月が中天に懸かる。優勝が懸かる。賞金を懸ける。命を懸けて。
 - 架かる・架ける —— 橋が架かる。橋を架ける。電線を架ける。
 - 係る —— 本件に係る訴訟。係り結び。係員。
 - 賭ける —— 人命を賭ける。人生を賭(懸)けた勝負。名譽を賭(懸)けて争う。
- かく
 - かく —— 小説を書く。日記を書く。小さな字で書かれた本。

- 描く —— 油絵を描く。ノートに地図を描く。
- きる
 - 切る —— 野菜を切る。期限を切る。電源を切る。縁を切る。
 - 斬る —— 刀で斬(切)る。敵を斬(切)り殺す。世相を斬(切)る。
- こう
 - 請う —— 許可を請(乞)う。紹介を請(乞)う。案内を請(乞)う。
 - 乞う —— 乞う御期待。命乞いをする。雨乞いの儀式。慈悲を乞う。
- こたえる
 - 答える —— 質問に答える。正確に答える。
 - 応える —— 期待に応える。時代の要請に応える。
- こむ
 - 混む —— 電車が混(込)む。混(込)み合う店内。人混(込)み避ける。
 - 込む —— 負けが込む。手の込んだ細工を施す。仕事を立て込む。
- つくる
 - 作る —— 米を作る。規則を作る。詩を作る。刺身に作る。生け作り。
 - 造る —— 船を造る。庭園を造る。酒を造る。
 - 創る —— 新しい文化を創(作)る。画期的な商品を創(作)り出す。
- つとまる
 - 勤まる —— 私にはこの会社は勤まらない。彼にも十分勤(務)まるる任事だ。
 - 務まる —— 彼には主従は務まらないだろう。全員が務まるかどうか不安だ。
- とらえる
 - 捕らえる —— 犯人を捕らえる。獲物の捕らえ方。
 - 捉える —— 文章の要点を捉える。問題の捉え方が難しい。
- におい・におう
 - 匂い・匂う —— 梅の化の匂い。香水がほのかに匂う。
 - 臭い・臭う —— 魚の腐った臭い。生ごみが臭う。
- のべる
 - 延べる —— 出発の期日を延べる。布留を延べる。命の延べ棒。
 - 伸べる —— 手を伸べて助け出す。救いの手を伸べる。
- はやまる
 - 早まる —— 出発時間が早まる。順番が早まる。早まった行動。
 - 速まる —— 回転のスピードが速まる。脈拍が速まる。
- はる
 - 張る —— 氷が張る。テントを張る。策略を張り巡らす。張りのある声。
 - 貼る —— ポスターを貼る。切手を貼り付ける。マイル貼(張)りの感。

(3) 戸籍法及び戸籍法施行規則（抄）

編集注1：昭和56年10月1日付けで「常用漢字表」（内閣告示第1号・内閣訓令第1号）が定められ、昭和21年内閣告示第32号（当用漢字表）、昭和26年内閣告示第1号（人名用漢字別表）及び昭和51年内閣告示第1号（人名用漢字追加表）が廃止されたことに伴い、同日付けで「戸籍法施行規則の一部を改正する省令」（法務省令第51号）が発せられ、子の名に用いる文字の範囲を定めた戸籍法施行規則第60条が改正された。

この時点で戸籍法施行規則の別表第二（人名用漢字別表）に採上げられた漢字は166字だったが、その後、平成2年3月1日付けの改正（平成2年4月1日から施行）で118字、平成9年12月3日付けの改正で1字（親）、平成16年2月23日付けの改正で1字（曾）、同年6月7日付けの改正で1字（嗣）、同年7月12日付けの改正（以上、いずれも公布の日から施行）で3字（見、識、駮）追加され、人名用漢字の合計は290字となった。

さらに、平成16年9月27日付けの改正（公布の日から施行）で、人名用漢字が488字追加されたが、同時に、昭和56年の改正以来、人名用漢字許容字体としてきた205字（常用漢字の旧字体195字、人名用漢字の旧字体10字）が新たに人名用漢字として追加された。この改正により、人名用漢字の総数は983字（290字+488字+205字）となったが、平成21年4月30日付けの改正（公布の日から施行）で2字（楯、鸞）追加され、人名用漢字の総数は985字となった。

その後、平成22年11月30日付けで「常用漢字表」（内閣告示第2号）が改定されたことに伴い、①人名用漢字から常用漢字になった129字を削除、②常用漢字表から削除される5字を追加、③「弟」「舅」「親」が常用漢字表に追加されたことから、この3字の康熙字典典体に当たる「彌」「曾」「親」を見則別表第二の一の表から削除し、見則別表第二の二の表に追加した。この結果、平成23年6月現在の人名用漢字の総数は、861字となっている。

戸籍法（抄）

公布：昭和22.12.12 法律第224号
最近改正（第50条関係）：平成11.12.22
法律第160号
原文は縦書き。

- 戸籍法を改正する法律をここに公布する。
- 第五十条 子の名には、常用平易な文字を用いなければならない。
- ② 常用平易な文字の範囲は、法務省令でこれを定める。

ほか

外 ―― 思いの外に到着が早かった。想像の外の事件が起こる。

他 ―― この他に用意するものはあるか。他の人にも尋ねる。

わく

沸く ―― 湯が沸く。風呂が沸く。すばらしい演技に場内が沸く。

湧く ―― 温泉が湧く。勇気が湧く。盛大な拍手が湧（沸）く。

段に向上したと思いません。このことから漢字は少なく、かなとの割合は3対7を目安とするのがよいでしょう¹²⁾。つまり「漢字1文字に、かな2文字」の割合です。

第4節 ■ 記号と符号の使用法

本章の最後は、文章を分かりやすくするための記号と符号について、一覧表にまとめました。

記号・符号	用法の原則	用例
・ (句点) (最近では全角英字用のピリオドを使用傾向がある)	(1) 文章の終わりに付ける。括弧の中で文章が使われている場合にも適用する (2) 並列の項目で、“…すること”、“…とき”、“…場合”などで文末が終わるときにも用いる 【使用するべきでない場合】表題、題名、その他簡単な語句を掲げる場合や、事物の名称を並立する場合などには「。」は使わない。	……と……とする(BはAである。)
、 (読点) (最近では全角英字用のコンマを使用傾向がある)	(1) 主語、主題を示す“…は”、“…も”の後に付ける (2) 条件や制限を表す語句の後に付ける (3) 文の始めの副詞句の後に付ける (4) 二つ以上の名詞または語句の並列のとき、それらの区切り用いる (5) 語勢を生じる恐れがある場合に用いる。語句の切れ目、意味の切れ目、自然の息継ぎで間を取る場合、など	…場合、…するとき、…する限り、 特に、殊に、更に、既に、例えば、なほ、 また、しかし、ただし、したがって、 邦文(対応する英文表記) A、B、Cなど(A、B、C etc.) A、B及びC(A、B and C) A、BまたはC(A、B or C) ひのの、ののみや、ひのの、のみや。
・ (中点)	(1) 名詞の並列で、読点(コンマ)で区切るよりも集合の意味合いの強い場合に付ける。このとき“など”、“及び”、“又は”をつけたい 注1 集合がさらに集まる場合には、括弧を適当に使うと良い 注2 並列の項目に共通する語句があるときは、その語句を省かないこと	材料・寸法・質量・質量・上側・下側 (上側、下側)、(前面、側面、背面)及び正面 電気・蒸気機関車 → 電気機関車・蒸気機関車・上・下許容差 → 上許容差・下許容差
、 (中点)	(3) 読点(コンマ)で区切ったのでは文章が読みにくい場合に付ける (4) 題名、見出し、表などの中、各詞の連結などの場合で、体裁をよくしたいときに付ける 【使用するべきでない場合】掛け算の記号には、代用品である中点記号(・)、星印(*)、英字のエクソラス(Xまたはx)は使わず、掛け算記号(X)を使うこと	坂の上側、下側から → 坂の上側・下側から

記号・符号	用法の原則	用例
:(コロン)	(1) 例を示すときに、“例”または“例3”などの文字の後に付ける (2) 用語、記号を説明するとき、その用語、記号の後に付ける (3) 時刻の表示コード(JIS X 0302)で使う	
” (引用符号)	語句を引用する場合、または文字・記号・用語などを括弧に明らかにする必要がある場合に用いる 一般には“…”から“…”までの意味を符号で与えるときに用いる 注1 単位を数値の後に示す必要があるときは、右にくる数字の後にだけつける 注2 文字や記号、符号などが頭にくる場合、変化の可能性のある記号は繰り返し返すのが良い 注3 数で表す範囲の意味は、前後の数値も含む	呼び径4~10mmの場合には… JIS Z 8910~Z 8918 「14~20」は14と20も含む
— (ダッシュ)	(1) 主題と副題、書名と副書名などの区切りに用いる (2) 連続符号“…”とは異なり、所属の意味などで用いる 注1 漢字コードでは、かな文字の長音記号や、数学のマイナス記号とは異なることに注意する。英文では通常、ハイフン二つでダッシュの代用に使用する	JIS Z 8120~1978 (8120)の1978年
…または… (省略符号)	二点記号(二点リーダー)を2文字分並べることが普通。漢字コードには、二点リーダーと三点リーダーが定められている 原則として“々”を、同じ漢字を繰り返す語にだけ用いる 注1 かな文字の繰り返し記号(“々”、“々々”、“々々々”、“々々々々”など)は使わない 日本語の文章の中で空白を置くのは、?との後である (1) 一般には、丸括弧を用いる (2) 括弧が多量になるときの使い方は、内側から、丸括弧、角括弧、波括弧の順とする (3) かぎ括弧「」、英字の符号<>などは用いない (4) 括弧は必ず一対で使い、閉じていなければならぬ (5) 波括弧は、単位系の異なる数値を併記するときに限って用いることができる(JIS Z 8301) (6) 大きな寸法の角括弧、波括弧は、複数の行にまたがる項目をまとめる目的に使える。この場合、片括弧でも良い 【使用しないほうがいい場合】項目見出しなどの(1)、2)、a)のよくな片括弧、コロン“:”などで代用する	我々(現在では“われわれ”のような仮名書きが多くなった)
() (丸括弧)		
[] (角括弧)		
{ } (波括弧)		
英数字	(1) 日本語文章の中に英字・数字・記号が交じる場合の記号などの使い方は、英文の習慣に従う (2) ワードプロセッサで作成する文書の本文中の英字・数字・記号には、なるべく半角を用いる (3) 二次元、三次元など数字の入る用語の場合、用語(固有名称)の意味が強ければ漢数字にする。数字の意味が強く、漢字部分が単位としての意義が強いときは半角アラビア数字を使う	80kPa (600mmHg)、 490N.m (50kgf.m)

半角文字一覧

文字化けしている場合は、こちらをご覧ください。

文字コード	文字	名称	俗称
0020	空白		スペース、ブランク
0021	!	感嘆符	エクスクラメーションマーク、びっくりマーク
0022	"	二重引用符	ダブルクォート、ダブルクォーテーション
0023	#	番号記号	井げた、ナンバ、シャープ
0024	\$	ドル	ダラー
0025	%	パーセント	
0026	&	アンバサンド	アンド
0027	'	引用符、アポストロフィ	シングルクォート、シングルクォーテーション
0028	(小カッコ	丸カッコ、開きカッコ
0029)	小カッコ閉じ	丸カッコ閉じ、閉じカッコ
002A	*	乗算記号	アスタリスク、アスター、星印
002B	+	正符号	プラス
002C	,	カンマ	コンマ、セディユ
002D	-	負記号	マイナス、ハイフン
002E	.	ピリオド	ドット、ポイント
002F	/	斜線	スラッシュ、スラ
0030~0039	0~9	半角数字	
003A	:	コロン	
003B	;	セミコロン	
003C	<	不等号 (より小さい)	小なり、レスザン
003D	=	等号 (等しい)	イコール
003E	>	不等号 (より大きい)	大なり、グレートターザン
003F	?	疑問符	クエッションマーク、はてなマーク
0040	@	単価記号	アットマーク
0041~004F	A~O		

文字コード	文字	名称	俗称
0041~004F	A~O	半角英字	
0050~005A	P~Z		
005B	[大カッコ	角カッコ
005C	\	円記号	
005D]	大カッコ閉じ	角カッコ閉じ
005E	^	アクサンシルコンフレクス	キャレット、ハット、サーカムフレクス
005F	_	アンダーライン	下線、アンダースコア、アンダーバー
0060	`	アクサングループ	バッククォート
0061~006F	a~o	半角英字 (小)	
0070~007A	p~z		
007B	{	中カッコ	波カッコ
007C		縦線	パイプライン、パイプ、バー、バーチカルバー
007D	}	中カッコ閉じ	波カッコ閉じ
007E	~	チルデ	チルダ、チルダ、による
00A1	。	句点	
00A2	「	始かっこ	
00A3	」	終かっこ	
00A4	、	読点	
00A5	・	中点	なかまる
00A6	ヲ	半角カタカナ	
00A7~00AB	ア~イ		
00AC~00AE	エ~オ	半角カタカナ (小)	
00AF	ヲ		
00B0	一	長音符号	
00B1~00BF	ア~フ		
00C0~00CF	ア~フ	半角カタカナ	
00D0~00DD	ア~フ		
00DE	*	濁点	
00DF	。	半濁点	

1-6 数字

小山 2011 より

主な数字表記

算用 (アラビア) 数字	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10; 100; 1000; 10000
漢数字	一, 二, 三, 四, 五, 六, 七, 八, 九, 十; 百; 千; 万 壹, 貳, 參, 肆, 伍, 陸, 漆, 捌, 玖, 拾; 珀; 阡; 萬
時計 (ローマ) 数字	I, II, III, IV, V, VI, VII, VIII, IX, X; L(50); C(100); D(500); M(1000) i, ii, iii, iv, v, vi, vii, viii, ix, x; l(50); c(100); d(500); m(1000)

1-7 単位

単位の表記は JIS 規格 (JIS Z 8202、JIS Z 8203) で定められています。英字の大文字、小文字の使い方についても示されていますから、迷ったときには参照しましょう。用字・用語など一般的なものがまとめられています。(高橋 2009) →詳細は JIS をインターネット検索

┌ 単位記号の例

- 大文字で表記するもの
W, V, A
- 小文字で表記するもの
g, kg, m, cm, mm
- 大文字と小文字で表記するもの
MHz, kHz, pH

単位記号は、半角英字で表したものと、単に記号として一文字に割り当てられているものを区別しておく必要があります。(高橋 2009) 後者の使用には注意が必要です。

┌ 記号の入力方法による違い

- 半角英字で入力、m²は半角英字と上付き文字で指定
mm, cm, km, mg, kg, cc, m²
- 単位記号表から入力
mm, cm, km, mg, kg, cc, m²

3.1 国際単位系（SI単位）

3.1.1 歴史

多くの国々でまた各産業界や学術分野でそれぞれ都合の良い単位が独自に使われてきた。科学技術が発達し世界的交流が活発になると単位の不統一は商業や工業に大きな支障をきたす。フランス革命最中の1790年フランスのタレーランは国際間の単位統一を唱え、1795年国民議会で長さをメートル、面積をアール、質はグラム g とした「メートル法」が承認される。そしてパリ学士院は赤道と北極間の子午線の長さ（ダンケルクからバルセロナまでの距離）を実際に測量し、その千万分の1を長さの単位とし、1メートルとする。この長さを表示する原器を白金で作し、これが「アルシーブ原器」と呼ばれるものである。しかし1795年に制定したメートル法（長さメートル、質量キログラム³¹）はなかなか普及せず、ときは流れて1872年、「長さ」の原器は子午線とは無関係に「アルシーブ原器」そのものを長さの原器と定めた。6年間、命をかけて測定した子午線の長さは何だったのかということになるのだが、つまりは変化しない安定したものであれば、**どんな長さを1mと定めてもよいのである**。そして1875年19カ国の批准を得て、メートル法の国際条約が締結される。さらにときは流れて1889年については質量の「アルシーブ原器」も水と縁を切り³²、「アルシーブ原器」そのものを質量の原器と定めた。しかし時を経るに従い科学技術や産業が発達し、たくさんの単位が乱立することになる。単に度量衡（長さ、体積、質量）の単位を取り決めただけでは一量一単位³³に対応できなくなってきた。それで度量衡に電流、温度、光度の単位を加えた国際単位系（SI）が1960年、国際度量衡総会³⁴で決議された。一量一単位の首尾一貫した単位系に整えたもので、改良されたメートル法であった。

3.1.2 SI単位とは

SIとは、フランス語“Le Systeme Internationald' Unites”の略称である。そして現在のSI単位とは「7個の基本単位、2個の補助単位そして組立単位」で構成された単位系とされている（第一表）。これをもとに固有名詞のついたSI単位として（第二表）が示されている。そして数の大小を表現する接頭語も決められた（第三表）。しかしSI単位の定義は、はなはだあいまいである。SI単位の解説書には「km、mm、g、mg等はSIの単位であるが、SI単位ではない」という説明をしたものがある。これでは禅問答のようで何のことだかわからない。つまりkm、mmがSI単位でないというのは、組立単位を構成する要素に接頭語を含んだ単位を使用してはならないということである。例えば kg/cm^3 は御法度であり、これは kg/m^3 と基本単位で表し、 kg/cm^3 は $\mu kg/m^3$ とすべしということである。しかしcmを単独で使用する場合には何ら問題はない。また圧力の単位パスカルPa ($kg/m \cdot s^2$)は基本単位だけの組立であり、これが100 kPaとかMPaとなって接頭語がついてもSI単位に代わりはない。つまりSI接頭語を組立単位の構成要素として取り入れてはいけないということである。第三表の「組立単位の表現」の項を見ればわかるように固有名詞のついた組立単位の中に基本単位以外（接頭語）は使用されていない。但しkgは接頭語を含んでいるが、これは例外としてkgを基本単位としている。

3.2 法定計量単位

3.2.1 歴史

現在の計量という言葉は、かつては度量衡と呼ばれていた。つまり、度=ものさし(長さ)、量=枳(体積)、衡=はかり(重さ)である。我が国では尺貫法が基本であったが、1921年(大正10)、『度量はメートル、衡はキログラム』とし、その定義を国際メートル原器、国際キログラム原器によると明示した度量衡法の改正が行われた。それぞれの分野で長い間慣れ親しんできた単位を、一貫性のあるものにするとはいえ、それを強引に行えばまた新たな混乱を生じかねない。故に各国とも SI の導入に長い年月がかかっている。

1951年(昭和26)6月7日、度量衡法は計量法と名前を変えて新しく公布され、翌年3月1日に施行された。それまで度量衡と名の付いた機関はすべて計量に変更された。1974年(S49)には JIS Z 8203「国際単位系及びその使い方」が制定され、そして1992年(H4)には SI を基本として取り入れた計量法に改正された。

3.2.2 現在

SI を取り入れたとはいえ、まだ首尾一貫性のある単位とは距離があるようである。この法では物理量を「物象の状態の量」といい、熟度の高いものとして72量(第五表)を、また熟度の低いものとして17量(第六表)を政令で定めている(これは強制ではなく単なる推奨である。平成11年 経済産業省令189号)。

特殊なものを除けば第五表で基礎的な単位は事足りる。しかし「熟度が高いとか低い」という意味がよく分からない。「使用頻度が低い」あるいは「特殊な用途」というならまだ理解できるが、「低い」というのはなにか「未熟な技術」と言われているような気がしてならない。

接頭語については第三表をそのまま使用する。第五表においてアンダーライン(波)のある単位は SI で認めた物理量以外に計量法で追加した単位である。またアンダーライン(直線)のある単位は物理量として SI 単位にはあるが、種類を追加した単位である。第四表は SI 単位と併用して良い単位が示されている。

72量の物理量については、指定された単位以外は商行為としては使用禁止である。17量(第六表)については政令で定めているが強制ではない。平成12年からこの新しく制定された単位に全面的に移行し、指定以外の単位を用いて行う商行為等には罰則が設けられている。これらとは別に特殊な分野でのみ SI と併用してよい単位が決められ(第七表)、さらに特殊な用途に限って使用が認められている非 SI 単位がある(第八表)。第七表や第八表の単位を認めたのは、長年使用し身体にしみついた単位は簡単には捨てられないということであろう。たとえば血圧(mmHg)を強制的に Pa にしてもあまりメリットがない。病院では酸素ポンプで同じ物理量として圧力を扱うがその単位 Pa と血圧とは技術的な結びつきがあるわけではない。血圧は独立的にその数値自体が問題とされるので、従来のもままでよいということである。このような関係は第八表の単位すべてに言えることであり、狭い技術領域の中だけの問題であり、他との関連がないから従来の単位を使用しても問題はないということであろう。

(1) 一量一単位は守れない?

計量法の精神は「一量一単位」の筈である。しかしこれは言うは易く行うは難しである。SI 単位を用いる際にも、質量にトン(t)を、体積にはリットル(L)を認めており、時間には分、時、日、そして角度には度、分、秒を追加している(第四表)。計量法ではさらに質量の基本単位に g を追加しているが、時間の目(d)は削除している。基本単位に複数の単位を認めることで組立単位は複雑さを増していく。例えば時間の単位に h、min、s を、そして質量の単位に t、kg、g とそれぞれが3種類になると、質量流量の単位は kg/s、t/h など9種類にもなる。だからといってこれを s(秒)だけに限定すると極めて不便なことになる。技術の範囲が広がるにつれ「一量一単位」が簡単ではなくなってくる。やはりどこかに妥協点を見つけないのであろう。

(2) 60 進法

10 進法で統一できれば誰も異論はないはずである。しかし時間と角度だけはその歴史の重みから、捨て切れない。この 60 進法が 10 進法と混在するためにややこしくなり、単位数が増えることになる。これらを 10 進法に変えることは、SI の関係者にも抵抗が大きかったらしい。古代のメソポタミア時代から延々と続いてきた時間と角度だけは、生活と密着していることもあって、これを継承するしかなかったのであろう。5000 年来続いてきた単位だから捨てきれない。「首尾一貫」した単位という理想の実現はやさしいことではないようである。

3.2.3 計量単位の使用上の注意点

1. 接頭語の使用

- (イ) 接頭語を二つ重ねて用いない。
- (ロ) kg は基本単位であるが、これに接頭語つけてはいけない。kkg は t (トン) にする。
- (ハ) 時間、角度、比を表す単位には接頭語をつけない。
- (ニ) 接頭語は正の指数につける。 $\text{N/cm}^2 \rightarrow 10 \text{ kN/m}^2$
- (ホ) 指数は接頭語を含めた全体にかかる。 $\text{Gm}^2 = (\text{Gm})^2$ ($\text{G} \times \text{m}^2$ ではない)
- (ヘ) 大きい指数や小さい指数と接頭語を 2 重に使用しない。 $10^3 \text{ Mm} \rightarrow 100 \text{ Gm}$

2. 文字の使用について

- (イ) 量記号は斜体とし、単位記号は立体文字とする。(量) $F=ma$ 、(単位) 流量 m^3/min
- (ロ) 数字と単位記号の間には活字の幅またはその 1/2 の間隔をあける。
- (ハ) 同じ記号で誤解を招かないよう記述する。
たとえば m (メートル) と m (ミリ) や h (時間) と h (ヘクト) など。
- (ニ) 体積の単位リットルに ℓ は使用しないこと。1 も数字の 1 と紛らわしいので出来るだけ大文字の L を使用する。
- (ホ) 数字の桁数が多い場合には、3 桁ごとに 1/2 字分の空白を置いて読みやすくしてもよい(コンマによって区切ることはしない)。
- (ヘ) 積の形で表される単位は各単位を積の記号(・)で結びつけて表す。誤解の恐れがなければ積記号は省略してもよい。例 $\text{N} \cdot \text{m} \rightarrow \text{Nm}$
- (ト) 商で表される単位は商の記号(/)あるいは負の指数を付けて表す。商記号は一個だけ使用する。分母に複数の単位がある場合それらを()でくくる。
例 J/K , JK^{-1} , $\text{W}/(\text{m} \cdot \text{K})$, $\text{Wm}^{-1}\text{K}^{-1}$

じょう 淨 10^{-25}	せい 清 10^{-22}	くう 空 10^{-21}	きょ 虚 10^{-20}	りつとく 六徳 10^{-19}	せつな 刹那 10^{-18}	だんし 弾脂 10^{-17}	しゅんそく 瞬足 10^{-16}	しゅゆ 須臾 10^{-15}	しゅんじゅん 遠逡 10^{-14}			
もこ 模糊 10^{-15}	ぼく 漠 10^{-12}	びやう 渺 10^{-11}	あい 埃 10^{-10}	じん 塵 10^{-9}	しゃ 沙 10^{-8}	せん 纖 10^{-7}	び 微 10^{-6}	こつ 忽 10^{-5}	し 糸 10^{-4}	もう 毛 10^{-3}	りん 厘 10^{-2}	ぶん 分 10^{-1}
一 1	十 10^1	百 10^2	千 10^3	万 10^4	億 10^8	兆 10^{12}	京 10^{16}	垓 10^{20}	じゅ 壘 10^{24}	じゅう 穰 10^{28}	こう 溝 10^{32}	
かん 澗 10^{36}	せい 正 10^{40}	さい 裁 10^{44}	ごく 極 10^{48}	こうがし 恒河沙 10^{52}	あそうぎ 阿僧祇 10^{56}	なゆた 那由他 10^{60}	ふかしぎ 不可思議 10^{64}	むりょうたいすう 無量大数 10^{68}				

第一表 SI基本単位

	量	単位名	記号	定 義 (測定法)
基本 単位	長さ	メートル	m	光が真空中を(1/299792458)秒の間に進む距離。
	質量	キログラム	kg	国際kg原器の質量をkgとする。
	時間	秒	s	セシウム Cs133の原子の固有振動の回数として求める。
	電流	アンペア	A	電流が流れる二本の直線間の力から求める。
	温度	ケルビン	K	水の三重点の温度の1/273.16。
	光度	カンデラ	cd	単色放射光源の放射強度より求める。
補助 単位	物質質量	モル	mol	炭素12の12gと等しい原子量の物質質量。
	平面角	ラジアン	rad	円の半径に等しい弧の平面角。
	立体角	ステラジアン	sr	球の半径からなる正方形に等しい面積を球表面で得る立体角。

第二表 固有名詞のついた組立単位

量	単位名	記号	SI単位	基本単位の表現
周波数	ヘルツ	Hz		s^{-1}
力	ニュートン	N	J/m	$kg \cdot m/s^2$
圧力、応力	パスカル	Pa	N/m^2	$kg/m \cdot s^2$
仕事、熱量、エネルギー	ジュール	J	$N \cdot m$	$m^2 \cdot kg/s^2$
仕事率、効率、電力	ワット	W	J/s	$m^2 \cdot kg/s^3$
電荷、電気量	クーロン	C	$A \cdot s$	$A \cdot s$
電位、電圧、起電力、電位差	ボルト	V	$W/A, J/C$	$m^2 \cdot kg/s^3 \cdot A$
静電容量	ファラド	F	C/V	$s^4 \cdot A^2/m^2 \cdot kg$
電気抵抗	オーム	Ω	V/A	$m^2 \cdot kg/s^3 \cdot A^2$
コンダクタンス	ジーメンズ	S	A/V	$s^4 \cdot A^2/m^2 \cdot kg$
磁束	ウェーバ	Wb	$V \cdot s$	$m^2 \cdot kg/s^2 \cdot A$
磁束密度	テスラ	T	Wb/m^2	$kg/s^2 \cdot A$
インダクタンス	ヘンリー	H	Wb/A	$m^2 \cdot kg/s^2 \cdot A^2$
セルシウス温度	セルシウス度	$^{\circ}C$	$K - 273.5$	K
光束	ルーメン	lm	$cd \cdot sr$	
照度	ルクス	lx	lm/m^2	
放射能	ベクレル	Bq		s^{-1}
吸収線量	グレイ	Gy	J/kg	m^2/s^2
線量当量	シーベルト	Sy	J/kg	m^2/s^2

第三表 SI接頭語

大きさ	10	10 ²	10 ³	10 ⁶	10 ⁹	10 ¹²	10 ¹⁵	10 ¹⁸	10 ²¹	10 ²⁴
記号	da	h	k	M	G	T	P	E	Z	Y
名称	デカ	ヘクト	キロ	メガ	ギガ	テラ	ペタ	エクサ	ゼタ	ヨタ
大きさ	10 ⁻¹	10 ⁻²	10 ⁻³	10 ⁻⁶	10 ⁻⁹	10 ⁻¹²	10 ⁻¹⁵	10 ⁻¹⁸	10 ⁻²¹	10 ⁻²⁴
記号	d	c	m	μ	n	p	f	a	z	y
名称	デシ	センチ	ミリ	マイクロ	ナノ	ピコ	フェムト	アト	zepto	ヨクト

第四表 SI単位と併用して良い単位

時間	分(min)、時間(h)、日(d)	1 min = 60s、1 h = 3600 s、1 d = 86400 s
体積	リットル(L)	1 L = 10 ⁻³ m ³ (ℓ は使用しない、l はできるだけ使用しない)
質量	トン(t)	1 t = 1000 kg
角度	度(°)、分(')、秒(")	1° = $\pi/180^{\circ}$ rad、1' = $\pi/10800$ 、1" = $\pi/648000$ rad

第五表 計量法で定めた物理量 72 と使用可能な単位

基本量		
1. 長さ (m)	2. 質量 (t, kg, g)	3. 時間 (h, min, s)
4. 電流 (A)	5. 温度 (K, °C, °)	6. 物質量 (mol)
7. 光度 (cd)		
空間時間関連		
8. 角度 (rad, °, ', ")	9. 立体角 (sr)	10. 面積 (m ²)
11. 体積 (m ³ , l or L)	12. 角速度 (rad/s)	13. 角加速度 (rad/s ²)
14. 速さ (m/s, m/h)	15. 加速度 (m/s ²)	16. 周波数 (Hz)
17. 回転速度 (s ⁻¹ , min ⁻¹ , h ⁻¹ , r/min, rpm, r/h, rph)	18. 波数 (m ⁻¹)	
力学関連		
19. 密度 (kg/m ³ , g/m ³ , g/l or g/L)	20. 力 (N)	21. 力のモーメント (N・m)
22. 圧力 (Pa, N/m ² , bar, 気圧 atm)	23. 応力 (Pa, N/m ²)	
24. 粘度 (Pa・s, N・s/m ² , ポアズ P)	25. 動粘度 (m ² ・s, ストークス St)	
26. 仕事 (J, W・s, W・h)	27. 工率 (W)	
28. 質量流量 (kg/s, kg/min, kg/h, g/s, g/min, g/h, t/s, t/min, t/h)		
29. 流量 (m ³ /s, m ³ /min, m ³ /h, l/s, L/s, l/min, L/min, l/h, L/h)		
熱関連		
30. 熱量 (J, W・s, W・h)	31. 熱伝導率 (W/m・K, W/m・°C)	
32. 比熱容量 (J/kg・K, J/kg・°C)	33. エントロピー (J/K)	
電気・磁気関連		
34. 電気量 (C)	35. 電界の強さ (V/m)	36. 電圧 (V)
37. 起電力 (V)	38. 静電容量 (F)	39. 磁界の強さ (A/m)
40. 起磁力 (A)	41. 磁束密度 (T, Wb/m ²)	42. 磁束 (Wb)
43. インダクタンス (H)	44. 電気抵抗 (Ω)	45. 電気のコンダクタンス (S)
46. インピーダンス (Ω)	47. 電力 (W)	48. 無効電力 (var)
49. 皮相電力 (VA)	50. 電力量 (J, W・s, W・h)	51. 無効電力量 (var・s, var・h)
52. 皮相電力量 (VA・s, VA・h)	53. 電磁波の減衰量 (dB)	54. 電磁波の電力密度 (W/m ²)
光・放射・放射能関連、その他		
55. 放射強度 (W/sr)	56. 光束 (lm)	57. 輝度 (cd/m ²)
58. 照度 (lx)	59. 音響パワー (W)	60. 音圧レベル (dB)
61. 振動加速度レベル (dB)		
62. 濃度 (mol/m ³ , mol/l or mol/L, kg/m ³ , g/m ³ , g/l or g/L)		
質量 質量百分率 %, 質量千分率 ‰, 質量百万分率 ppm, 質量十億分率 ppb, 質量 1 兆分率 ppt, 質量千兆分率 ppq		
体積 体積百分率 vol%, %, 体積千分率 vol‰, ‰, 体積百万分率 volppm, ppm, 体積十億分率 volppb, ppb, 体積 1 兆分率 volppt or ppt, 体積千兆分率 volppq or ppq		
水素イオン濃度 ピーエッチ pH。		
63. 中性子放出率 (s ⁻¹ , min ⁻¹)	64. 放射能 (Bq, Ci)	65. 吸収線量 (Gy, rad)
66. 吸収線量率 (Gy/s, Gy/min, Gy/h, rad/s, rad/min, rad/h)	67. カーマ (Gy)	
68. カーマ率 (Gy/s, Gy/min, Gy/h)	69. 照射線量 (C/kg, R)	
70. 照射線量率 (C/kg・s, C/kg・min, C/kg・h, R/s, R/min, R/h)		
71. 線量当量 (Sv, rem)	72. 線量当量率 (Sv/s, Sv/min, Sv/h, rem/s, rem/min, rem/h)	

第六表 17の物理量について省令で定めた単位

1. 織度 (kg/m、デニール D、テクス tex)	2. 比重 (無次元、重ポード Bh、日本酒度)		
3. 引張強さ (Pa、N/m ²)	4. 圧縮強さ (Pa、N/m ²)	5. 硬さ ()	
6. 衝撃値 ()	7. 粒度 m	8. 耐火度 ()	9. 力率 (無次元)
10. 屈折度 (m ⁻¹ 、ディオプター Dptr または D)	11. 湿度 (%、℃ <露点>)		
12. 粒子フルエンス (m ⁻²)	13. 粒子フルエンス率 (m ⁻² ・s ⁻¹ 、m ⁻² ・min ⁻¹)		
14. エネルギーフルエンス (J/m ² 、W・s/m ²)	15. エネルギーフルエンス率 (J/m ² ・s、W/m ²)		
16. 放射能面密度 (Bq/m ² 、Ci/m ²)			
17. 放射能濃度 (Bq/m ³ 、Bq/kg、Bq/g、Bq/l、Bq/L、Ci/m ³ 、Ci/kg、Ci/g、Ci/l、Ci/L)			

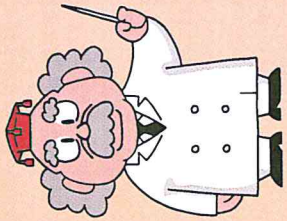
第七表 特殊な分野でのみSIと併用が許されている単位 (JIS Z8203)

長さ	天文単位 1AU = 1.4959787066 × 10 ¹¹ m、 (太陽と地球の距離) パーセク 1 pc = 3.0857 × 10 ¹⁶ m
原子質量	原子質量単位 1u = 1.660565 ± 0.0000086 × 10 ⁻²⁷ kg
エネルギー	電子ボルト 1eV = 1.6021892 × 10 ⁻¹⁹ J
流体の圧力	バール (bar) 1bar = 10 ⁵ Pa

第八表 特殊な用途に限って使用が認められている非SI単位

長さ	海里 (M, nm) 1M = 1852 m、 [海面または空中における長さ] オングストローム (Å) 1 Å = 10 ⁻¹⁰ m [電磁波、膜厚、表面の粗さ、結晶格子]
質量	カラット(ct, car) 1 ct = 200 mg [宝石の質量] もんめ(mon) 1もんめ = 3.75 g [真珠] トロイオンス (oz) 1 oz = 31.1035 g [金、銀等]
角度	点(pt) 1 pt = 11.25° [航海、航空]
面積	アール(a) 1 a = 100 m ² [土地面積] ヘクタール(ha) 1 ha = 10000 m ² ["]
体積	トン (T) 1 T = 2.83 m ³ [船舶の体積]
速さ	ノット (kt, kn) 1 kt = 0.514444 m/s = 1.851984 km/h [航海、航空]
加速度	ガル (Gal) 1 Gal = 0.01 m/s ² = 1 cm/s ² [測地学] ミリガル (mGal) 1 mGal = 0.00001 m/s ² [地球物理学]
圧力	トル (Torr) 1 Torr = 1mmHg [医療、生体内圧] ミリトル (mTorr) 1 mTorr = 0.001 mmHg ["] マイクロトル (μ Torr) 1 μ Torr = 10 ⁻⁶ mmHg ["] 水銀柱ミリメートル (mmHg) 1 mmHg = 133.32 Pa [血圧測定]
熱量	カロリー(cal) 1 cal = 4.1868 J [栄養関係] キロカロリー (kcal) ["] メガカロリー (Mcal) ["] ギガカロリー (Gcal) ["]

国際単位系 (SI) FAQ



Q SIとはそもそも何でしょうか。

A SIとは「国際単位系」という意味のフランス語 (Le Système International d'Unités) の頭文字です。国際的に決められた単位系です。

Q なぜSIを使うのですか。

A 以前は、各国・各分野において様々な単位が用いられていたため、国際化が進むにつれて混乱を招きました。そこで、全世界の単位を統一する必要があるとSI単位が生まれ、SI単位を使用することによって世界の共通の量が認識されます。

Q SIを使わないとどうなるのですか。

A 学術論文などではSI単位への修正を要求されます。国際的に認められないため、誌面に換算を必要とすることになり、また誤解を招く恐れがあります。

Q ある量について、SI単位あるいはSIと併用される単位が推奨されている場合の優先順位はどうなっていますか。

A 複数の単位記号が認められている量については、それらの優先度は特に定められていませんが、SI単位を使用することが推奨されています。

Q SI単位への切替えに伴う数値を扱う場合に、けた数はどのように考えればよいのでしょうか。

A 換算する場合には、有効数字を考慮し、四捨五入のルールが採られる。また、換算に伴う不確かさの値も同時に考慮しておく必要があります。

Q SIと併用される非SI単位にも換算をつけて使えますか。

A SIと併用しても可とする非SI単位としては、体積のリットル (L) やエネルギーのeVなどがあります。これらと換算値を組み合わせて使用することは可能です。
例：エネルギー/ミリリットル (mL) エネルギー/ミリリットル (mJ/mL)

Q 角度 (平面角) はラジアン (rad) でしか表せないのでしょうか。

A 角度の単位として rad のほかに、度 (°)、分 (′)、秒 (″) がSI単位と併用される単位として認められています。

Q 温度の単位の使い分けはどうなっていますか。

A SIの基本量の一つである熱力学温度の単位はケルビン (K) ですが、温度としてケルビンのほかに摂氏 (°C) も認められています。ただし、deg の記号は認められていません。

Q 体積を表すリットルの単位として L は使えますか。

A SI単位と併用してよい単位と体積のリットルが異なります。その単位記号としては、小文字の l (エル) と大文字の L が認められています。ところが、数字の 1 との判別を容易にするため、しばしば、小文字の l (エル) の筆記体で対体の **l** が用いられています。しかし、SIにおいて記号は正しくありません。なお、単位記号のフォント (字体) に関する制限はな

いため、立体的なものは、間違いないと言えませんが、他の単位で筆記体を使用しないことの一貫性を考えると、適切ではありません。数字の 1 との判別を避けることを考えると、大文字の L を推奨します。

Q 体積はどのような単位で表せばよいのでしょうか。

A 体積は本来質量を表すものから、その単位は従来どおりキログラム (kg) です。したがって、体積計をはじめとするとはかりの目盛も kg です。体積を表す単位が力の単位 ニュートン (N) に変わるわけはありません。

Q 濃度の単位として、比率を示す ppm や % を使うことは可能ですか。

A 濃度を7つのSI基本単位で表すと、mol/m³ または kg/m³ ですが、換算値を用いて、mmol/m³、μg/m³ などと表記することもできます。また非SI単位の L を用いて mol/L や g/L も利用が認められています。比率を示す ppm や % は単位ではありません。% は数学的記号として国際的に認められている記号で、ppm は英語で百万分の一を表す形容詞としてしばしば利用されます。% や ppm を用いる場合には、値を認識しようとする無次元量が何なのかを明確にする必要があります。また、ppb や ppt は普遍に依存するので利用を避けてください。

Q 電力量の単位はどのような単位で使えばよいのでしょうか。

A 電力量はエネルギーや仕事に相当しますので、SI単位はジュール (J) です。また、SIと併用される単位として、ワット時 (Wh) が認められています。



国際単位系 (SI) は世界共通のルールです



— 国際文書 第8版(2008)対応 —

独立行政法人
産業技術総合研究所
計量標準総合センター
National Metrology Institute of Japan



国際単位系 (SI) の単位記号

量	名 称	記 号
基本単位		
長さ	meter メートル	m
質量	kilogram キログラム	kg
時間	second 秒	s
電流	ampere アンペア	A
熱力学温度	kelvin ケルビン	K
物質質量	mole モル	mol
光度	candela カンデラ	cd
補助単位		
平面角	radian ラジアン	rad
立体角	steradian ステラジアン	sr
組立単位の例		
面積	square meter 平方メートル	m ²
体積	cubic meter 立方メートル	m ³
	liter リットル	l
速さ	meter per second	m/s
加速度	meter per second squared	m/s ²
波数	reciprocal meter	m ⁻¹
密度	kilogram per cubic meter	kg/m ³
電流密度	ampere per square meter	A/m ²
磁界の強さ	ampere per meter	A/m
(物質質量の) 濃度	mole per cubic meter	mol/m ³
輝度	candela per square meter	cd/m ²
固有の名称をもつ組立単位		
周波数	hertz ヘルツ	Hz
力	newton ニュートン	N
圧力, 応力	pascal パスカル	Pa
エネルギー, 仕事, 熱量	joule ジュール	J
仕事率, 工率, 動力, 電力	watt ワット	W
電荷, 電気量	coulomb クーロン	C
電位, 電位差, 電圧, 起電力	volt ボルト	V
静電容量, キャパシタンス	farad ファラド	F
電気抵抗	ohm オーム	Ω
(電気の) コンダクタンス	siemens ジーメンズ	S
磁束	weber ウェーバ	Wb
磁束密度, 磁器誘導	tesla テスラ	T
インダクタンス	henry ヘンリー	H
セルシウス温度	centigrade (セルシウス) 度	°C
光束	lumen ルーメン	lm
照度	lux ルクス	lx
放射能	becquerel ベクレル	Bq
吸収線量	gray グレイ	Gy